



ANNUAL REPORT

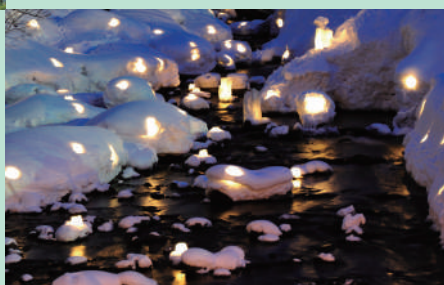
2023年度 (令和5年度)

vol.10



SAISEIKAI

OTARU
HOSPITAL



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

令和5年度年報 目次

巻頭言	1	・手術・中材看護課	69
理念・基本方針・沿革・施設概要・組織図	2	・地域看護課	71
I 年間主要行事		・教育看護課	73
令和5年度 年間行事	6	事務部	75
年度表彰	7	・総括	75
・永年勤続	7	・総務課	76
令和5年度購入備品	10	・経理課 経理グループ	78
II 診療実績		・経理課 用度購買グループ	79
1. 外来患者数	12	・医事課	80
2. 入院患者数	13	・医療クラーク課	82
3. 紹介率・逆紹介率	15	・健康診断課	84
4. 救急搬送件数	15	・地域連携課	85
5. 手術件数	15	・情報システム課	86
学生受け入れ	16	各委員会・診療チーム・その他	88
・診療部	16	・NST委員会	88
・医療技術部	18	・院内感染予防対策委員会、感染対策室、ICT、AST	89
・看護部	20	・医療安全管理委員会、医療安全管理室	93
III 部門報告		・褥瘡対策委員会	96
診療部	21	・クリニカルパス委員会	98
・総括	21	・患者サービス検討委員会	100
・内科・消化器内科	22	・内分泌・糖尿病診療センター	102
・循環器内科	23	・緩和ケアチーム	103
・脳神経内科	24	・認知症ケア推進室	105
・外科・消化器外科	26	・手・肘センター	107
・整形外科	27	・北海道済生会 支部事業	109
・泌尿器科	28	IV 教育・研究報告	
・緩和ケア内科・腫瘍精神科・精神科	29	初期研修・地域研修	110
医療技術部	30	論文発表	114
・総括	30	著書	114
・薬剤室	31	学会・研究発表	115
・臨床検査室	34	講義（大学・専門学校他）	117
・放射線室	36	講演	118
・リハビリテーション室	39	座長	119
・栄養管理室	45	認定資格	120
・臨床工学室	48	V 職員福利厚生会	
看護部	51	総括	125
・総括	51	部活動	126
・3A病棟	53	・野球部	126
・3B病棟	55	・釣り部	127
・4A病棟	57	・自転車・陸上競技部	128
・4B病棟	61	院内保育所「なでしこキッズクラブ」	129
・5B病棟	63	売店・食堂	132
・外来看護課	65	あとがき	133
・透析看護課	67		



令和5年度 済生会小樽病院年報発刊にあたり

病院長 和田 卓郎

時が立つのは早いもので、令和6年もあっという間に12月になってしまいました。令和6年は済生会小樽病院にとって節目の年となりました。7月に北海道済生会は創立100周年を迎えました。8月22日に開催した記念式典には多くの方にご出席いただき暖かいお言葉をいただきました。100年間、当院を支え、ご指導くださった皆様に感謝し、「人と街、心をつなぐ北海道済生会、次の100年へ」のスローガンの下、職員一同、心を新たにしたところです。

4月には医師の働き方改革が施行されました。タスク・シフト/シェアの試みとして、院内研修と認定を受けた臨床工学士が全身麻酔管理のアシストをする仕組みをスタートしました。地域の病院、診療所、介護施設との連携をより強化するために、小樽市立病院からの下り搬送の積極的な受け入れ、紹介受診重点医療機関、在宅療養後方支援病院の取得、介護施設との連携協定締結などを行いました。人材育成面では、基幹型の臨床研修病院に移行初年度になる令和7年度の研修医がフルマッチしました。250床規模病院としては、この1年ずいぶん頑張ったと思います。日常業務だけでも多忙な中、これら変革をやり抜いた職員に感謝しています。

今回お届けするのは、令和5年度、2023年度の年報です。2023年5月8日には新型コロナウイルス感染症が感染症法の第5類に引き下げされ、対応が大きく変わりました。2024年1月1日には能登半島地震が発生し、奥能登地域を中心に北陸地方に甚大な被害をもたらしました。当院も災害地支援のため看護職員を派遣しました。年報には年度内のトピックス、実績・業績の報告に加え、各部門の職員のオフの生活も楽しく掲載しています。

当院の年報は令和4年度版より紙版からホームページ内掲載に移行しております。ぱらぱらとページをめくりながら読むというわけにはいきませんが、お時間のある時にぜひ閲覧していただければ幸いです。

令和6年12月

————— 法 人 の 理 念 —————

「施薬救療の精神」

(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

————— 院 是 —————

恕：(じょ)

(意味：おもいやり)

————— 済生会小樽病院の理念 —————

かかって良かったと思う病院

働いて良かったと思う病院

地域と共に歩む病院

————— 基 本 運 営 方 針 —————

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が「恵まれない人々のために施薬救療によって生活困窮者を救済しよう」と明治44（1911）年に設立しました。以来110年以上の活動の中で「施薬救療の精神」という済生会理念の下、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約66,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を **済**（すく）う
- 医療で地域の **生**（いのち）を守る、
- 医療と福祉、**会** を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はその願って、いのちに寄り添い続けます。

生活困窮者支援の積極的推進

済生会設立の目的は、生活に困っている人を医療で助けることです。

生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料にしたり減額したりする「無料低額診療事業」を積極的に行っています。令和5年度は延べ200万人が対象となりました。

済生会生活困窮者支援「**なでしこプラン**」を実施しています。対象者をホームレスやDV被害者、刑務所出所者、外国人等へも広げ、訪問診療、健康診断、予防接種等を無料で行う事業で、5年度は延べ22万人に実施しました。事業名の「なでしこ」は本会の紋章に由来しています。

さらに、済生丸が離島を回って診療を行う瀬戸内海巡回診療など、離島やへき地での医療にも力を注いでいます。

最新の医療で地域に貢献

済生会は、いのちの面から地域を支えます。最新の医療機器、高度な技術、手厚い看護。超急性期から亜急性期、慢性期・リハビリと段階に合わせて対応し、常に患者の立場に立った医療を提供します。

災害時には地域を越えてスタッフを派遣。救命救急から慢性期、そして生活再建に向けた心のサポートまで、緊急時も段階に合わせた支援活動を展開しています。

医療と福祉、切れ目なく

医療と福祉は密接な関係にあります。済生会は医療・保健・福祉を総合して提供できる団体です。全組織が連携し、施設・設備・人というすべての資源を動員して切れ目のない、シームレスなサービスを提供しています。

そして、高齢者や子どもたち、障害者が当たり前になり、共に生きる地域づくりに貢献します。

病院の沿革

大正13年	7月	済生会小樽診療所開設「小樽市手宮町1丁目20番地」
昭和27年	12月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院「小樽市梅ヶ枝町38番地」病床数22床5科（内科、小児科、外科、産婦人科、眼科）
昭和30年	1月	増床（62床 一般32床、結核30床）
昭和30年	9月	北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所併設
昭和31年	4月	病院の一部焼失
昭和33年	2月	病棟、管理棟増改築（33年棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床（185床）
昭和36年	1月	整形外科開設
昭和40年	11月	病棟、管理棟増改築（南棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡
昭和41年	4月	皮膚・泌尿器科開設
昭和48年	12月	乳児保育所併設
昭和51年	7月	増床（277床 一般140床、結核31床、老人106床）耳鼻咽喉科開設
昭和55年	4月	人工透析開始（268床）
昭和56年	9月	結核病棟廃止（237床）
昭和58年	1月	増床（311床 一般131床、老人180床）
昭和59年	2月	病棟、管理棟増改築（北棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡
平成	2年	10月 看護師宿舍増改築
平成	5年	6月 病棟、管理棟増改築（中央棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡
平成	6年	5月 麻酔科増設
平成10年	10月	循環器内科開設 小児科廃止
平成13年	12月	一部療養病床へ転換（289床 一般245床、療養44床）
平成14年	4月	MRI（1.5テスラ）導入
平成14年	10月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更
平成15年	3月	北海道済生会小樽病院附属 准看護師養成所 閉校
平成15年	10月	体外衝撃波結石破碎装置導入
平成15年	11月	皮膚科廃止
平成16年	4月	神経内科開設
平成17年	3月	産婦人科廃止、眼科廃止
平成18年	6月	院内全面禁煙開始
平成18年	9月	一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスCT（16列）導入
平成20年	7月	療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更（44床から42床へ） 回復期リハビリテーション入院料2取得（42床）
平成21年	1月	回復期リハビリテーション入院料1取得
平成21年	7月	医療画像管理システム（PACS）導入
平成22年	9月	臨床研修病院（協力型）に指定
平成23年	12月	新病院建築工事着工
平成24年	7月	MRIバージョンアップ
平成24年	9月	オーダーリングシステム運用開始
平成24年	10月	マルチスライスCT（64列）に更新
平成25年	2月	一般病床入院基本料7対1取得
平成25年	8月	北海道小樽市築港10番1に移転。延17704.29㎡。許可病床数、一般258床（うち回復期リハビリ病床50床）婦人科（女性診療科）新設。電子カルテ運用開始
平成26年	4月	指定居宅介護支援事業所はまなす併設
平成26年	10月	地域包括ケア病棟（53床）開設
平成27年	4月	地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始 婦人科廃止 人工透析内科開設
平成30年	2月	特定行為研修 指定研修機関に指定
令和	元年	12月 訪問看護ステーション併設
令和	2年	3月 外科手術用3D内視鏡システム導入
令和	2年	9月 重症心身障がい児（者）施設みどりの里統合 統合により小児科標榜
令和	2年	10月 MRI更新
令和	3年	3月 地域ケアセンター 済生会ビレッジに移転
令和	3年	4月 緩和ケア内科、精神科、腫瘍精神科開設
令和	3年	11月 CT更新
令和	5年	4月 通院支援アプリ導入
令和	5年	12月 会計表示システム、自動精算機導入
令和	6年	3月 臨床研修病院（基幹型）に指定

病院概要

名	称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所	在	地 〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電	話	／FAX 電話番号：0134-25-4321 FAX番号：0134-25-2888
管	理	者 病院長 和田 卓郎
病	院	種 別 一般病院
敷	地	面 積 19,147.41平方メートル
延	べ	床 面 積 26,677.00平方メートル （鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、エネルギー棟2階建て、みどりの里6階建て）
駐	車	ス ペ ース 147台
そ	の	他 施 設 保育施設
許	可	病 床 数 一般病床 378床（地域包括ケア病棟53床、回復期リハビリテーション病棟50床、重症心身障がい児（者）病棟120床）
診	療	科 目 内科 消化器内科 循環器内科 脳神経内科 外科 消化器外科 整形外科 泌尿器科 人工透析内科 放射線科 リハビリテーション科 緩和ケア内科 精神科 腫瘍精神科 麻酔科（標榜医：数馬 聡） 小児科
外	来	診 療 時 間 【受付】 （午前の部）8時50分～11時30分 （午後の部）12時40分～16時00分 【診療時間】 （午前の部）9時00分～12時40分 （午後の部）13時40分～17時20分
面	会	時 間 【平日】 13時00分～20時00分 【土曜・日曜・祝日】 10時00分～20時00分

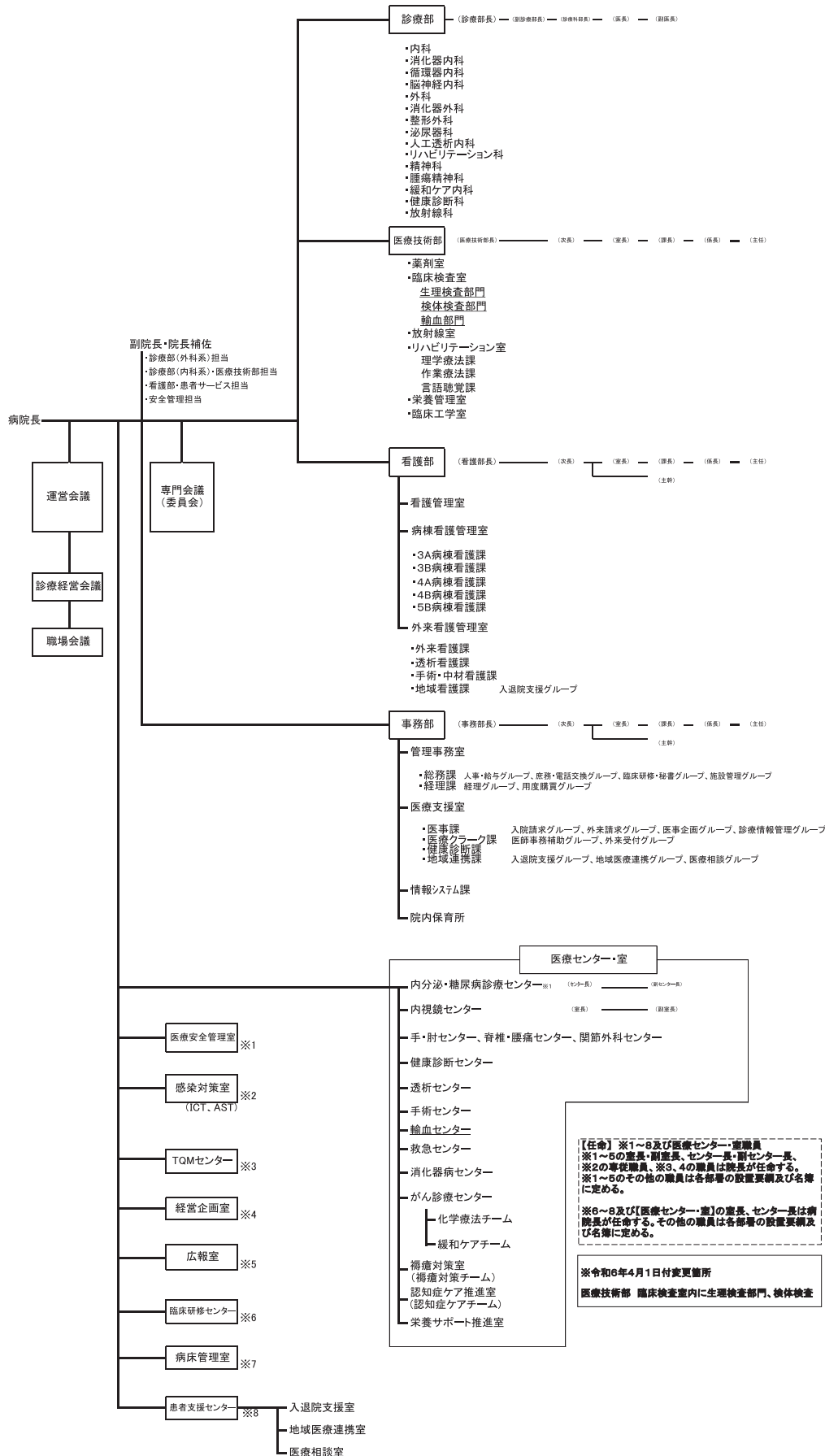
認定施設一覧

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設
- ・看護師特定行為研修指定研修機関

※病院概要については令和6年3月31日時点掲載

組織図

令和6年4月1日



I 年間主要行事

令和5年度 年間行事

4月	3日(月)	辞令交付式 新採用者研修会
	4日(火)	病院長新年度方針 (ZOOM配信)
	21日(金)	小樽市 市長・市議 不在者投票
5月	22日(月)、23日(火)	病院機能評価受審
6月		
7月	2日(日)	第41回北海道・東北ブロック親善ソフトボール大会(倶知安)
	11日(火)	献血車 来院
	29日(土)	潮まつり ねりこみ
8月	4日(金)	保育所夏祭り
	5日(土)	済生会ウエルネスフェア
9月	22日(金)	済生会東北北海道ブロック会議 (山形)
10月	13日(金)、14日(土)	全国済生会購買担当者研修会
	20日(金)	保育所ハロウィン
11月	11日(土)	済生会生活困窮者問題シンポジウム
	27日(月)	QC大会
	28日(火)	献血車 来院
12月	9日(土)	幹部研修会
	15日(金)	保育所クリスマス
	21日(木)	永年勤続表彰式並びに職員福利厚生会忘年会
	29日(金)	仕事納め
1月	4日(木)	仕事始め 病院長年頭挨拶
	20日(土)	ミドルマネジメント研修
	26日(金)	保育所お楽しみ会
	27日(土)、28日(日)	第76回済生会学会・令和5年度済生会総会(熊本)
2月		
3月	22日(金)	保育所お別れ会
	29日(金)	辞令交付式

年度表彰

●永年勤続

30年表彰

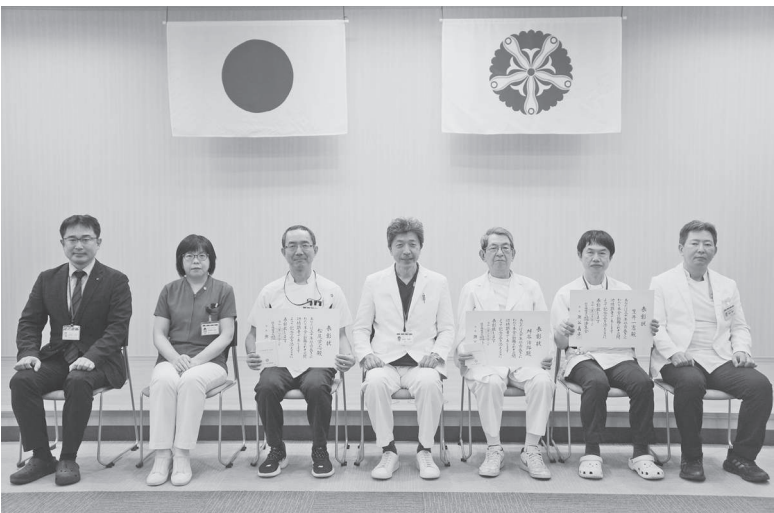
医師	舩松	谷	治	郎
医療技術部次長	笠	尾	覚	志
薬剤師		井	一	憲

20年表彰

副院長	水	越	常	徳
副診療部長	木	村	雅	美
薬剤室技術課長	鈴	木	景	就
看護師	川	崎	雅	美
看護師	太	田	聖	子
看護師	平	岩	悠	子
看護師	山	口	千	恵
看護師	長	崎	尚	子
看護助手	小	池	真	弓
看護助手	小	原	博	美
看護助手	松	田	由	美子

10年表彰

事務室長	清	水	雅	成
看護主幹	石	渡	明	子
臨床検査室技術課長	木	谷	洋	介
経理課事務係長	木	村	卓	司
看護師	金	田	匡	代
看護師	山	本		信
看護師	河	原	美	幸
薬剤師	芦	名	正	生
薬剤師	佐	渡		望
薬剤師	但	木	勇	太
臨床検査技師	高	橋	賢	規
理学療法士	村	井	海	夢
理学療法士	山	平	健	人
理学療法士	川	尻		唯
作業療法士	林		知	代
作業療法士	小	島	希	望
言語聴覚士	加	賀	潤	輝
臨床工学技士	中	村	友	洋
事務職員	世	戸	収	子
事務職員	田	宮	千	晶
事務職員	伊	藤	紀	美江
事務職員	吉	田	理	恵
社会福祉士	田	中		諭
医療技術部助手	森		尚	美



4.3 辞令交付式



7.29 潮まつり ねりこみ



7.2 第41回北海道・東北ブロック 親善ソフトボール大会（倶知安）



8.4 保育所夏祭り



8.5 済生会ウエルネスフェア



10.20 保育所ハロウィン



12.15 保育所クリスマス



12.21 永年勤続表彰



1.26 保育所お楽しみ会



令和5年度購入備品



令和5年4月4日
シリンジポンプ



令和5年5月9日
お薬手帳出力用サーマルラベルプリンタ



令和5年5月17日
運動負荷血圧計タンゴM2



令和5年6月12日
低周波治療器IVES



令和5年6月30日
アースロスコープ4mm



令和5年9月9日
電動ベッド



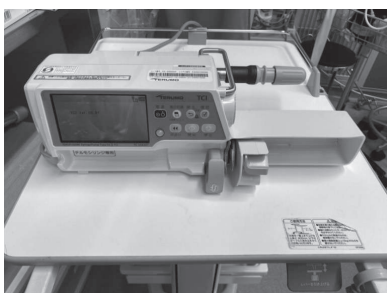
令和5年6月23日
2F機会庫2内スプリンクラー増設



令和5年10月10日
プロンビュー保護ヘルメット



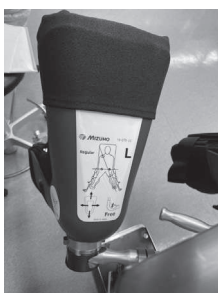
令和5年9月7日
内視鏡超音波プローブ



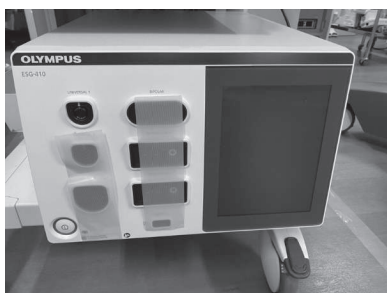
令和5年10月20日
シリンジポンプ



令和5年10月20日
ベッドサイドモニター



令和5年10月20日
レビテーター II



令和5年10月25日
高周波手術装置



令和5年10月31日
電メスアナライザー



令和5年10月31日
スコープ 1.9mm 30°



令和5年11月29日
複合機



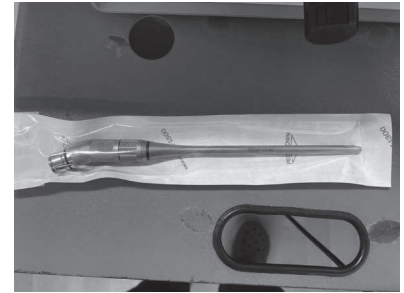
令和5年11月29日
薬袋用プリンタ



令和5年11月13日
タニネット



令和5年11月20日
AED



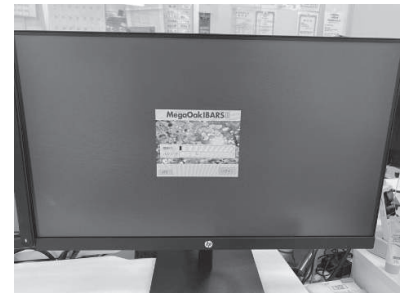
令和5年12月6日
シグネチャー



令和5年12月6日
ネットワークビデオレコーダー



令和6年1月12日
NECコミュニケーションサービス



令和6年1月22日
医事会計システム



令和6年1月22日
再来受付機



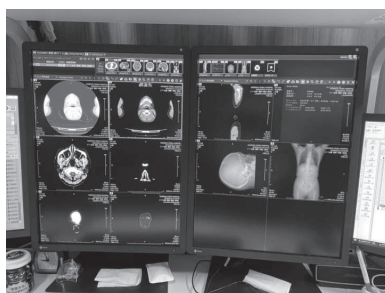
令和6年1月22日
自動精算機



令和6年1月22日
会計表示システム



令和6年2月26日
全文検索



令和6年2月26日
SAI Viewer

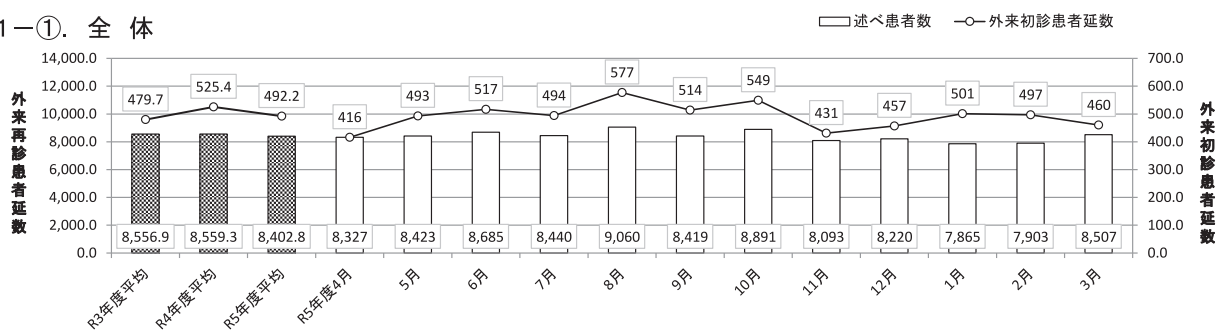


令和6年3月29日
券売機

Ⅱ 診療実績

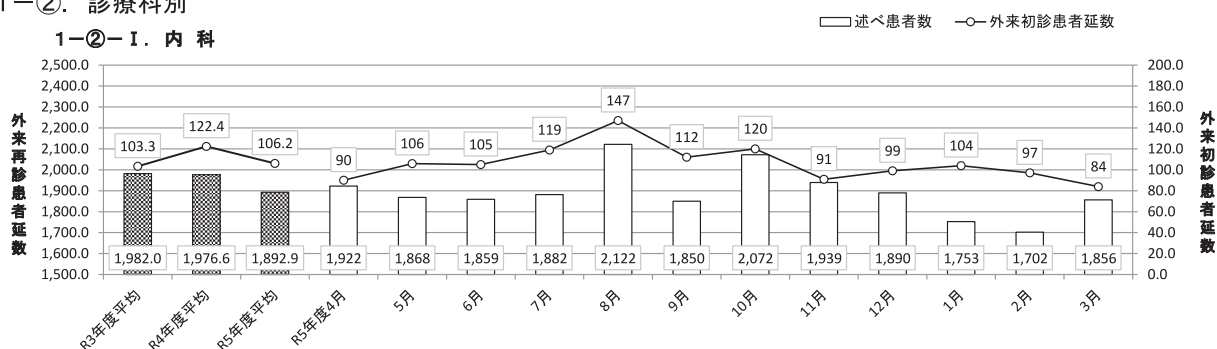
1. 外来患者数

1-①. 全体

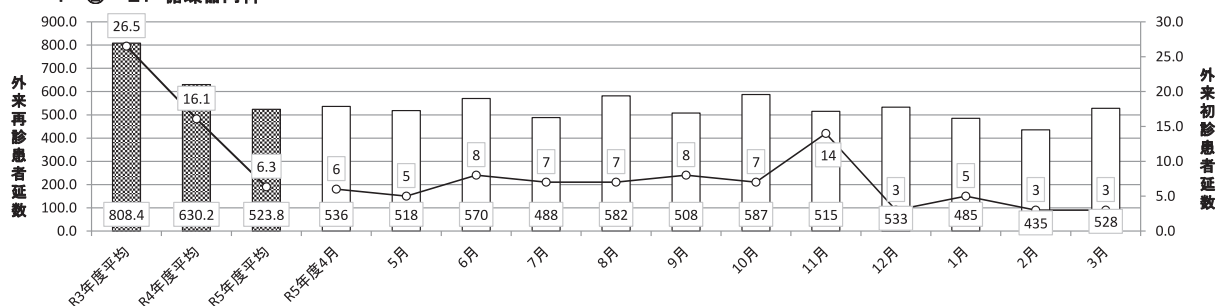


1-②. 診療科別

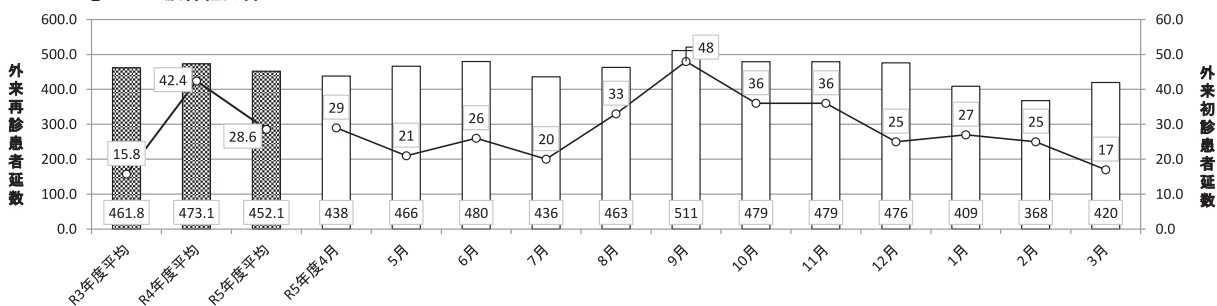
1-②-I. 内科



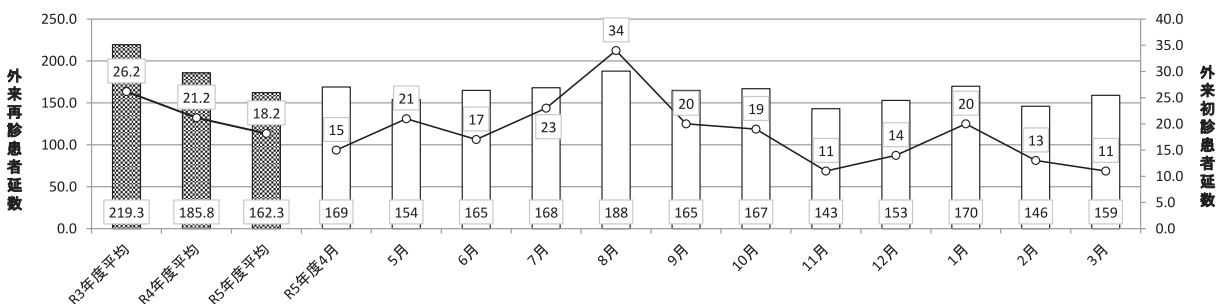
1-②-II. 循環器内科

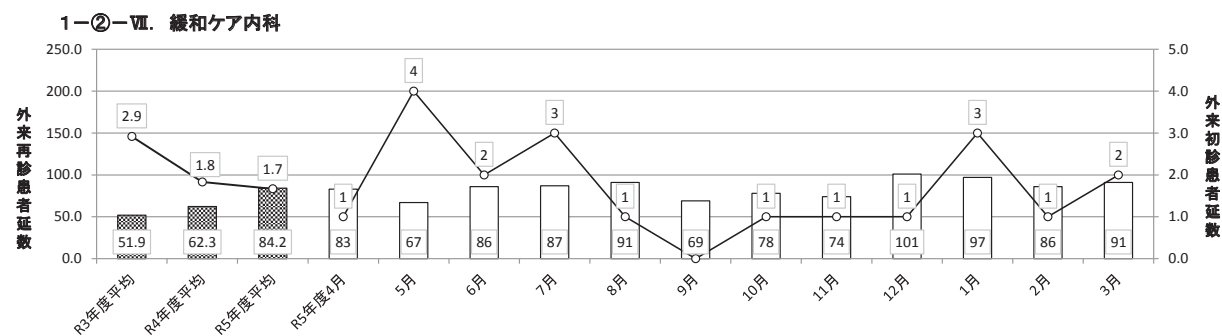
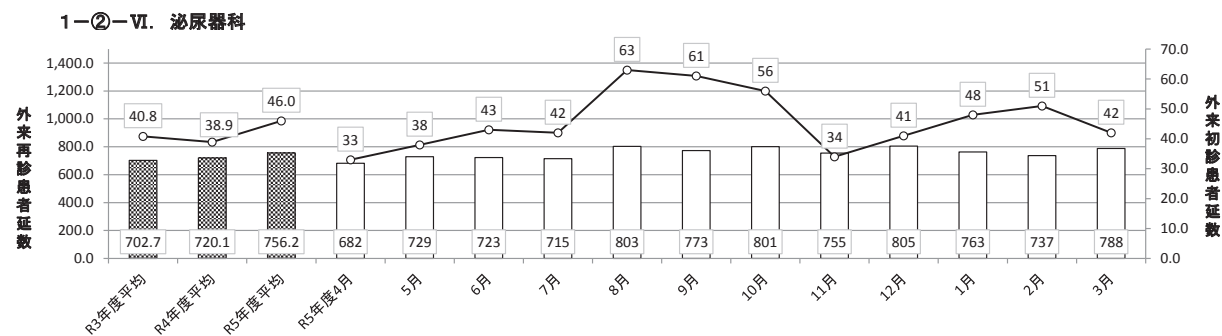
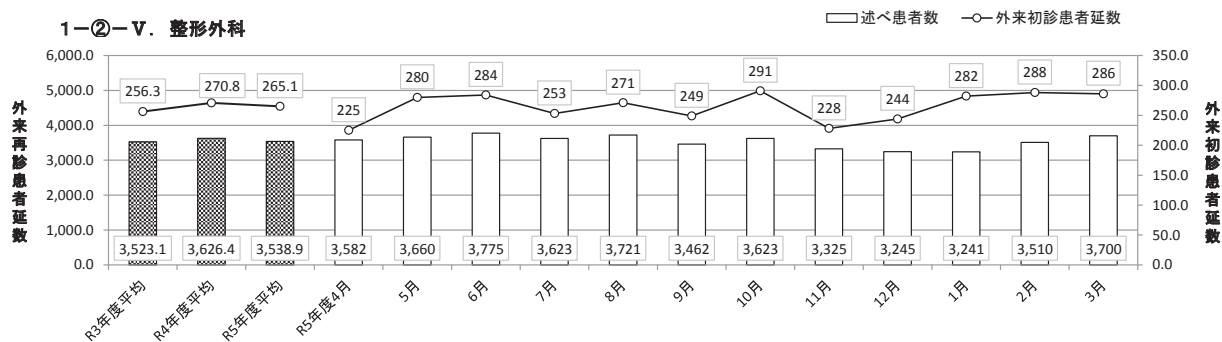


1-②-III. 脳神経内科



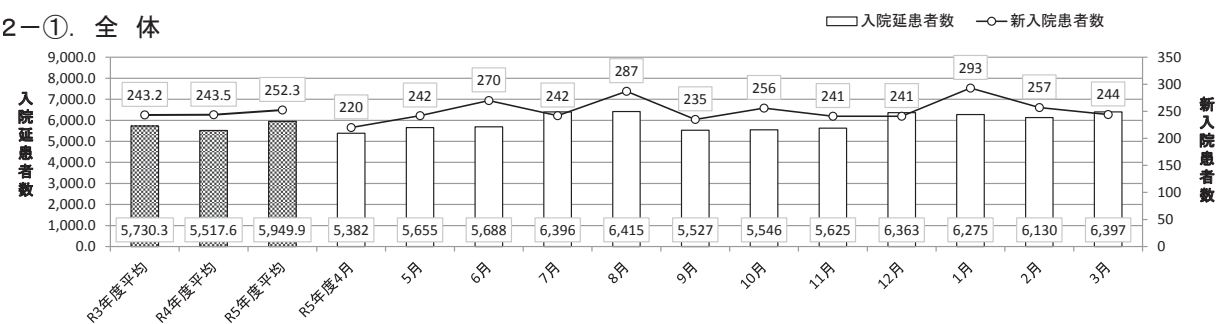
1-②-IV. 外科





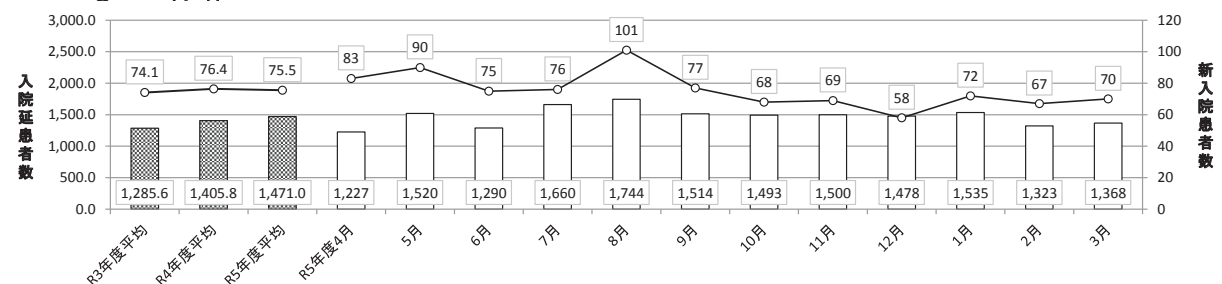
2. 入院患者数

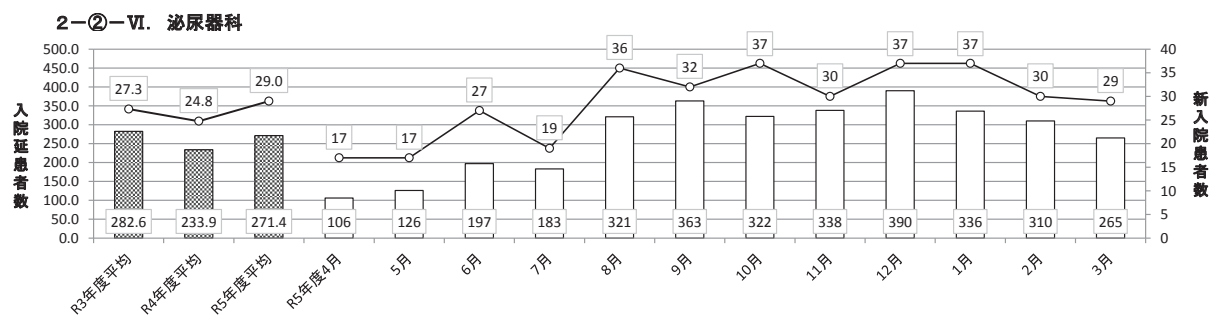
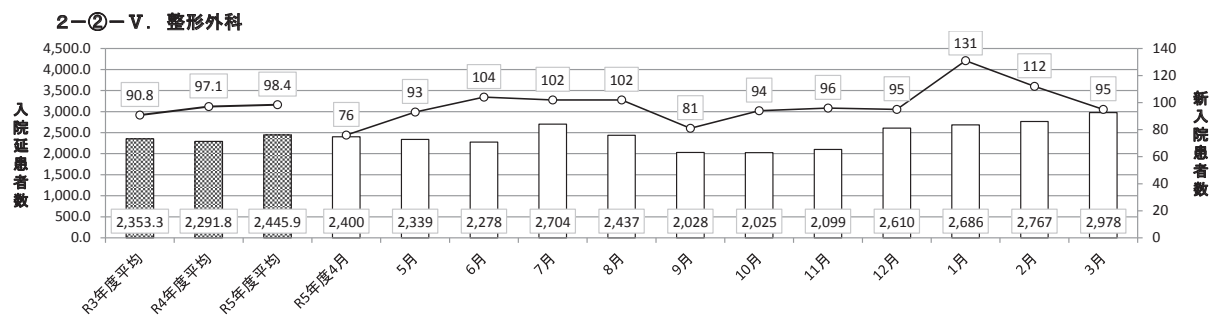
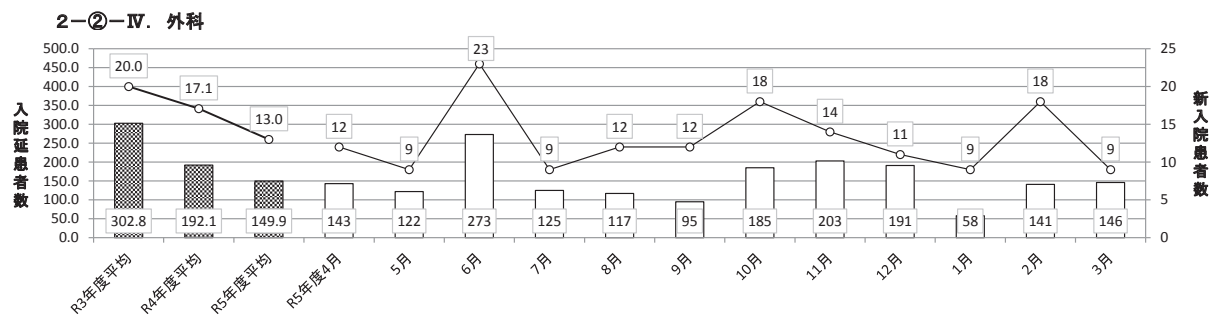
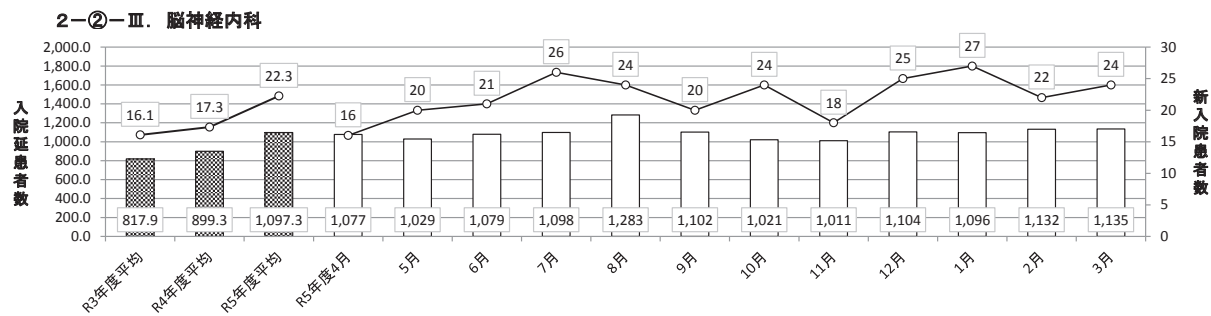
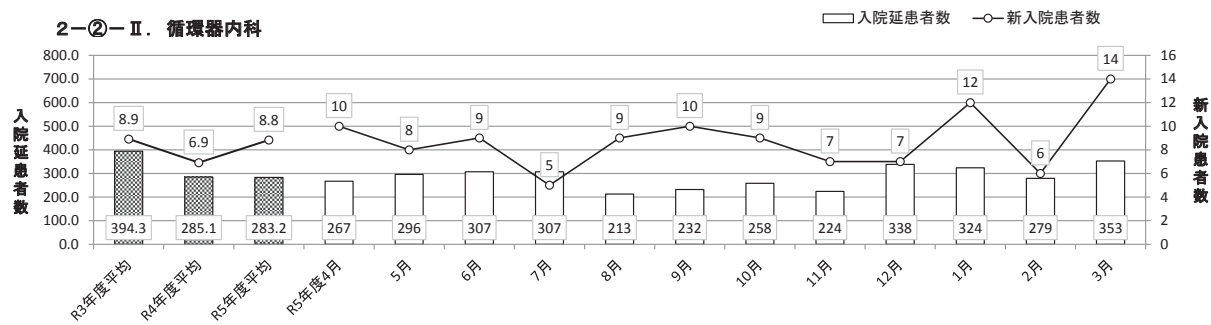
2-①. 全 体

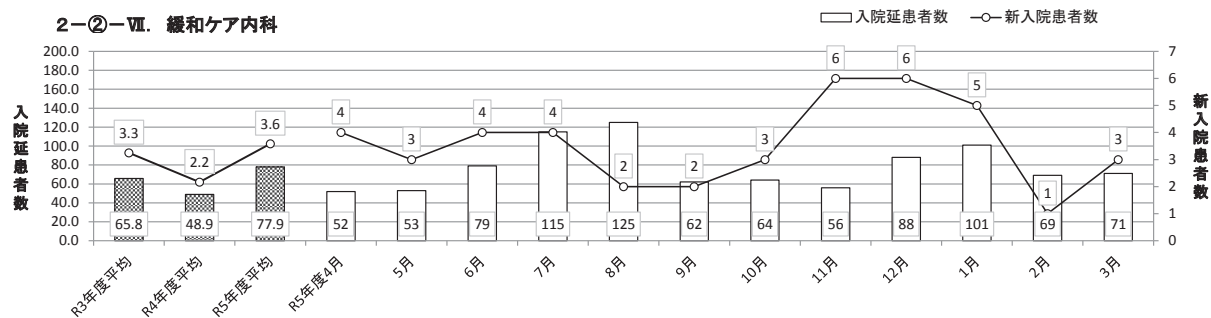


2-②. 診療科別

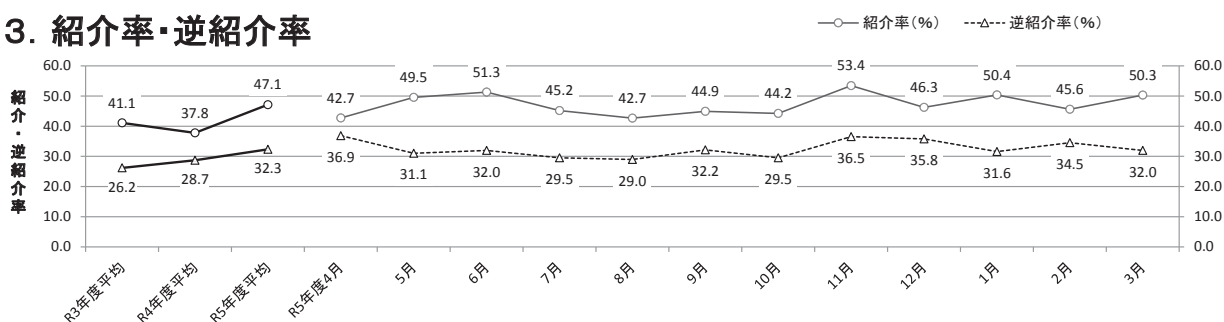
2-②-I. 内 科



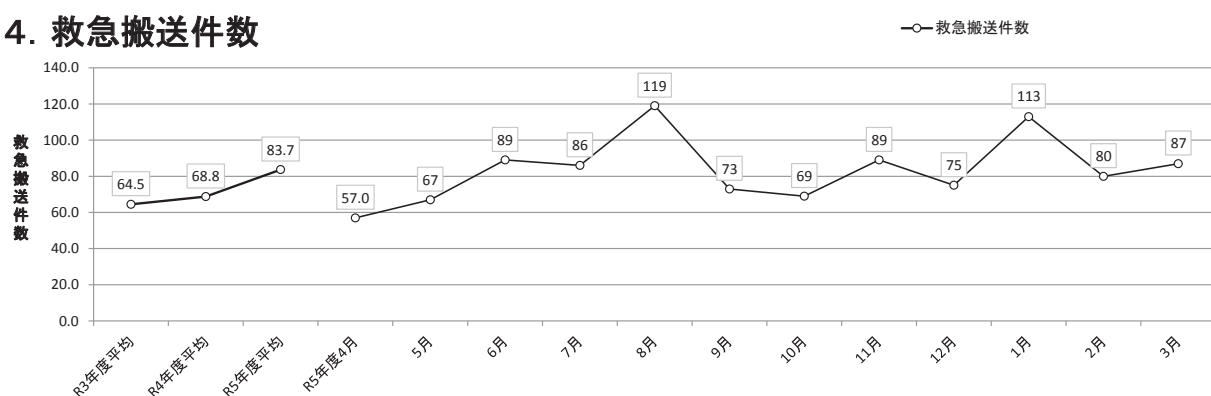




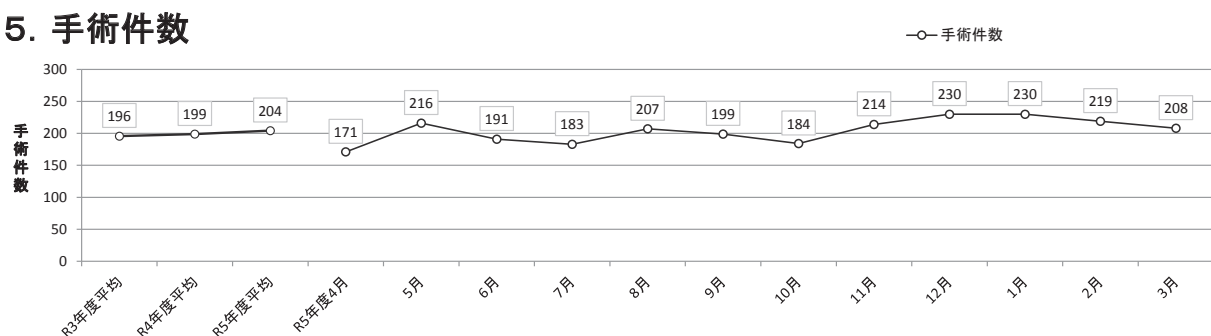
3. 紹介率・逆紹介率



4. 救急搬送件数



5. 手術件数



学生受け入れ

■ 診 療 部

令和5年度 実習受け入れ実績

令和5年度は札幌医科大学より計174名を受け入れました。

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	6年	地域包括型診療参加臨床実習	R5 6月12日～ 7月 6日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 4月19日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 4月26日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 5月10日	2
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 5月17日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 5月18日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 5月25日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 6月15日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 6月22日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 6月29日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 7月 5日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 7月20日	2
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 7月27日	2
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月 9日	2
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月16日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月17日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月24日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月30日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月31日	1
		6年	整形外科臨床実習（選択クリクラ）	R5 9月 6日	1
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	R5 4月19日	2
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	R5 5月24日	2
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月 2日	3
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	R5 8月30日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 4月12日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 4月26日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 5月17日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 5月31日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 6月14日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 6月28日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 7月12日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 7月26日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 8月23日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 9月 6日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 9月20日	5

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 10月 4日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 10月18日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 11月 1日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 11月15日	中止
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 11月29日	中止
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 12月13日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 1月10日	5
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 1月24日	6
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 2月 7日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 2月21日	4
		5年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 3月 6日	4
		4年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 12月 6日	7
		4年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R5 12月20日	6
		4年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 1月17日	7
		4年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 1月31日	6
		4年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 2月14日	7
		4年	神経内科臨床実習（必須クリクラ）	R6 2月28日	7

中止はコロナウイルス感染防止のため

臨床研修医受け入れ

初期研修医を受け入れています。

診療部では関連する病院から2年目の医師を地域研修等で受け入れています。

職種	関連機関名	実習目的	実習期間	実習人数
医師	小樽市立病院	2年次研修医地域研修	R5 5月28日～ 6月24日	1
	小樽市立病院	2年次研修医地域研修	R5 6月25日～ 7月22日	1
	山形済生病院	2年次研修医地域研修	R5 7月30日～ 9月 2日	1
	山形済生病院	2年次研修医地域研修	R5 9月 3日～ 9月30日	1
	済生会富田林病院	2年次研修医地域研修	R5 10月 2日～10月30日	1

内科専門研修医（後期研修）受け入れ

内科専攻の後期研修医を受け入れています。

職 種	研修内容	研修期間	研修人数
内科専門医師	内科専門研修	R4 4月 1日～	2

当院を基幹とする内科専門研修プログラムでは、2022年3月に修了された専攻医に引き続いて、同年4月から新たにお2人の内科専攻の先生を迎え、それぞれ将来のサブスペシャリティを念頭に現在広く2次救急を含めた第一線で活躍していただいています。

また札幌医大病理学教室の協力を得て当院脳神経内科の剖検を実施、さらに専門医機構認定共通講習を倫理分野で氏家良人先生（函館市公営企業管理者・病院局長、岡山大学名誉教授）、感染分野は國島康晴先生（砂川市立病院泌尿器科部長）にお越しいただき実施しました。剖検とCPCの間が半年以上あいてしまうのはやむを得ませんが、剖検例がもう少し増えるのが望ましいでしょう。

内科系医療にあたり外から示された形式が満たされるより 地域の特性の中で自分たちがどう考えるかが協力いただいた関係各部署の皆様ともに問われるのだと思っております。

文責 松谷 学

■医療技術部

医療技術部における令和5年度の実習受け入れ実績として、5部署において計11校からの実習受け入れ依頼に応じ、7職種、63名の学生が当院で実習を行いました。コロナ禍で減っていた受け入れ人数も、5月8日に2類相当から5類に移行したことから、やっとコロナ以前のように各部署に実習生がいつもいるような状況に戻ってきた印象です。当院及び医療技術部では人材育成を重要な取り組みの一つとして掲げております。実習受け入れの依頼があった際には可能な限り要望に応じていきたいと考えております。同時に教育機関と連携しながら実習内容の質向上に努め、学生が済生会で実習を受けて良かったと思えるような実習の場を提供していきたいと考えております。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

【薬剤室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
薬剤師	北海道医療大学	5年	薬学実務実習	令和5年 5月22日～令和5年 8月 6日	1名
	北海道科学大学	5年	薬学実務実習	令和5年11月20日～令和6年 2月11日	1名

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	天使大学	4年	臨床栄養学実習Ⅴ・Ⅵ	令和5年 8月14日～令和5年 8月25日	1名
	藤女子大学	4年	臨床栄養学実習Ⅲ	令和5年10月16日～令和5年10月27日	2名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	実務実習	令和5年11月28日～令和5年12月14日	2名

【放射線室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
診療放射線技師	北海道科学大学	4年	臨床実習	令和5年 5月 8日～令和5年 5月12日	2名
		4年		令和5年 5月15日～令和5年 5月19日	2名
		4年		令和5年 5月22日～令和5年 5月26日	2名
		4年		令和5年 5月29日～令和5年 6月 2日	2名

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
理学療法士	北海道医療大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和5年 5月 8日～令和5年 6月23日	2名
		1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年7月31日・8月1日・8月2日	9名
		3年	臨床実習Ⅲ(総合)	令和5年11月 2日～令和5年12月15日	2名
		2年	臨床実習Ⅱ(検査・測定)	令和6年 1月29日～令和6年 2月 9日	2名
	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和5年 6月19日～令和5年 7月28日	2名
		1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和5年 9月 4日～令和5年 9月 8日	1名
		2年	臨床実習Ⅲ(検査・測定)	令和5年12月 4日～令和5年12月15日	2名
		3年	臨床実習Ⅲ(評価)	令和6年 1月15日～令和6年 2月 9日	2名
	札幌医学福祉歯科専門学校	2年	臨床実習Ⅳ(評価)	令和5年 9月 4日～令和5年 9月29日	1名
		2年	臨床実習Ⅴ(評価)	令和5年11月 6日～令和5年12月 1日	2名
	東北福祉大学	4年	実践実習Ⅱ	令和5年 5月15日～令和5年 7月 7日	1名
	北海道千歳リハビリテーション大学	4年	治療学実習Ⅱ	令和5年 7月 3日～令和5年 8月25日	1名
		1年	臨床見学実習	令和5年 9月 4日～令和5年 9月 8日	1名
		3年	臨床評価学実習	令和6年 1月15日～令和6年 2月 9日	1名
	日本医療大学	4年	臨床実習Ⅲ	令和5年 5月 8日～令和5年 6月23日	2名
		3年	臨床実習Ⅱ	令和5年11月20日～令和5年12月15日	2名
		2年	臨床実習Ⅰ(見学①)	令和6年 1月15日～令和6年 1月19日	1名
作業療法士	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅲ(総合)	令和5年 4月 3日～令和5年 5月26日	1名
	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和5年 6月12日～令和5年 8月 4日	1名
	北海道大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和5年 6月12日～令和5年 8月 4日	1名
	北海道医療大学	4年	総合臨床実習Ⅱ(総合)	令和5年 7月24日～令和5年 9月19日	1名
	札幌医科大学	4年	総合臨床実習Ⅲ(総合)	令和5年 8月 7日～令和5年 9月15日	1名
	北海道文教大学	3年	評価実習(評価)	令和5年 8月21日～令和5年 9月15日	1名
	札幌医学福祉歯科専門学校	2年	臨床実習Ⅲ(評価)	令和5年10月30日～令和5年11月 5日	1名
	日本医療大学	3年	臨床実習Ⅱ(評価)	令和5年11月20日～令和5年12月15日	1名
	北海道大学	3年	臨床実習Ⅲ(評価)	令和5年11月27日～令和5年12月 8日	1名
	日本医療大学	2年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和6年 1月15日～令和6年 1月19日	1名
	札幌医学福祉歯科専門学校	1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和6年 1月22日～令和6年 1月26日	1名
	北海道大学	2年	臨床実習Ⅱ(見学)	令和6年 2月 5日～令和6年 2月 9日	2名
		2年	臨床実習(見学)	令和6年 2月13日～令和6年 2月16日	2名
	札幌医学福祉歯科専門学校	2年	臨床実習Ⅲ(評価)	令和6年 2月26日～令和6年 3月 8日	1名
言語聴覚士	北海道医療大学	4年	臨床実習Ⅲ(総合)	令和5年 5月 8日～令和5年 6月30日	1名

■ 看護部

令和5年度は、専門学校と大学の2校が実習受け入れ開始となり、新たに終末期実習科目が増えました。学校側が求めるニーズに応えられるよう、緩和ケア認定看護師の協力を得ながら研修を行い、指導者育成にあたりました。また、実習指導環境を充実させるため、指導者だけではなく部署全体で取り組む体制づくりに力を入れております。学生に看護の魅力を伝えられる実習指導者育成に努め、将来、実習先が就職先として選ばれる病院を目指していきたいと思ひます。

文責 看護係長 佐々木 雪絵

令和5年度看護部実習受け入れ実績

教育機関名	学年	学習目的	実習場所	1Gの人数	実習期間	実習人数
北海道看護専門学校	3年	終末期看護	3A病棟・4A病棟	1～2名	5月22日～6月30日	6名
北海道文教大学	1年	基礎看護学実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	3名	8月28日～9月8日	18名
北海道科学大学	看護学科 2年	基礎看護学実習Ⅱ	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	4～6名	7月10日～8月4日	38名
小樽看護専門学校	3年	看護の統合と実践実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	2～3名	10月16日～10月27日	18名
北海道看護専門学校	3年	成人老年(高齢者)Ⅲ	3A病棟・3B病棟 4A病棟・4B病棟 5B病棟	1～2名	11月6日～12月8日	7名
北海道科学大学	1年	看護学科基礎実習Ⅰ	3A病棟・3B病棟 4A病棟・4B病棟 5B病棟	3名	1月29日～2月2日	18名
小樽看護専門学校	2年	基礎看護実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・4B病棟 5B病棟	2～3名	2月26日～3月8日	14名
小樽看護専門学校	3年	看護の統合と実践実習 長期欠席者追加実習	4B病棟・5B病棟	1名	12月11日～12月15日	2名
北海道文教大学	2年	基礎看護学実習Ⅱ	4A病棟・4B病棟 5B病棟	2～3名	2月13日～2月22日	8名

Ⅲ 部門報告

診療部

■ 総 括

診療部は併設する重症心身障がい児（者）施設みどりの里を担当する小児科を除く、診療科の常勤医と非常勤医により構成されています。診療部の令和5年度の1年間を振り返ります。

4月には放射線科に小野寺先生が常勤医として着任されました。日々膨大なCTとMRIを読影し、そのレポートのおかげで診療部全体の診断の精度が飛躍的に向上しました。同じく4月から札幌医大とのたすきがけで井澤朋大先生、岸本快先生、竹中理紗先生の3名の初期研修医が約10カ月間在籍しました。トレンディ俳優（死語？）を思わせる立ち振る舞いと意欲的・的確な仕事ぶりに、実習にきた医学生たちが尊敬の眼差しを向けていました。当院が令和7年より基幹型臨床研修病院となるにあたり、我々診療部も3人の先生から多くのことを学ばせてもらいました。

5月には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し一段落しました。夏場は猛暑で熱中症患者などの救急患者を安丸先生を中心に多数受け入れました。10月からは4B病棟がコロナ病棟から地域包括ケア病棟に復帰しました。約3年間、病棟担当医として先頭に立って診療にあたってこられた内科・消化器内科、脳神経内科の諸先生に感謝申し上げます。

残暑から秋を感じないまま冬になりました。12月には4年ぶりにリアルで病院忘年会が開催され、泌尿器科の安達ヒデキ先生による恒例のライブショーは同

僚の紺田先生との絶妙のコンビネーションで大盛り上がりしました。やはりこれがなければ済生会小樽病院の1年は終わりません。1～3月は例年どおり病床が高稼働で多忙でしたが、お互いの顔がわかる医局であることを武器に縦横斜めのつながりで互いに協力して乗り切りました。3月には片山先生、紺田先生、石松先生、山本先生、安丸先生と3名の初期研修医の先生の送別会をしました。余興では麗し亭一華（うるわしていはつか）こと石松先生が古典落語の「時うどん」を披露してくれ大爆笑しました。

令和6年4月から医師の働き方改革が施行されました。何をどのようにするとよいのか、まだ答えはありません。いつ新しい感染症や医療を取り巻く大問題が身に降りかかってくるか。全く予想がつきません。何があっても各診療科、各医師が互いの強みを生かして協力しながら難局を乗り越えていける診療部でありたいものです。

文責 診療部長 織田 崇

内科・消化器内科

【スタッフ】

氏 名	役職名
水越 常德	副院長
宮地 敏樹	院長補佐
明石 浩史	診療部長
安丸 卓磨	内科副院長
舩谷 治郎	内科医師
本谷 雅代	非常勤医師（札幌医大消化器内科）
志谷 真啓	非常勤医師（JR札幌病院消化器内科）

【当科の概況】

当科では札幌医大消化器内科（旧第一内科）出身者中心にて成り立っており、診療内容は消化器疾患を中心に内科一般診療を行っております。今年（2023年）は5月から新型コロナウイルス5類移行により。コロナ病棟が無くなり、病棟はコロナ前に戻りつつあります。

【当科の診療内容】

診療内容に大きな変化はありません。内視鏡は各医師が上下部内視鏡の検査及び処置に当たっておりますが、札幌医大消化器内科の協力を得て、胆膵は同医局の専門医師（本谷・志谷両医師）が来てくれており、胆道・膵疾患の検査・治療に当たってくれています。どちらかといいますと特殊な手技である胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）などを数多く処理してもらっています。消化管の治療内視鏡としましては、胃や大腸など消化管の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術

（EMR）、消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する各種止血術などを行っています。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）につきましては、医局の同門でもある時計台記念病院の消化器内科田沼医師と三橋医師に来てもらいやっております。なお、内科専門医の専攻医安丸先生が昨年引き続き働いており、日々鍛錬して内科医としての腕を上げております。特筆すべきは救急車対応をかなり担ってくれていて、素早く対応出来るようになっております。消化器以外では、引き続き内分泌診療を水越が、緩和ケアを明石診療部長が行っております。

【学会認定施設】

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【人の動きとこれからに向けて】

こちらも昨年と変わりはありません。安丸卓磨先生が当院の内科専門医研修プログラムで引き続き残留、同じく永洞明典先生が他院研修ということで、野口病院に1年間の予定で行っております。毎週火曜日朝内科のカンファをして症例検討を重ねております。まずはコロナ禍が治まり通常診療に戻ることを祈りながら、頑張っていく所存です。

文責 水越 常德

【スタッフ】

高田美喜生	循環器内科部長
國分 宣明	非常勤
村上 直人	非常勤
中田 圭	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行っています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人、1人の病態を理解し、対策を講じることにつとめています。

【令和5年度の取り組み】

診療面では、慢性腎臓病（CKD）の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に力を注ぎ、末期腎不全（ESRD）への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病（CKD）が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全（ESRD）患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

文責 循環器内科部長 高田 美喜生

脳神経内科

【スタッフ】

林 貴士 部長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、認知症サポート医

松谷 学 医長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、司書資格

藤倉 舞 医長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、認知症学会専門医・指導医

平野理都子 医長

日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

山本 彬広 副医長

【部署の特徴】

当科は、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っています。脳脊髄の疾患としては、脳梗塞や一部の脳出血などの脳血管疾患、記憶障害や遂行機能障害などがみられるアルツハイマー型認知症、動作緩慢に振戦や筋強剛、姿勢反射障害が見られるパーキンソン病、パーキンソン症状に加え変動のある認知機能の低下などの特徴があるレビー小体型認知症、運動神経の変性により全身の筋肉が萎縮していく筋萎縮性側索硬化症や、そのほか脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経変性疾患、感染症や代謝障害に伴う脳炎・脳症、中枢神経系の脱髄が生じる多発性硬化症や視神経脊髄炎などがあり、末梢神経の疾患では、先行感染後に四肢筋力低下をきたすギラン・バレー症候群や慢性の経過で筋力低下・感覚障害の再発寛解を繰り返す慢性炎症性脱髄性多発神経炎、神経と筋肉の接合部の疾患では眼瞼下垂や複視、筋力の易疲労性を呈する重症筋無力症、筋肉の疾患として筋痛や筋力低下を呈する多発筋炎などがあります。また機能性疾患として片頭痛や緊張性頭痛などの頭痛、てんかんも当科の対象としている疾患になります。脳脊髄・末梢神経・筋肉の症状は上記の疾患以外にも肝障害や腎障害、糖尿病や甲状腺機能異常、悪性腫瘍などの内科疾患を原因として生じることが多く、内科疾患の知識も動員しながら診療しております。

アルツハイマー型認知症は高齢化とともに患者数が増加しています。疫学研究である久山町研究によれば2012年で65歳以上のアルツハイマー型認知症の有病率は12.3%と推定されており、この有病率を用いると2021年の小樽市の65歳以上のアルツハイマー型認知症の患者数は約5600人と推定されます。現在のアルツハイマー型認知症の治療は主にアセチルコリンエステラーゼ阻害薬やNMDA受容体拮抗薬が用いられ

ていましたが、軽度認知障害や軽度アルツハイマー病に対し新たにアミロイドβを除去する作用のある抗体を用いた疾患修飾療法（抗プロトフィブリン抗体薬）が、2023年9月に日本で薬事承認され、12月に薬価収載されました。この治療に関しては、アルツハイマー病の診断ができ副作用の対応ができるなど施設基準が設けられております。

【令和5年度の実績および取り組み】

医療面では、脳神経内科のある急性期病院として、外来診療や他医療機関からの紹介患者の適時受け入れを行っています。脳卒中や免疫性神経疾患などの急性期治療後や神経変性疾患増悪時の治療後には、必要に応じ地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟での治療を継続し、病院から地域へとシームレスな患者対応ができるように診療をしています。神経疾患の診療には一般的に時間がかかり、特に神経疾患の初診時にはかなりの時間を要します。新患紹介患者の予約受診までの待機期間を短くすべく引き続き新患外来枠を設けて対応しております。当院ではアルツハイマー病に対する抗体薬治療の行える施設として施設基準を満たすよう準備を進めていきます。

教育面では、神経内科専門医を4名、日本内科学会総合内科専門医3名を擁し、日本神経学会教育施設となっております。専攻医（後期研修医）の先生に当院独自で神経内科専門医資格を取得できる体制を引き続き取っています。さらに小樽市を含む後志医療圏内で中核的急性期病床および回復期リハビリテーション病床を有する当院を基幹病院とした臨床研修協力施設、新・内科専攻医研修基幹施設の認定を受けております。専攻医の先生には日本神経学会北海道地方会や日本神経感染症学会総会・学術大会で症例報告を行っていただきました。札幌医科大学から、必修クリニカルクラークシップ（5年次+カリキュラム移行のため4年次）として97名+40名の計137名、神経内科選択クリニカルクラークシップ（6年次）として13名の医学部生を受け入れております。また令和4年度から北海道文教大学の理学療法学科の学生に脳神経内科学の講義を引き続き行っております。このような形で医学教育や若手医師の育成などに力を入れております。

【今後の目標】

神経疾患の診断および治療を適切に行うとともに、難治な例や治療法がない疾患においても最善なケアを提供していきたいと考えております。その中でも嚥下機能の低下や呼吸機能の低下などが伴う疾患では、栄養摂取の方法や呼吸補助の方法などの決定に様々な倫理的問題が伴います。患者本人だけでなく、介護に

関わる家族などそれぞれに療養に対する考え方や希望があり、それらを上手く抽出して患者自身にとって何が最適な療養かを多職種が関わり、意思決定支援を行うことが大変重要になります。

急性期疾患の治療が必要な認知症患者やせん妄発症者への対応能向上のため、認知症ケア推進室が中心となり認知症ケアチームでカンファレンスや回診を行っています。当科は認知症ケアやせん妄への対応を医師の立場からサポートし、病院全体のケアの質の向上を

継続して行っていきたいと考えています。

引き続き神経内科必修および選択クリニカルワークショップの医学生を受け入れ、神経学的診察から臨床推論、鑑別診断、必要な各種検査、疾患ごとの治療について実践的に学べるよう指導していきたいと考えています。また新・内科専攻医研修基幹施設として専攻医の受け入れをしていきたいと考えています。

文責 脳神経内科部長 林 貴士

外科・消化器外科

【スタッフ】

氏 名	役職名	専門・認定資格等
木村 雅美	副診療部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん 外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 札幌医科大学医学部 臨床教授
片山 知也	外科部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん 外科治療認定医 日本大腸肛門病学会 専門医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
田山 誠	外科部長	日本外科学会 専門医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 指導医・専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波読影認定医 エキスパンダー／インプラント実施医師

【部署の特徴】

当科では消化器疾患および甲状腺疾患の外科治療や、ヘルニア、乳腺疾患、肛門疾患の診断・治療を行っています。

「体にやさしい手術」を提供するために、「腹腔鏡による外科治療」を積極的に行ってきました。常勤の日本内視鏡外科学会技術認定医の指導により安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供していると自負しています。国内でも先駆的な平成3年より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、平成5年には胆嚢胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切開結石摘出術を開始しております。現在は、高精細な3Dスコープ等を駆使し、胃癌や大腸癌の外科治療においても、適応や安全に配慮しつつ積極的に腹腔鏡下手術を行っています。様々なヘルニア疾患をはじめ、急性胆嚢炎・急性虫垂炎・腸閉塞・潰瘍穿孔などの急性腹症での緊急手術にも実施しています。

当院の充実したリハビリテーションスタッフの協力により、術後早期からリハビリテーションを積極的に行っています。術後早期離床を目指すことで合併症を予防し、ご高齢の方でも早期の回復・退院・社会復帰につなげています。

各種がん手術症例を中心に術後補助化学療法、進行・再発症例に対する化学療法を行っています。甲状腺内科との連携した手術、札幌医科大学乳腺チームと連携した乳がん診療も実施しております。緩和ケア

チームの一員として緩和治療の一翼も担っています。

【実績（抜粋）】

年度	R5	R4	R3	R2	R1
胃切除術	4 (2)	3 (0)	0 (0)	6 (2)	9 (2)
胃全摘術	0 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	6 (2)
胆嚢摘出術	28 (28)	32 (32)	32 (31)	42 (38)	41 (41)
胆管切石術	5 (5)	6 (6)	13 (12)	5 (5)	13 (13)
結腸切除術	22 (13)	21 (13)	29 (15)	18 (9)	22 (13)
直腸切除術	7 (5)	6 (6)	8 (7)	7 (5)	6 (3)
直腸切断術	1 (0)	2 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)
虫垂切除術	7 (7)	10 (9)	11 (11)	14 (13)	6 (5)
鼠径部ヘルニア手術	40 (30)	46 (41)	29 (23)	32 (24)	33 (22)
腹壁臓器ヘルニア手術	1 (0)	2 (0)	7 (1)	2 (0)	1 (0)
甲状腺手術	1	7	8	10	7
乳腺手術	1	1	2	2	2
肛門手術	6	3	5	5	7
外来手術	65	68	102	120	135
中心静脈ポート造設	90	75	74	84	64

※手術件数（腹腔鏡手術件数）

【令和5年度の取り組み】

これまでと同様の常勤医3人体制で、安全かつ質の高い外科診療を行えるように努めました。

【今後の目標】

近年、消化器がん治療は腹腔鏡手術の導入による低侵襲化、新規化学療法・集学的治療の開発、等々による予後の改善など飛躍的な進歩を遂げています。技術的な進化に遅れることなく研鑽を積み、患者様に還元できるよう努力を続けたいと思います。

地域の医療連携を推進し、これまで同様に内科・消化器内科とも連携して、切れ目のないより効率的な診療を行っていきたいと考えております。また、これからは札幌医科大学乳腺チームと連携し、後志管内のより広い地域の乳がん患者さんに対応してまいります。ニーズ増加した緩和的外科治療にも積極的に対応していきたいと思います。

文責 副診療部長 木村 雅美

整形外科

【スタッフ】

近藤真章 名誉院長 整形外科専門医
和田卓郎 病院長 整形外科専門医、手外科専門医
織田 崇 診療部長 整形外科専門医、手外科専門医、骨粗鬆症専門医
濱田修人 医長 整形外科専門医
高橋克典 医長 整形外科専門医
石松愛実 副医長

【当科の特徴】

当科は整形外科スタッフ6名を中心に、一次・二次救急症例を含む整形外科外傷治療をはじめ、慢性・変性疾患に対する保存療法および手術療法、骨粗鬆症治療など、幅広い診療を行っています。また、充実した理学療法・作業療法スタッフによる手厚い外来および術後リハビリテーションも当科の特徴です。

特に、和田院長および織田診療部長を中心とした手・手関節・肘関節の診療は、道内のみならず道外からも多くの患者さんが紹介されております。さらに、脊椎、膝関節、足部・足関節疾患に関しては常勤専門医が、肩関節および股関節疾患については非常勤専門医が担当し、紹介受診を受け入れています。

また、医療スタッフ間の円滑なコミュニケーションを図るため、毎週術前および術後カンファレンスを開催し、治療方針の議論や術後の確認を行っています。さらに、リハビリスタッフとのカンファレンスも毎週実施し、術後患者のリハビリ進捗状況を共有し、意見交換を行っています。加えて、毎週開催される英文抄読会では、スタッフ全員で専門知識や最新知見を共有しています。

周術期に使用する急性期病棟に加え、地域包括ケア病棟や回復期病棟を備えており、術後リハビリテーションに柔軟に対応できる体制を整えています。さらに、退院後のサービス利用や、在宅復帰が困難な場合のショートステイ・施設入居の調整も行っています。

整形外科専攻医や研修医も積極的に外来診療や手術治療に携わり、豊富な症例をもとに学会発表や論文作成を行っており、上級医による教育・指導も行っています。

【令和5年度の取り組み】

本年の手術件数は1109件でした。近年は年間1100件台を維持しています。

近年、当院を選択する整形外科志望の研修医が増加しており、今年度は3名の初期研修医が当院での研修を選択し、それぞれ6ヶ月間の研修を受けました。3名とも初期研修終了後は整形外科専攻医として研修を継続する予定です。また、令和6年度には新たに1名の初期研修医が整形外科を志し、当院で研修を行う予定です。さらに、現在当院は札幌医科大学附属病院・旭川医科大学附属病院の研修プログラムにおける協力型臨床研修病院ですが、令和7年度からは基幹型臨床研修病院となり、当院独自のプログラムに基づく初期研修が可能となります。

医学生の札幌医大整形外科での臨床実習の一環として、当科でも臨床実習を行っており、主に手術実習を通じた医学教育を提供しています。

【今後の展望】

地域と共に歩む病院として、一般受診はもちろんのこと、救急患者の対応・受け入れに注力し、さらに近隣の病院やクリニックからの紹介受診にも重点的に対応します。紹介患者の受け入れおよび診療、近隣医療機関との連携をより円滑に進めるため、今後、紹介受診重点医療機関の指定を目指しています。

また、今後は基幹型臨床研修病院として、研修・指導体制のさらなる充実に取り組みます。

文責 整形外科医長 高橋 克典

総手術件数(2023年1-12月) 1109

骨折・外傷		変性疾患など	
橈骨遠位端骨折	92	ARCR	19
上肢骨折その他	91	TSA+RSA	2
大腿骨近位部骨折	129	肘部管症候群	18
下肢骨折その他	88	手根管症候群	58
骨盤骨折	1	滑膜切除(手・肘)	13
脊椎骨折	11	腱鞘切開	98
腱・神経損傷	19	上肢その他	44
開放骨折(指以外)	5	THA	36
開放骨折(指)	3	TKA	56
抜釘	101	膝関節鏡手術	70
		膝靱帯再建術	8
		膝周囲骨切り術	9
		外反母趾	4
		下肢その他	26
		腫瘍	10
		頸椎	12
		胸椎・腰椎	86

泌尿器科

【スタッフ】

堀田浩貴 副 院 長：

日本泌尿器科学会 専門医

日本泌尿器科学会指導医

ICD（インフェクションコントロールドクター）

日本性機能学会専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本医師会認定産業医

日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

安達秀樹 副診療部長：

日本泌尿器科学会 専門医・指導医

日本性機能学会 専門医

紺田州人 医 長：

日本泌尿器科学会 専門医

【当科の特徴】

泌尿器科の診療は、日本泌尿器科学会認定の専門医3名が担当します。また当院は、日本泌尿器科学会の専門医拠点教育施設の認定を受けております。

泌尿器科は、副腎・腎臓・尿管・膀胱・前立腺・陰茎・尿道・精巣などを対象として、これらのさまざまな症状や疾患を診察・治療する診療科であります。

診療内容は、泌尿器科一般（排尿障害、尿路感染症、尿路結石など）、悪性腫瘍、慢性腎臓病（腎不全、透析）、性機能障害（勃起障害：ED）などを中心に多岐にわたっております。

患者さんの病気・病状に合わせて、最善と思われる治療方法を検討し、十分な説明を行います。患者さんもお自身の病気・病状について充分にご理解いただいたうえで、説明と同意のもとに治療を行うことを目標として、日々診療に従事しております。

【実 績】

I. 外来

外来は火曜日と金曜日は午前2枠、月曜日、水曜日、木曜日は午前各1枠、そして火曜日午後1に性機能専門外来を行っています。令和5年の外来延患者数は、9,074名でした。紹介率は55%、逆紹介率は74%でした。主病名による上位疾患は、前立腺肥大症、急性膀胱炎、過活動膀胱、神経因性膀胱、などでした。外来化学療法は前立腺がん・尿路上皮がん症例などを中心に積極的に取り入れています。

II. 入院

令和5年の延べ患者数は3,257名、新入院患者数は348名、手術件数は317件、平均在院日数は8.2日でした。主な入院病名は、膀胱がん、前立腺がん、尿管結石症、慢性腎臓病、水腎症などでした。札幌医科大学泌尿器科と綿密な連携を図り、集学的治療により改善が期待できる症例は積極的に紹介を行っています。

III. 透析医療

他の治療法による改善が見込めず、自覚症状も認められる末期慢性腎臓病症例に対しては、今後の治療方法（血液・腹膜透析、腎移植等）に関する十分な説明を行っております。血液透析の導入は、本人の十分な理解が得られた症例に対して行っております。令和5年の新規導入患者数は12名でした。おおよそ60名の血液透析患者さんに対して、安全かつ快適な医療を提供できるように泌尿器科医師ならびにスタッフ一同日々奮闘しております。また長期的な入院による血液透析が必要な場合には、近隣の透析施設に治療を依頼しております。

【令和5年度の取り組み】

安全な医療の提供を第一として、患者さんが当院にかかって良かったと思っただけのような泌尿器科医療の提供を目指しております。厚生労働省からも求められている医師の働き方改革実現のため、入院中は外来で担当した医師を中心に、3名の医師がチーム制で診療を行っております。

【今後の目標】

札幌医大泌尿器科との提携を密として、より安全かつ信頼できる医療の提供ならびに地域貢献ができるような医療の実践を心掛けております。

文責 副院長 堀田 浩貴

【スタッフ】

菊地未紗子 医長

(精神科専門医・指導医、精神保健指定医、精神腫瘍登録医・産業医・日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学特定指導医)

【当科の特徴】

2020年4月に新設された当科は4年目を迎えました。入院・外来患者さんの対し、多職種からなる「緩和ケアチーム」を立ち上げ活動しております。医師、薬剤師、看護師、理学療法士、栄養士、社会福祉士の他、放射線技師も加わり、より多方面でのサポートを、より細やかで丁寧に、時間をかけて、一人一人の患者さん・ご家族への対応が可能となりました。

がんと診断された時から、その治療と並行して、身体だけでなく、心のつらさ、苦痛を和らげ、できるだけその人らしい快適な生活が送れるように外来・入院を通してサポートさせていただいております。患者さんが亡くなられた後の家族ケアとしても遺族外来を開設し、大切な存在を失った後の心の哀しみのケアをサポートしております。

また、緩和ケア部門に限らず、他科通院中・入院中の患者さんにおける心理・社会的な問題に対しても対応させていただいております。不眠や不安、意欲低下、興味関心の減衰等の抑うつ症状や、認知症に伴う不穏、興奮、拒否、不眠等、様々な精神症状について精神医学的に対応しております。

【診療内容・令和5年度の取り組み】

緩和ケア外来では、他院からの紹介と院内からの紹介が半数ずつを占めております。積極的な治療を終え、最後は住み慣れた小樽・後志で過ごしたいと来院される方が多くなっております。小樽市内に限らず、余市や岩内などの周辺地域の方々も数多く受診していただいております。各市町村の医療機関とも連携をはかっています。

また、ほぼ全例にACP (Advance Care Planning) を実施しています。残された時間を本人らしく、本人が望む医療やケアが提供できるよう事前に本人・家族・医療者で話し合い、本人の意向にそった対応ができるように体制を整えています。コロナ禍で在宅医療を希望される方も多く、訪問診療や訪問看護等、地域の皆様のお力もお借りしながら本人の望む最後が迎えらるよう取り組んでおります。

なるべく身体能力を保持したまま自宅で過ごしたい、最期まで自分のことは自分でしたい、等の要望をサポートすべく、緩和ケア外来通院中の患者さんを対象に外来リハビリテーションの積極的な導入を行って

おります。化学療法中の口腔トラブルでの食事摂取量の低下や、誤嚥性肺炎の予防の観点から、口腔ケアの指導や近隣の歯科医師とも連携し歯科治療の連携もはじまりました。

2021年5月から取り組んでいる「緩和ケア医療の充実」をはかるための「緩和ケアの早期からの介入」については、入院されたがん患者において原則全員に緩和ケアの情報提供を行い、希望される患者・家族へ緩和ケアチームの介入を開始し、概ね9割以上の患者さんが入院をきっかけに緩和ケアの介入を希望され、より濃厚な緩和ケアを提供することが可能となりました。

全国的にも珍しい試みとして心不全の緩和ケアの導入を開始しています。心不全チームと連携し、週に1回カンファレンスを行い、心不全に伴う身体症状の緩和のみならず、退院支援や意思決定支援等、緩和ケアチームもサポートさせていただき、より濃密なケアや医療が提供できるよう邁進しております。

また、当院ではせん妄を起こす前に予防的に介入することを徹底し、入院時にスクリーニングを実施し、ハイリスク患者においては認知症ケアチームと連携し、時に精神科医の介入についても継続して介入しております(リエゾン介入件数200件以上/月)。ハイリスク患者へ入院時から徹底的に介入を行ったことで、せん妄予防率は87%と良好な結果となっており、認知機能への影響や入院期間の短縮等、様々なメリットが得られるようになっていきます。

その他、入院中のメンタルケアや認知症に伴う精神症状のコントロール、不眠や不安等、幅広くご依頼いただき対応させていただいております。

今年度の取り組みとしては、当院が後志では初めて、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医の特定研修施設に認定され、身体疾患を有する精神症状をもつ患者への知識をもつ指導医・専門医が対応し、今まで以上に質の高い医療を提供できるようになりました。

【今後の目標】

がん患者さんや心不全の終末期患者さんの緩和ケアを担い、患者・家族ケアについて満足いく医療が提供できるようチーム一丸で頑張っ参ります。

後志管内の緩和医療を担うべく、より良い緩和ケアを提供できるよう多職種・地域医療の皆様とさらに協力しあい、質の高い医療を提供していきたいと思っております。

文責 医長 菊地 未紗子

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

※令和5年4月1日時点の状況を記載。

◆部門構成

- ・医療技術部長
- ・薬剤室
- ・臨床検査室
- ・放射線室
- ・リハビリテーション室
- ・栄養管理室
- ・臨床工学室

◆医療技術部職員数 122名

◆職員構成

薬剤師	12名
臨床検査技師	8名
診療放射線技師	9名
理学療法士	41名
作業療法士	24名
言語聴覚士	7名
管理栄養士	6名
臨床工学技士	11名
助手	4名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

【令和5年度医療技術部目標】

- ☐確かな技術と知識の習得
- ☐安全・安心・納得して頂ける医療の提供
- ☐患者・家族・地域の満足度向上

【令和5年度の活動報告】

令和5年5月8日をもって新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行したことで、やっとコロナ以前の状態に、少しずつではありますが戻りつつあるというのが令和5年度でした。

しかし、コロナ以前には考えられなかったが今では当たり前になっていることもあり、病院全体の話では職場内での全職員のマスク着用、昼食時は自部署ではなく食堂や講堂を利用しての黙食などがあり、今後もこの状況は当分変わらないと思われます。

一方で変わったこととして医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアの動きが加速しております。特に医療技術部では臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の3職種が業務拡大の対象となっております。

り、それぞれの職種が順調に告示研修の受講者数を増やしている状況です。それに伴い臨床工学技士は手術室等で生命維持管理装置を使用して行う治療において、当該装置や輸液ポンプ・シリンジポンプに接続するために静脈路を確保し、それらに接続する行為が可能に、臨床検査技師においては採血に伴い静脈路を確保し、電解質輸液（ヘパリン加生理食塩水を含む。）に接続する行為が可能に、診療放射線技師も造影剤を使用した検査のために、静脈路を確保する行為が可能になり、各職種がタスク・シフト/シェア出来るように準備を開始しました。

一方で、医療技術部の部門理念であります「専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します」とありますように、今年度もみんなで協力し、済生会ビレッジで毎週火曜日開催される健康相談会に各職種が交代で赴き、地域住民の健康相談をさせていただきました。

また、自分たちの専門性を活かしながら各職種で協力して医療技術部として済生会フェアにも参加し、色々な検査や健康相談会を提供出来ました。

【今後の目標】

令和5年5月8日をもって新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行しましたが、コロナ以前の様な状況には戻っていません。コロナ以前であれば「健康出前教室」「健康フェスタ」なども医療技術部は積極的に参加していましたし、医療技術部主導で開催していた高校生対象の「コ・メディカルツアー」も毎年開催出来ていました。しかし、現在は開催しにくい状況が続いていますし、今後もこの状況は変わらないことが予想されます。この厳しい状況を受け入れ、みんなで知恵を出し合い、市民の健康増進に貢献できるような活動を展開していきたいと考えています。

技術面に関しても、各個人の努力や、部署での取り組みはもちろん、医療技術部で横断的に活動する教育委員会が中心となって医療技術部スタッフ全員の知識向上に取り組み、医療技術部の目標である『確かな技術と知識の習得、安全・安心・納得して頂ける医療の提供、患者・家族・地域の満足度向上』の3つの目標を継続的に向上させていきたいと考えています。

これからも新型コロナウイルス感染症が完全になくなるわけではありません。病院の感染対策をしっかり守り、院内にコロナウイルスを持ち込まないことも同じく取り組み安全な医療の提供に努めてまいります。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

薬 剤 室

【スタッフ】

役 職	氏 名	認定・専門資格等
室 長	上野 誠子	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
課 長	鈴木 景就	日病薬病院薬学認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） 麻薬教育認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
係 長	木島 紀子	
主 任	小野 徹	日病薬病院薬学認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 感染制御認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
主 任	一野 勇太	腎臓病薬物療法認定薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
薬剤師	笠井 一憲	NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 健康食品管理士 腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員 食の安全管理士（日本食品安全協会） JPALS認定薬剤師（日本薬剤師会）
	青木有希子	糖尿病薬物療法認定薬剤師（日本くすりと糖尿病学会） 日本糖尿病療養指導士 高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
	中村 圭介	老年薬学認定薬剤師（日本老年薬学会） 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト 骨粗鬆症マネージャー（日本骨粗鬆症学会）
	芦名 正生	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	佐渡 望	高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	又村 健太	
	庄 瑞穂	
	松田 浩紀	
薬剤助手	西野 純子	
	茂野美奈子	

【部署の特徴】

『安全な薬物療法を支援する』を基本に主に入院患者さんに対する治療の支援を行っています。内服薬・注射薬調剤が基本業務ではありますが、各病棟に担当薬剤師を配置しチーム医療の一員として業務を行っています。薬剤師としての基本的な知識・技能を持ち合

わせた上で、各分野における各種認定・専門薬剤師の資格を取得しながら日々自己研鑽に努めています。薬剤師間の風通しも良好で、専門知識を持つスタッフとディスカッションを行い、適切な薬物療法の実践をめざし日々業務を行っています。

【実績】

調剤業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方せん枚数 (枚)	院外処方せん	5,554	5,622	5,637	5,497	5,911	5,592	5,749	5,626	5,547	5,409	5,279	5,699
	院内処方せん	36	27	46	28	53	40	47	63	67	57	55	60
院外処方せん発行率(%)		99.4	99.5	99.2	99.5	99.1	99.3	99.2	98.9	98.8	99.0	99.0	99.0
入院処方せん(枚)		4,034	3,940	4,220	4,404	4,427	3,846	4,208	4,294	4,858	4,652	4,499	4,382
入院注射処方せん(枚)		2,908	3,025	4,351	4,883	6,156	5,172	4,285	4,705	4,676	4,414	4,274	4,481

診療報酬関連

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	334	360	371	385	364	298	281	231	273	301	223	248
	その他の薬	227	241	257	237	238	200	225	219	188	214	223	191
	合計	561	601	628	622	602	498	506	450	461	515	446	439
	退院時薬剤情報管理提供料	38	18	5	1	1	0	16	36	39	36	40	48
	麻薬管理加算件数	27	30	18	18	21	11	18	20	14	10	13	7
無菌製剤 処理料	無菌製剤製剤処理料1	36	36	35	40	53	45	46	55	44	52	48	45
	無菌製剤製剤処理料2	150	188	155	120	204	216	183	124	146	188	214	163
抗悪性腫瘍薬処方管理加算		47	46	47	50	43	50	41	42	47	41	49	48
病棟薬剤業務実施加算		548	605	611	631	668	550	537	633	649	690	623	642
特定薬剤使用管理料(TDM)		4	8	10	6	6	10	14	10	10	2	4	6
薬剤総合評価調整加算		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がん患者指導管理料ハ		2	3	8	4	4	4	3	4	5	8	13	5

その他

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来面談件数(入院前)	30	51	43	33	45	40	41	48	31	59	32	30

【令和5年度の取り組み】

薬剤師数に変動はなく14名、調剤助手2名、薬剤師1名欠員の状態であるため新規業務の開始はできていませんが、業務内容を縮小することなく継続できました。業務内容としては、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理(DI)等の調剤室業務の他、薬剤管理指導業務(病棟業務)・チーム医療への参画(感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チーム、認知症ケアチーム)を行いました。

後発医薬品の使用推進を目指し、後発品使用割合は90%以上を目標に設定しています。随時使用状況を調査し、薬事委員会を通して後発医薬品への変更を行う事で90%以上を達成できています。

薬剤管理指導件数は400件/月を目標に設定しまし

た。新人の研修期間が終了したこと、電子カルテと連動した服薬指導システム、持参薬システムの導入により病棟薬剤師業務の効率化が図れ、平均527件/月と目標を大きく上回る事ができました。また、病棟薬剤業務実施加算は算定要件でもある週20時間以上の病棟業務を行う事ができており継続して算定しています。

薬学実務実習については北海道医療大学1名、北海道科学大学1名の2名に対して1名あたり2カ月半におよぶ長期の実習を滞りなく終了することができています。

地域における役割としても小樽薬剤師会、後志病院薬剤師会との連携を深め情報の共有を図っています。臨床研究に関しては3件の発表を行いました。学会・研修会についてはオンラインで参加しやすい環境でもあるため、積極的に参加できています。

【今後の目標】

令和5年度は効率的な業務体制を構築する事ができましたが、退院時薬剤情報提供料は少ないままとなっています。当院は薬剤師の退院時指導を必須にしていますが、算定に係る要件を満たしていないため未算定になる事があります。業務方法の見直しを行い、退院時薬剤情報提供料の算定件数増加を目指します。

タスク・シフト/シェアの取り組みとして院外処方箋疑義照会簡素化プロトコルの作成、プロトコルに基づく薬物治療管理（PBPM）導入を目指し勤務医、外来業務の負担軽減を図ります。これまで行っている外

来受診時の薬剤師面談も続けて行っています。

今後も他部署の協力を得ながら病棟・外来業務を継続していきます。また、医薬品情報管理室を中心に後発医薬品への切り替えも薬事委員会の提案を継続していきたいと思います。

チーム医療の一員として質の高い業務を行うため、認定・専門薬剤師の養成・更新等などの人材育成を今後もすすめていきます。

文責 薬剤室課長 鈴木 景就

私のたのしみ

医療技術部 薬剤室 庄 瑞穂

私は大学卒業後新社会人の時から当院薬剤室に入職し現在は病棟薬剤師として働かせていただいています。

国家試験に合格し薬剤師となってから今年で二年目になりました。病棟薬剤師として働き始めたのは昨年からです。至らない点が多く反省の毎日を送っています。病棟で業務を行っているため多職種と連携する場面が多いのですが、自分の知識不足を強く感じる事が多く、今でも不安と緊張を抱えながら働いているように思います。日々迷惑ばかりかけていますが、いつも優しく指導してくださる先輩方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

失敗をして落ち込みながら帰宅する時もありますが、玄関のドアを開けると大好きな猫がいつも私を迎えてくれます。一緒にいるだけで癒されてその日一日の疲れが吹き飛ぶので私にとってはかけがえのない存在です。それと年に数回参加するアイドルのコンサートが私にとって一番の楽しみです。会場でペンライトを振っている時はいつも「毎日頑張ってきてよかった、また明日から頑張ろう」と前向きな気持ちになれます。仕事を一生懸命頑張らつつ自分を労わってあげる時間も大事にしていきたいと思っています。

私はまだまだ至らない点が多く薬剤師として本当に未熟ですが、薬剤師の先輩方・病棟で関わらせていただいている多職種の方々のおかげで業務を行えていると思います。いつか私も病院で働く皆様に頼っていただけるような存在になれるよう、これからも日々努力していきます。



臨床検査室

【スタッフ】

木谷 洋介 技術課長
 岡本 晃光 技術主任 糖尿病療法指導士
 高橋 賢規
 小林 拓真
 伊藤 朱莉
 嶋 優人
 高橋 咲衣
 中畑亜紀子
 中川 仁奈
 森 尚美 (助手)

【部署の特徴】

昨年までは新型コロナウイルス検査に追われる毎日でしたが、今年度5月から2類から5類に分類され検査業務にも変化があった1年でした。本来の検査業務が昨年度まで減少傾向だったのが、今年度は5月以降回復のきざしを示しています。

【実績】(患者数・手術件数などは、別項目にて記載します)

(検体検査)

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	COVID-19
41138	12500	36337	25864	34918	5698	1566	965	446	7090
△536	△496	△452	△491	△1585	▼26	▼169	△13	▼477	▼4799
101.3%	104.1%	101.2%	101.9%	104.7%	99.5%	90.2%	101.3%	48.3%	59.6%

(生理検査)

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミルマスター	ABI
7631	91	1387	274	4075	2	224
△182	▲7	△45	▼4	△288	▼12	△15
102.4%	92.8%	103.3%	98.5%	107.6%	14.2%	107.1%

頸動脈エコー	NCV (技師)	脳波	睡眠検査	心エコー (技師)	下肢静脈エコー
83	0	197	8	929	127
△6	0	△55	▲5	△134	△6
107.7%	0%	138.7%	61.5%	116.8%	107.7%

【令和5年度の取り組み】

不定期ですが済生会ビレッジでの健康相談を実施しています。

【今後の目標】

昨年同様診療部・看護部など病院全体から検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきます。医療技術部との横のつながりをより密にして患者さん、病院運営に更に貢献できるように活動していきます。臨床検査室では近年、急速に若返り化してきています。若手技師が学びやすい環境と働きやすい職場にしていきます。

文責 技術課長 木谷 洋介

お仕事と推し事

医療技術部 臨床検査室 中川 仁奈

私が入職してから早くも1年と少し経ちました。

同時に、小樽で一人暮らしを始めてからも1年以上経ちました。

最初の頃は不安が勝っていてちゃんと一人で暮らせるか心配でしたが、今となっては1人にも慣れて快適な日々を過ごしています。職場の先輩方ともたくさん会話するようになり、皆さんとご飯に行ったりゲームをしたり楽しいです。

臨床検査技師としてはまだまだ駆け出しであり知

識も技術もないですが、2年目は自分なりに資格取得のための勉強やまだ出来ていない検査を教えてもらうなどしてスキルアップしていきたいです。

休日は、札幌に帰宅して両親や友人とご飯を食べたりしています。

1年の中の楽しみの1つとしてなにわ男子とHey!Say!JUMPのLIVEに行くことです。

他のアーティストのLIVEに行くことも多いですが、その中でもジャニーズに行くことが1番の楽しみと言っていい程大切な時間です。

2年目も仕事と私生活を両立しながら一步一步成長し、立派な臨床検査技師になる為に頑張っていきたいです。



LIVE



先輩達と焼肉



友達と中華

放射線室

【概 要】

当部署の放射線技師は10名（うち、みどりの里より出向技師1名）で日々の業務にあたっています。

主な業務内容は一般撮影、移動型X線撮影（ポータブル撮影）、骨密度測定（DEXA）、X線透視（主に検診の胃バリウム検査）、手術中X線透視、CT、MRI、これらの業務を9人の技師が1週間のローテーションで行い、一部の技師で腹部・頸部超音波検査、また、乳房X線撮影は女性技師のみの撮影業務として行っています。

夜間および休診日も技師の持ち回りで待機し、呼び出し対応にて緊急撮影業務にあたっています。

令和5年度においては、助手が空席となり窓口業務等の負担が増えましたが、業務の効率化や休暇の取得方法を検討することで対応して参りました。

また新たに常勤の放射線科医が着任したことで、撮影された画像の診断が迅速に行われ、患者への対応が迅速化されました。さらには技師のスキルアップや知識の向上にもつながり、より高品質な医療サービスの提供に寄与しました。

【スタッフ】

室長 松尾 覚志
係長 釜石 明、佐藤 政弘、舟見 基
技師 久保田裕美、高橋 志織、但木 勇太
内藤 格、小林 洸貴、本村 暁子

【設備機器】

・一般撮影装置 (FPD3台)
・移動型X線撮影装置 (2台)
・乳房X線撮影装置 (1台)
・外科用X線透視装置 (2台)
・骨密度測定装置（DEXA） (1台)
・X線透視装置 (2台)
・CT（80列MDCT） (1台)
・MRI（1.5T） (1台)
・超音波検査装置 (1台)
・放射線情報システム (1式)

【令和5年度 検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般撮影	1850	2006	2106	1916	1982	1774	1925	2165	1835	1840	2049	2069	23517
ポータブル撮影	104	228	233	228	253	238	219	249	221	189	160	148	2470
透視・造影検査	63	104	109	126	96	113	127	126	99	61	106	96	1226
嚥下造影(VF)	8	5	7	7	10	7	8	2	1	7	7	4	73
乳房撮影	15	16	17	18	18	14	27	17	20	18	24	26	230
骨塩定量検査	120	160	152	134	138	168	165	142	156	121	129	143	1728
MRI検査	295	305	337	280	292	249	280	303	264	225	260	271	3361
CT	470	528	544	542	624	527	555	528	554	561	536	529	6498
オペ室撮影・透視	77	86	103	92	105	87	97	106	89	138	113	103	1196
超音波検査	73	81	83	87	87	84	88	91	65	62	63	79	931

【令和5年度の取り組み】

- ・5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行しました。放射線室部署内における感染症対策は引き続き従来と変わらないものですが、アフターコロナ・ウィズコロナにおける放射線室では従来の役割に加え、新しい技術や方法論を取り入れ、より柔軟かつ多面的に対応することが求められました。
- ・診療報酬改定で大腿骨近位部骨折患者に対する「二次性骨折予防継続管理料」が新設され、それに伴い骨塩定量検査数が約1割増となりました。骨粗鬆症への関心が高まっている中、骨密度検査の需要も年々増え続けております。ウイングベイにあります

済生会ビレッジで毎月行われている健康相談会に放射線技師を派遣し、簡易的な検査法ではありますが骨密度検査を小樽市民に無料でを行い好評を得ております。

- ・放射線技師の業務拡大に伴う告示研修の受講を促し、令和5年度末で5名が修了しました。新たに実施可能となる業務のうちの一つに造影剤を使用した検査の静脈路の確保があり、放射線技師の資質向上及びタスク・シフト/シェアの推進を加速させております。
- ・毎週水曜朝開催される内科外科放射線科合同カンファレンスに参加し、議事録をカルテに記載しまし

た。また4月より放射線科の小野寺先生もカンファレンスに加わったことでCT・MRI画像の読影のポイント・伝え方等を学び、より良い情報を医師に提供できるよう知識の習得に努めました。

【今後の目標】

アフターコロナ・ウィズコロナにおける放射線技師の役割はいくつかの重要な側面が考えられますが、コロナ禍で学んだ教訓として感染防止対策をより一層強化し、検査機器の消毒を徹底するなどこれらを日常業務の一部として定着させます。

またコロナ禍に発達したオンラインシステム等を活

用することで学会や講演会やセミナーなどに積極的に参加し、最新の技術を学び個々のスキルアップと共に放射線室全体のレベルアップを図り、安心と信頼の医療画像の提供を目指します。

医療技術部理念である『専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します』の遂行のため告示研修を全技師が修了し、タスク・シフト/シェアを行うことで、チーム医療を通じた医療現場の効率化と質の向上に貢献したいと考えております。

文責 技術係長 釜石 明

自分の周りだけ少子化じゃない

医療技術部 放射線室 内藤 格

済生会小樽病院に入職して9年目。医療機器の進歩に伴い節々でアップデートを求められる社会人生活ですが、ここ数年はあまり仕事面で成長できている気がしません。というのも、新しい家庭を築き始め、家族が増え、自分以外の存在に翻弄される日々を過ごしているからです。5年ほど前、なぜか週に何度も寝坊してしまう時期があり、いつも仏の顔をしている松尾室長を鬼の形相へと変えてしまいました。「鶏と結婚しろ!」と言われたのをよく覚えています。その後無事鶏と巡り会えたのですが、今は令和のコロナ禍真只中に生まれたひよこ2羽のほうがよっぽど良い目覚ましです。私の毎朝は5時台、「パパ起きて!」と、腹へのダブルひよこダイブから始まります。8月からは次男が1歳となり、2歳8か月の長男とともにだこキッズへ送ってから出勤します。当院の保育所が利用できなかったら恐らく時間・金銭面ともにもっと大変なのでかなり恵まれていると思います。妻が当院の職員ではないため、待機業務や19時を超える残業、急病センター勤務以外は大抵私がお迎えに行き、元気な日はそのまま公園や海で遊ばせてから帰宅、息子のどちらかが調子の悪い日は合計30kgの2人を担いで駐車場へ向かいます(片方を担ぐともう片方が歩きたくないとごねる)。晩御飯を作り、食べながら職場の遠い妻の帰りを待ち、風呂、歯磨きを済ませて私の腹の上で長男がおやすみ。腹から始まり腹に終わります。仕事の休日は保育所を利用できず親戚も近くに住んでいないため、もれなく息子2人の面倒を見なくてはなりません。自分の時間は夜22時から朝5時まで、または妻が時間をくれた時だけなので、睡眠時間を犠牲にして夜中とか朝2時起きで趣味のショアジギング(魚釣り)をしてから出勤したりします。そうでもしないと自分の時間なんて存在しないので、レッドブルを飲みながら気合でなんとかします。世の中の親という生き物は皆似たような苦勞をしていると思うので、自分だけが大変なんてことはないし、はたから見れば自業自得、家族が皆健康で楽しく過ごせている分恵まれているほうなのだという意識のもと毎日を過ごしています。

小樽市の高齢化率が2022年の人口約11万人に対しおおよそ40%なのはご存じかと思いますが、出生数は次男が生ま

れた2022年で385人、2023年で357人と2年連続で400人を下回り過去最少を記録しています。350人って、私が札幌市で中学生だった頃の1学年分ですよ?市という単位でこの数は減茶苦茶少ないし、これなら自分の息子は何かしらの種目で市内同年代トップくらい簡単に狙えそうだなと思ってしまいます。それに対し、小樽市の死亡数は2023年で2123人、市内の公共施設に子供用のおむつ替えスペースやトイレがあまりに少ないことを考えても出生数の増加は見込めず、これから市内の人口が増えることはまず考えにくいです。現在の小樽市は70歳代の割合が最も多いので、あと20~30年はこんな感じかもしれません。もしこのままのペースを40年保つと、ざっくり単純計算で11万人- $(2120-350) \times 40 \text{年} \div 39,200 \text{人}$ 、市の基準5万人を余裕で下回るので、このままだと40年待たずして小樽町になってしまいます。その反面、私の周りにはなぜか子供が沢山います。私自身が5人兄弟姉妹の真ん中だったのも要因の1つですが、息子2人に対してこが9人います。これぞねずみ算。まだ増える予定です。実家に親戚が集合すると居間がまるで保育所と化し、少子化とは…?と思ってしまいます。現在の日本で少子化が進む要因は様々あると思いますが、人あつての国と地域です。それと同じように、患者さんあつての病院です。そう遠くない未来、患者さんがどんどん減って小樽市内の病院がすごい勢いで潰れていきます。今現在働いている方々は逃げ切れるかもしれませんが、次の世代はどうなるでしょうか。息子に自信をもって医療職を勧められない時代が来るかもしれません。その時になってみないと分かりませんが、少なくとも自分の息子には大変な思いをさせたくはないと切に望むばかりです。



軽く実家に集まっただけでこうなる

リハビリテーション室

【概要】

リハビリテーション室

算定疾患別リハビリテーション料

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
- ・運動器リハビリテーション料Ⅰ
- ・心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
- ・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
- ・がん患者リハビリテーション料

【スタッフ】

リハビリテーション室

室長：平塚 渉

理学療法課 課長：髭内 紀幸

係長：松山 朋也

主任：松村 真満、室矢 康治

作業療法課 課長：山中 佑香

主任：高橋 靖明、林 知代、
三野宮裕樹

言語聴覚課 主任：加賀 潤輝

理学療法士：41名 作業療法士：26名

言語聴覚士：7名 助手：1名

【業務内容】

地域の中核的医療機関として地域に密着し、理学療

法士、作業療法士、言語聴覚士が各々の専門性を生かししながら協働し、患者さんを中心としたリハビリテーションを提供することで、患者さんの生活・社会復帰を支援しております。

対象としては運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、がん、糖尿病など）、廃用症候群等、多種多様な患者さんへ病期に問わず介入しております。

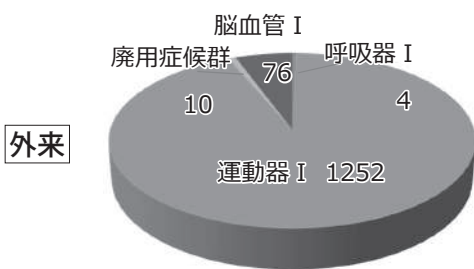
【リハビリテーション室の特徴】

急性期病棟では発症・受傷（術後）早期から介入し、多職種と協働しながら早期離床を促します。また、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟とも連携を図りながら、早期回復を目指したリハビリテーションを提供しております。

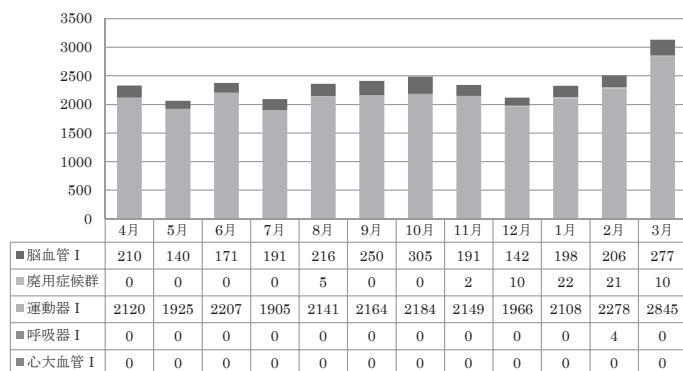
回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟ではチーム一丸となって患者さんへのリハビリテーションを提供し、患者さん個人の生活背景や生活環境を意識しながら、再びその人らしい生活が送れるよう支援しています。

また、各種専門外来（肩・手・肘・膝・腰・スポーツ、骨粗鬆症、内分泌、緩和）の各チーム（手・肘、NST、内分泌・糖尿病、緩和ケア、認知症ケア）へ積極的に関わりながら、より高い専門技術の提供に努めています。

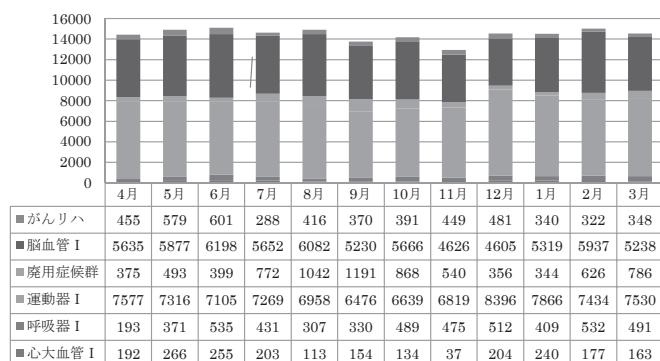
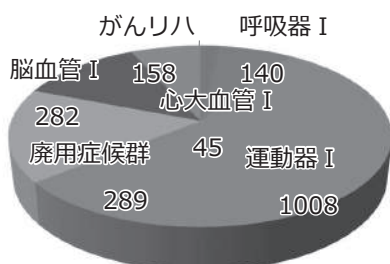
処方



単位数



入院



【令和5年度の取り組み】

感染対策の継続：昨年度に引き続き、リハビリテーション室では①リハビリスタッフの体調管理徹底、②標準予防策遵守、③環境消毒や室内換気の習慣化、④時間差出勤による入院エリアのゾーニング継続、⑤防護対策強化など感染対策の徹底に努めてきました。5月以降は、スタッフの出勤前検温管理の終了や自宅療養期間の短縮など一部感染対策内容が緩和されてきました。一方で、昨年度に続き6月～1月の期間においては、新型コロナウイルス感染者の発生や濃厚接触者による患者様への介入制限・出勤制限等によりスタッフ人員不足の影響を受け、患者様への十分なリハビリテーション提供が行えない状況が続きました。リハビリテーションでは感染対策を徹底し「感染しない・感染させない」を最重要課題として取り組んできました。

心大血管リハビリテーション：当院では鬱血性心不全などの慢性心疾患の患者様を中心に、心大血管リハビリテーションを提供しています。対象となる患者様は、高齢でかつ合併疾患を抱えている方も多く、全身のリスク管理を行いながら安全なリハビリテーション提供を通じて患者様の心身機能回復に努めています。

COVID19病棟リハから各病棟でのリハへ：5月以降、コロナ病棟が廃止となり、各病棟での感染対応や新型コロナウイルス感染患者への直接的リハビリ介入が開始されました。感染患者へのリハビリ介入は、感染リスクが高くなる為、スタッフ一人一人がPPEを確実にけるよう、学習・練習しながら安全な運用に努めてきました。

リハビリテーション科医師の充実：今年度も札幌医科大学附属病院リハビリテーション科より3名の非常勤医師が月1回～週1回の頻度で来院され、外来リハ及び回復期リハ病棟・急性期病棟を中心にリハビリテーション運営に携わっていただいております。リハ科医師の協力により、高次脳機能評価（ドライビングアセスメント）やVF評価を始め、リハビリ介入必要性の判断やリハビリ目標の再設定、在宅復帰に向けた支援方針の見直し等が定期的に行えるようになってきており、リハビリテーションの質が向上されてきています。

地域との連携強化：今年度もウィングベイ小樽の済生会ビレッジでは「健康相談会」・「済生会健康フェスタ；ウィングベイウォーキング」・「野球肘検診」などを開催することができました。また、小樽南部圏域での「フレイル予防」をテーマにした出前健康教室を、最上会館（からまつ）15名、奥沢会館（おくさわ）14名、済生会ビレッジ（ひだまり）19名、信香会館

（手と手）20名、住ノ江会館（すみのえ）23名の5町会で実施することができ、少しずつ一般市民向けの活動が定着されてきました。

小樽市内の委託事業につきましても、個別ケア会議（書面開催）への参加や二次骨折予防事業（ハイリスクアプローチ）への協力など通じ、ケアプランの質向上や骨粗しょう症対象者の医療機関受診率向上に貢献することができました。

老人保健健康増進等事業（厚生労働省）につきましては、今年度から、喜茂別町以外に共和町・古平町の2町が加わり、当院での遠隔システム（以下ICT）を活用し、地域ケア個別会議や利用者のご自宅においてサービス担当者会議を開催することができました。対象者の詳細は、喜茂別町対象者2名（支援数：1例目10回、2例目4回）、共和町対象者4名（支援数：1例目3回、2例目5回、3例目4回、4例目1回）、古平町対象者2名（支援数：1例目2回、2例目2回）でした。

ICTを通してニーズや問題解決に向けた課題・目標等をご本人・ご家族やサービス提供者と共有し、①身体機能・動作能力の評価、②自主体操の指導、③ご本人と体操や活動実施状況の共有、④定期的な評価・助言等、⑤介入効果や運動習慣化の可能性や課題等について検討することができました。

グループ施設との連携強化：昨年同様、関連施設の「老人保健施設 はまなす」へ当院スタッフが定期的に出向しており、入所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを提供することで、横断的な在宅復帰支援を継続することができました。

糖尿病運動指導：昨年度に引き続き、感染拡大の影響で、一般市民の方を対象とした健康増進教室や日本糖尿病協会協賛の小樽ウォークラリーなどの企画が中止となってしまいました。

学術活動：今年度は、対面開催の学会・研修会が増え、リハ室からも多くの発表・参加を行うことができました（詳細については下記参照）。

・がん緩和ケアに関する国際研究学会（3名参加）

・第53回北海道作業療法学会 学術大会in恵庭

ハンズオンセミナー：「筋電義手」山中佑香

「CMCEを用いたことで、多職種連携と作業の可能性を図れた終末期がん患者の事例」 齋藤駿太

「COVID-19病棟に転棟後、生活行為への介入により直接自宅退院に至った事例」 三野宮裕樹

「作業療法士がアドバンスケアプランニングに介入し短期間で自宅退院が可能となった事例」 林知代

「コロナ禍における院内オンラインリハビリの取り組み」 山中佑香

・がんのリハビリテーション研修会（6名受講）

・第57回日本作業療法学会in沖縄

「緩和ケア外来にてOTがアドバンスケアプランニングに参加した一事例」林知代

「身体障害領域の高齢者における作業との結び付きに関する評価尺度の開発」齋藤駿太

・第6回済生会リハビリテーション研究会in金沢

テーマ「いきいきと地域で生活するためにリハビリテーションの可能性を探る」

「ウェルネスタウン」構築へリハビリテーションの可能性

・第36回 日本肘関節学会学術集会

「上腕骨内側上縁鏡視下術後のリハビリテーションと成績について」五嶋 渉

「肘関節周辺外傷術後の屈曲制限に対するSerial Static Splintの効果」山中佑香

【今後の目標】

新型コロナウイルスは第5類となりましたが、高齢者の患者様が多い当院リハビリテーション室では「感染しない・感染させない」を念頭に踏まえながら、引き続き感染対策に取り組み、併せまして、医療安全面での対策強化も図りながら安心・安全なリハビリテーション提供に努めていきます。また、学習と成長の視点では、専門職者一人一人の強みを最大限に活かしつつ、また一方で、お互いの弱みを補い合えるような素晴らしい組織を目指していきます。その為には、日々の新しい知識を学びながら、その得られた知識がそのまま臨床場面に反映できるような教育体制を整えていくことが重要と考えています。今年度も定期的な勉強会開催を通じて、積極的な知識補完に取り組んでいきたいと思ひます。また、ワーク・ライフバランスを念頭におき、引き続き業務の効率化を図りながら時間外業務量の削減を図ると共に、計画的な有給休暇取得を目指します。顧客の視点では、質の高いリハビリテーションの提供は勿論のことですが、患者様を迎え入れる準備（清潔保持・整理整頓）、患者様に接する際の姿勢・態度・言葉遣いなどについて、常に「初心」を忘れず丁寧に対応することを心がけながら「後志から選ばれるリハビリテーション室」を目指していきます。地域健康増進に関しましては、感染状況に合わせながら、済生会ビレッジにて多職種協働で企画しています「健康相談会」や「介護予防啓蒙活動」等へ積極的に参加することで、地域住民の皆様に対して貢献できればと考えています。

【理学療法 PR】

2023年度よりCOVID-19の感染予防に励みながら臨床の患者様へ介入して、可能な限り住み慣れた環境へ戻れるよう、早期から積極的に関わり機能回復を目指すよう取り組み続けました。またコロナ禍で社会的

交流が不足しフレイル（日本語に訳すと「虚弱」・「衰退」・「脆弱」）に陥った地域住民への健康相談、健康教室、遠隔診療といった関わりをオンライン・対面共に積極的に行いました。

今後も質の高い理学療法技術が提供できるよう、コロナ禍で止めていた院内勉強会を再開して自己研鑽に努め、地域へ貢献できる人材を育成していきます。

【作業療法 PR】

2023年度はCOVID-19への対応、感染を予防した対応の二刀流で臨床を乗り切りました。作業療法部門の強みである地域での作業訓練（外出しての買い物訓練、公共交通機関の利用に向けた外出訓練）を再開し、患者さんが住み慣れた小樽・後志で安心して暮らせるよう作業療法の提供を継続しました。質の高い作業療法が提供できるよう院内・院外勉強会や学会にも積極的に参加し、他部門や他院と協力した研究活動も行いました。今後も更なる発展と患者様の笑顔のためスタッフ一同も笑顔で充実した時間を過ごせるよう頑張っていきます。

【言語聴覚療法 PR】

2023年度は、COVID-19患者を含む肺炎患者への早期の言語療法への介入をしておりました。高齢化に伴い、嚥下機能が低下している患者さんへ質の高いリハビリを行うことで住み慣れた地域での安全な食事を継続できるよう支援しておりました。また高次脳機能評価・訓練に対しても力を入れており、脳血管疾患等で運転に対しての不安を抱える患者さまに評価を行い他職種でのカンファレンス等も積極的に行っています。

今後も、「口から食べれるようにするためには済生会へ」と言われるよう、地域活動・自署内での勉強会で自己研鑽に励んでいきます。

文責 医療技術室長 平塚 渉

新天地

リハビリテーション室 理学療法課 : 及川 怜

2024年1月より入職しました理学療法士の及川怜と申します。宜しくお願い致します。

札幌にある脳神経外科を中心とした急性期病院を昨年12月に退職し、この職場に入ってから早いもので3カ月が経とうとしています。新卒の時とは違って新しいことを覚えるのに倍以上時間がかかってしまい、持ち前の笑顔で誤魔化すことも少なくありませんが、先輩や後輩に助けをもらいながら日々楽しく働いています。中でも同学年の浅香と中田には業務でのサポートに留まらず、とても面白いボケやツッコミなどを教わることも多くとても感謝しています。本当に面白いです。本当です。

私自身、体格が大きく威圧的に感じてしまうことがあったり、普段の顔が「怖い顔をしている」と言われることもあり接しづらいと感じてしまうことがあるかもしれませんが、基本的には何も考えておらずぼーっ

としているだけです。人と話すことが好きなので気軽に話しかけて頂けると嬉しいです。

プライベートなことを話すと、趣味は競馬とボードゲームです。特にボードゲームは月に1回くらいの頻度で遊んだりしています。興味のある方や人数が足りなかったときは是非お声掛けください。一緒に遊びましょう！！

何をするにしても時間がかかってしまう私ですが、少しずつ仕事に慣れていながら日々の業務に還元していけたらと思っています。今後とも宜しくお願い致します。



好きなボードゲームはドミニオンです！！

入職のきっかけ

リハビリテーション室 言語聴覚課 蔦 亜友理



スキー仲間とコースをみてます

2023年12月から中途採用で回復期病棟で働かせていただいています。以前の職場でも回復期病棟で働いていたことはありますが、またガラッと環境が変わったので手探りの毎日です。いろいろ勉強させてもらいながら働いています。

転職のきっかけとなったのは先輩の一声でした。私は幼少期からスキーをしています。学生の頃はスキー部やインストラクターなどスキーをする機会が多く、それに伴って怪我也多かったです。一年に一回のペースで怪我をしていました笑そして済生会のリハビリには毎回お世話になっていました！転職を考えていた時期に「うちきたら？」の先輩の一声で転職を決め今に至ります。その結果、スタッフの皆さんに恵まれ毎日楽しく働くことが出来ています。まだまだ分からない事ばかりなので、先輩の方々に相談しながら、これからも仕事も頑張りつつ、スキーも楽しみたいと思っています。

1年を振り返って

リハビリテーション室 作業療法課 我彦 由樹

当院に入職し1年と少しが経ちました。前職では5年9ヶ月勤務し、3ヵ月のニート期間後、当院で勤務させて頂いています。夫の転職活動成功に伴い、大学から約10年過ごした青森県弘前市を発ち、地元北海道に帰ってきました。10年間青森で過ごすとはじめはストレスだった津軽弁の聞き取りもある程度習得し快適に楽しく過ごしていましたが、やはり地元が一番落ち着きます。今回、そんな北海道の、さらに自分が生まれた街である小樽で仕事できることを大変嬉しく思います。そんな嬉しい気持ちとは裏腹に、勤務先が変わることはとても不安でした。前職の3倍以上もリハビリスタッフのいる環境に慣れない部分があたり、当院で

初めて経験する業務もあつたりと、1年以上経っても未だに不安・緊張感があります。臨床経験はまだ浅く知識・技術共に未熟ですが、たくさんの先輩たちに指導・助言いただきながらなんとか日々の業務にあたることができています。今後も皆さんからのご指導いただきながら成長していきたいと思っています。今後ともよろしくをお願いします。



弘前はねぶたです

1年を振り返って

リハビリテーション室 作業療法課 杉下 智香

社会人1年目は様々な方に支えられた1年でした。私は入職後外来部門に配属され、入院・外来両方の患者様を担当することになりました。覚えることも多く、目まぐるしい日々を送りましたが、なんとか1年を終えることができたのは職場の先輩方、家族のお陰だと思います。先輩方には、治療方法からコミュニケーションまで様々な内容を教えていただきました。学生時代とのギャップに苦しむこともありましたが、その都度具体的に教えていただき成長できたと思います。また、お食事に誘ってくださるなど気にかけていただいたことも働きやすくなる一因となりました。

大学時代には秋田県で一人暮らしをしていました。コロナ禍の中あまり帰省することもできず、友人にも会えず、ほとんど人と話さない時期もありました。いざ社会

人となり実家に戻ると家族との食事、会話があり、愛犬に癒しを貰い、生活面だけでなく精神面でも支えられていることが実感できました。

そんな皆様からの支えがあつて今日の私があると思います。これからも周りに支えられた分、患者様を支援していけるよう精進していきたいと思います。



我が家のアイドル

大学院の経験を得て

リハビリテーション室 作業療法課 齋藤 駿太

沖縄県で開催された第57回日本作業療法学会で、大学院の修士課程で取り組んでいた【身体障害領域の高齢者における作業との結び付きに関する評価尺度の開発】という研究で優秀演題賞をいただくことができました。全1508演題からの選出だったこともあり、大変光栄でした！嬉しさのあまり、思わず調子に乗ってしまいそうになりますが、今回の結果は、周囲のサポートがあったからに他なりません。

思い返すと、臨床7年目に突然大学院進学の相談をさせて頂いたにも関わらず、職場の皆様には温かいサポートをしていただき、大変学びやすい環境で、大学院に行くことができました。また研究のデータ収集においても、リハビリテーション室の皆様をはじめ、患者様にも協力をしていただきました。そのため、今回のように一つの成果として賞を頂けたことは、大変嬉しく思うと同時に、何より職場の皆様と協力していた

だいた患者様には、心より感謝しております。

現在は作業療法士として、臨床家と研究初学者の2足の草鞋を履いている状態ですが、これからも患者様や職場の皆様に貢献できるように、自分のできることをしていきたいと思っています。



賞をもらった筆者

栄養管理室

【概 要】

(1) 臨床栄養管理業務

チーム医療の一員として多職種と連携した栄養管理を行っています。適切な栄養アセスメントや栄養指導を実施することで、患者さんの食生活を変容させ、栄養状態や食事の内容、摂り方などを改善し、健康の維持・増進、疾病の予防や疾病の治療に寄与することを目的としています。

(2) 給食経営管理業務

病院給食は、通常の食事とは異なり医療行為の一環として実施されるものです。疾病治療あるいは治療上の医療効果を高めるために必要な栄養源の補給を行い、衛生管理に十分配慮し、安全で安心な給食を継続的、かつ安定的に提供し、患者さんの食への楽しみに対する満足度を得ることを目的としています。

(3) 沿革

- ・給食管理業務は、2004年より給食委託会社へ業務委託しています。2022年10月1日～2025年9月30日の期間においては、株式会社LEOCと締結しています。
- ・2013年度以降、温冷配膳車・選択メニューの導入、お楽しみ食の拡充など患者サービスの向上に努めています。
- ・2020年9月に小樽病院と重症心身障害児（者）施設みどりの里が統合、2021年より健診センターでの特定保健指導業務開始となり、疾病予防・急性期から回復期までの医療と福祉の栄養管理を管理栄養士6名体制で行っています。

【栄養管理室 理念】

- ・患者さん一人ひとりの状態に合わせた栄養管理に努めます。
- ・安全で安心して食べられる、家庭料理に近い食事の提供に努めます。
- ・退院後も継続できる食事療法の支援に努めます。
- ・患者さんに栄養と笑顔をお届けします。

【スタッフ】

(1) 職員構成

- ・臨床栄養管理業務 技術課長：多田 梨保
技術主任：権城 泉
管理栄養士：一島妃東美
管理栄養士：栗田 靖子
管理栄養士：西澤 一步
管理栄養士：佐藤かりん

管理栄養士：奥嶋寿美子

(産休代理 ～5月31日)

管理栄養士：斎藤 美幸

(産休代理 11月1日～)

- ・給食経営管理業務 株式会社LEOC

(2) 認定、専門資格の現状

(同一管理栄養士の重複資格取得あり)

- ・病態栄養専門（認定）管理栄養士 2名
- ・がん病態栄養専門管理栄養士 1名
- ・NST専門療法士 4名
- ・日本糖尿病療養指導士 2名
- ・日本栄養代謝専門療法士 1名
- ・静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士 1名
- ・栄養経営士 1名
- ・人間ドック健診情報管理指導士 2名

【当部署の特徴】

臨床栄養管理業務では入院早期に栄養計画を立案し、患者個別に必要な栄養量を算出、病態を把握し、適切な食事が提供されるように医師・看護師など多職種に働きかけています。提供された食事が、きちんと患者さんに摂取されるよう、食欲不振がある場合など個別に嗜好調査を行い食べていただける様に食支援を行っています。給食経営管理業務には、臨床栄養管理・給食経営管理のどちらの知識も持ち合わせていなければ、患者さんの栄養管理は行えません。そのため、給食提供における運営方法、臨床栄養学に基づいた献立作成についてまとめた給食管理業務マニュアルを作成しています。

チーム医療にも積極的に参画し、NSTをはじめ、緩和ケア、糖尿病ケア、認知症ケアにおいて、臨床栄養管理を行っています。外来患者さんにおいても、栄養教育として継続的に様々な栄養指導を行い、疾病の改善・予防に努めています。

【実績】

(1) 栄養指導実施件数

入院 個人指導		167件
外来 個人指導		279件
糖尿病透析予防指導		0 件
特定保健指導	動機付け支援	72名
	積極的支援	96名
合 計		614件

(2) 栄養情報提供書の作成：101件

栄養補助食品の付加	71件
嚥下食	1件
経腸栄養	5件
静脈栄養	17件
その他	11件
合計(重複項目あり)	105件

(3) 給食延数

食 種	小樽病院	みどりの里
一般食	110,931食	53,692食
特別食	58,673食	4,390食
濃厚流動食	4,254食	63,082食
入院患者合計	173,858食	121,164食

(4) お楽しみ食提供回数

行事食		21回
日本全国味めぐり給食		9回
世界味めぐり給食		3回
あんかけ薬膳焼きそば		7回
減塩食 小樽ゆかりの人 シリアル	石原裕次郎御膳	4回
	伊藤整御膳	4回
	小林多喜二御膳	4回
総合計		52回

(5) 嗜好調査

後期1回実施。

後 期	
対 象 食 種	入院患者 (但し、経管濃厚流動食・嚥下食・きざみ食・ミキサー食・流動食を喫食している患者は除く)
目 的	食事の質の向上と家庭料理に近い食事の提供に向けて、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実 施 日	10月16日～10月20日
方 法	聞き取り
調 査 内 容	◇食事について (聞き取り) ①主食の硬さについて (ソーメン・パンは除く) ②おかず (肉・魚・野菜) の硬さについて ③食事の味付けについて ④病院食は今後の食生活の参考になるか ⑤食事の満足度調査について ◇その他ご意見、ご感想

(6) 学生教育

・実習受け入れ

養成職種	学校名	学年	期間	人数	実習目的
管理栄養士	天使大学	4年	8月14日～8月25日	1名	臨地実習Ⅴ・Ⅵ(臨床栄養学)
	藤女子大学	4年	10月16日～10月27日	2名	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)

(7) 栄養情報誌「栄養だより」の発行

今年度は、実施しておりません。

(8) 北海道済生会支部事業

事 業	回 数
食料支援事業	89件
済生会ビレッジでの健康相談	2回
小樽市医療・福祉の一体化事業	骨粗鬆症予防の講話 0回

【令和5年度の取り組み】

・チーム医療における専任管理栄養士の配置、カンファレンス・回診への参加で必要なことは、多職種との連携はもちろん、病態を理解し適正な栄養管理を行うことです。管理栄養士の育成では回復期リハビリテーション病棟の専任管理栄養士が、学会の国内施設研修支援制度に選考され、長崎県の回復期リハビリテーション病院にて臨床栄養管理を学んできました。毎月継続している事では、症例検討会を行いました。臨床場面での気づきや疑問点を整理し、客観的に捉え分析する能力を高める、またディスカッションすることで他者の意見や考えから

学びを深める機会を作っています。研究活動として学会発表、学会・研究会での大会長・座長、書籍執筆などにも取り組みました。

・協会けんぽ北海道支部の「被保険者に対する特定保健指導の業務委託」を受け、本稼働して2年目を迎えました。健康経営に取り組む事業所が増えており、健康への意識が高い健診当日に腹囲・BMI・血圧から保健指導の対象となり得る方に、特定保健指導を実施しています。1年目での問題点改善に取り組み、保健指導業務が行いやすいよう管理業務の見直しを行いました。

・かねてより課題であった、給食委託業務内容の標準

化に取り組みました。献立内容の見直し、業務の適正化・効率化を図り、現行の厨房運用に合わせた業務改善ができました。

- ・北海道済生会支部事業にも取り組みました。済生会ビレッジでの健康相談では、健康・暮らしの悩みについて地域住民の課題解決に、栄養の専門家として参加しています。済生会ウェルネスフェアでは「おなかの健康はからだの健康」をテーマに、腸内環境や発酵食品についてパネルを展示し、健康情報の発信を行いました。
- ・糖尿病患者会「小樽なでしこ友の会」には、当院で糖尿病療養指導士の資格を有する管理栄養士・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・看護師などが所属しています。感染症予防のため活動ができない期間がありましたが、夏・冬のウイングベイウォーキング、Ⅰ型糖尿病患者の勉強会などを企画し活動を再開しました。

【今後の目標】

- ・治療効果を高めるための栄養療法、栄養管理を速やかに行うため、管理栄養士の病棟常駐を目指します。
- ・適正な栄養管理ができる体制作りに取り組みます。
- ・院内のタスク・シフト/シェアに参画します。
- ・医療安全・感染予防の観点より給食委託業務内容を標準化し、適正業務となるよう見直しを行います。
- ・済生会ビレッジを活用した、地域住民への栄養情報の発信、食事による健康改善・疾病予防に繋がる取り組みを目指します。

文責 技術課長 多田 梨保

1年振り返り、次の目標

医療技術部 栄養管理室 佐藤 かりん

管理栄養士として働き始めて3年目、済生会小樽病院にきて1年目の年でした。これまでは直営の病院で働いていたため日々の業務は 給食>栄養管理 でしたが、もっと栄養管理を学びたいと思い、転職を決意した年でした。済生会小樽病院の栄養管理室は尊敬できる方々の集団で、毎日が楽しく刺激的な日々を過ごさせていただいております。知識不足で困った際には手厚くフォローして頂ける上司の皆様や病棟では親切に対応して頂ける多職種の皆様が心強く、前向きに取り組むことができました。そして、これまで管理栄養士としての人生に悩み、方向性がわからなくなっている中、栄養を通して臨床に携わる楽しさを改めて再確認できる1年となりました。徐々にやりたいことも増え、1月には大学院入試に挑戦しました。無事合格し、4月から社会人大学院生です。進学への後押し、許可し応援して頂いた上司の皆様に

感謝し、精一杯頑張りたいと思います。また、来年度はNST専門療法士資格取得を目標としており、研修や試験も予定しています。欲張りすぎですが、やる気と体力のある時に突っ走りたいと思います。

最後になりますが、小樽を堪能できてない…と感じる今日この頃。美味しい食事とお酒が楽しめるお店、少しずつ探していきたいです。



検査で食べた「あんかけ薬膳焼きそば」美味しかったです！

臨床工学室

【スタッフ】

技 術 室 長 笹山 貴司
技 術 係 長 横道 宏幸
技 術 主 任 奥嶋 一允
臨床工学技士 吉田 昌也 今野 義大 山内 揚介
中村 友洋 及川 尚也 中野裕城子
斉藤亜里沙 服部 淳貴

3学会認定呼吸療法認定士：3名

透析技術認定士：2名

【業務内容】

臨床工学室では、生命維持管理装置である人工呼吸器や血液浄化装置を始めとした医療機器の操作および保守点検を中心に様々な医療機器を管理し、安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えております。また、日々高度化する医療機器に対応できるよう、最新の知識と技術を習得し、医師や看護師、その他コメディカルとともにチーム医療の一員として、安全で安心な医療の提供に努めております。

【当部署の特徴】

血液浄化業務・医療機器管理業務・手術センター業務・内視鏡センター業務と幅広い分野で他の医療職と協働して業務を遂行しており、急なオーダーや機器トラブルにも迅速に対応できるよう、365日・24時間オンコールにて対応できる体制を整えております。また、安全で適切な医療機器の操作を促進するため、看護職をはじめとする幅広い職員に対する研修や、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成・改訂を行っております。

1. 血液浄化業務

透析センターでは、看護師とチーム制で慢性腎不全患者さんに血液浄化療法を提供しており、患者さん個々の生体適合性に見合った人工腎臓の提案・透析関連装置の保守管理やガイドラインに基づく水質管理・リスクマネジメント業務等を担っております。また、体外循環によって血液を体外へ導き、病気の原因となる物質を分離除去する治療（アフェレシス療法：血漿交換や吸着療法等）にも携わっております。その他、腹水や胸水を濾過・濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収し安全に体内に戻す治療法（KM-CART）も施行しております。

2. 手術センター業務

手術センターでは、患者さんが安心して手術を受けられるよう、麻酔器や腹腔鏡装置等の手術用機器の始業点検や定期点検を実施しております。また、工学的

知識を活かし、内視鏡関連装置の操作や人工関節置換手術時の機器操作等も実施しております。手術野における直接介助業務につきましても、全手術件数1358件中474件携わっており、手術センターにおけるチーム医療の一員として医師や看護師と連携しながら業務を行っております。

3. 医療機器管理業務

医療機器管理室では、輸液・シリンジポンプや人工呼吸器など多種多様な医療用精密機械を医療機器管理システムにて一元管理しております。これら膨大な数の医療機器は、年間計画に基づく定期点検や日常点検および定期部品交換を実施する事により、必要時に安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えております。その他、気管挿管や気管切開をせずに専用マスクを使用する事で人工呼吸管理が可能なNPPV療法や鼻カニューラを使用し高流量酸素投与を行うネーザルハイフローにも対応する他、人工呼吸器の在宅復帰支援を行うなど、現場や患者さんのニーズに応えられるよう様々な場面でサポートを実施しております。

4. 内視鏡センター業務

内視鏡システムや軟性内視鏡（ビデオスコープ）等の始業点検・準備・終業点検に加え、使用後のビデオスコープを再生処理する為に洗浄消毒装置の操作を行っております。当センターではERCP（内視鏡的逆行性胆管造影法）やEUS（内視鏡的超音波検査）など専門的な治療を行っており、その際に使用される専用スコープや高周波装置についても担当技士が管理する事で、より安全な検査・治療が行われる環境づくりに努めております。

【過去3年の実績】

1. 血液浄化業務

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
血液透析・血液濾過透析	7,876件	7,953件	8,243件
持続的血液濾過透析	9件	16件	11件
アフェレシス療法	5件	0件	8件
腹水濾過濃縮再静注法	49件	60件	85件

2. 医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
シリンジポンプ	276件	273件	299件
輸液ポンプ	1137件	1011件	1079件
人工呼吸器	26件	35件	32件
フットポンプ	291件	261件	280件
低圧持続吸引器	9件	20件	20件
エアマット	114件	128件	85件
血管用エコー	154件	151件	153件
ベッドサイドモニター	19件	23件	348件
その他(主にモニター関連)	52件	147件	221件

(2) 医療機器修理及びメンテナンス件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
シリンジポンプ	13件	8件	19件
輸液ポンプ	48件	54件	48件
人工呼吸器	8件	8件	12件
除細動器	3件	4件	5件
フットポンプ	6件	2件	2件
生体情報モニター	11件	22件	15件
エアマット	4件	13件	3件
透析関連機器	98件	137件	122件
内視鏡関連機器	7件	9件	5件

3. 手術センター業務

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外科腹腔鏡操作	106件	94件	77件
整形関節鏡操作	115件	131件	116件
泌尿器膀胱鏡操作	130件	120件	141件
直接介助業務	644件	588件	474件

【令和5年度の取り組み】

透析装置及び水質管理関連装置や病棟で継続使用されている生体情報モニターを始めとした医療機器の安全性確保・維持に向けて、管理体制を更に強化しながら保守・点検・管理を適切かつ効果的に行い、機器トラブルの未然防止に努めてまいりました。これまで各病棟に定数配置されていたベッドサイドモニターも新たに中央管理をスタートし、点検やメンテナンスが行き届いた機器の提供と使用状況の把握が可能となりました。

多種多様化する医療機器を安全に使用していただく為に、医療機器操作マニュアルの作成・改訂作業を行い、近年使用頻度が増しているNPPV療法についての

全体研修を含めて年4回の院内医療機器研修を実施しております。

また、新型コロナウイルスが5類に移行した後も感染症の拡大防止に向けて、各種ガイドラインに基づき医療機器の運用方法や各種備品の見直しを図りながら、透析装置や人工呼吸器をはじめとした“医療機器を介した感染防止対策”に努めてまいりました。透析センターにおいてはコロナ陽性患者や濃厚接触が疑われる患者さんに対して、個室対応やゾーニングの徹底により空間的・時間的隔離を図りながら対応してまいりました。人工呼吸管理につきましても、ガイドラインに則りながら、ウイルス対策として呼気内に含まれるウイルス成分を捉えるバクテリアフィルタを呼吸器本体に設置するなど、より安全で快適な呼吸管理の実現に向けた取り組みを継続して行っております。

【今後の目標】

医療機器管理室にて中央管理する対象機器が増加した事に伴い、医療機器管理室内での点検業務やメンテナンス作業も更に増加する事が予想されます。これまで以上にスタッフ間の情報共有や協力体制を強化しながら、医療機器のメンテナンス研修や学会参加を通じて得た知識を活かし、引き続き安全で安心な医療機器の提供を行えるよう尽力してまいります。また、血液浄化業務については、血液透析だけではなく“血漿交換”に代表されるアフェレシス療法のオーダーが近年増加しております。こうした特殊な血液浄化業務にも対応できるよう、所属スタッフ内での技術の標準化を目指した上で、より安全な治療が提供できるよう努めていきます。2021年5月28日には、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律が公布されました。この法改正に伴い、臨床工学技士の仕事の幅が広がり、既に手術センターにおいては「手術室での内視鏡用ビデオカメラの操作」が新たな業務の一環として追加されました。

臨床工学技士が活躍する場では医師や看護師をはじめとした他職種との連携や協力が欠かせません。他職種と協働していく中で、医師や看護職の業務負担を軽減する為の取り組みとして、タスク・シフト/シェアに向けての検討や準備を進め、臨床工学技士の活躍の場を更に広めていきたいと考えております。

文責 技術係長 横道 宏幸

朝食とコーヒー

医療技術部 臨床工学室 奥嶋 一允

臨床工学技士として15年が過ぎた。1年目から比べると仕事内容は増えたが、当時よりも落ち着いて仕事をこなしている気がする。私には小学生の娘がおり、彼女の朝食を作るのが日課である。前日の夜にパンにするのかお米にするのかを確認するところから始

まり9割方パンを選択する。基本的にはサンドイッチであるが、本人の中でブームがあるため席に着いてからのオーダー式としている。「イチゴ!」と1つ食べ終わると「ピーナッツ!」と言って4～5枚は食べるが、毎日同じ味ばかりで飽きないのかなと思う時もある。(ちなみに切り落としたパンの耳は私の朝食となっている) 作り終わった後に飲むコーヒーが今日も終わったなと思う至福の1杯になっている。いつまで続くかわからないが、作れるうちは作っていこうと思いつきながら作っている今日この頃である。

看護部

■ 総 括

【看護部概要】

- ◆看護部職員：236名
 - ・看護師：184名
 - ・准看護師：9名
 - ・看護補助者：39名（介護福祉士：6名含む）
 - ・看護事務：4名
- ◆看護部管理者
 - ・部長1名、次長1名、室長1名、課長9名、主幹3名、係長15名
- ◆診療看護師（NP）：1名（13区分、21行為）
- ◆特定行為研修修了者：3名
 - ・精神・神経・循環領域コース＋栄養水分に係る薬剤投与関連：1名
 - ・創傷治療領域コース＋ろう孔管理関連コース：1名
 - ・救急病態管理コース：1名
- ◆専門・認定看護師（4分野・6名在籍）
 - ・慢性疾患看護専門看護師：1名
 - ・緩和ケア認定看護師：2名
 - ・皮膚・排泄ケア認定看護師：1名
 - ・認知症看護認定看護師：2名

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

1. 看護師数（常勤換算）と離職率（%）

年度	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
正規職員数	167	163	169	161	158
臨時、嘱託、パート	20	17	21	24	34
計	187	180	190	185	192
離職率	7.1	9.0	9.4	9.8	12.3

2. 42日以内再入院率（%）

	一般病棟
令和元年度	4.9
令和2年度	2.9
令和3年度	6.8
令和4年度	4.8
令和5年度	5.0

3. 摂食機能療法算定件数及び算定額（円）

	件数(件)	収入(円)
令和元年度	3,038	4,679,850
令和2年度	2,991	4,989,800
令和3年度	3,404	6,220,950
令和4年度	5,609	10,347,500
令和5年度	7,135	13,145,621

4. 入退院支援加算件数（件）

	入院支援加算2	入退院支援加算1
令和元年度	45	827
令和2年度	387	568
令和3年度	283	655
令和4年度	110	469
令和5年度	46	1227

5. 看護部に関するお礼と苦情件数（件）

	お礼	苦情
令和元年度	20	26
令和2年度	9	7
令和3年度	3	7
令和4年度	5	19
令和5年度	6	16

【看護部理念】

- ・済生会の創立精神「施薬救療」にのっとり、患者さん一人ひとりに「安心できる質の高い看護を提供します」

【令和5年度 看護部目標】

1. 看護過程を展開し、患者中心の看護を提供する
2. 患者に寄り添う入退院支援を行うために、多職種連携を推進する
3. 患者の利益を最優先し、互いの専門性を発揮したタスク・シフト/シェアを促進する

【令和5年度の主な取り組み】

- 看護管理室は昨年に引き続き、菅原実夏看護部長、中川尚美看護次長の3人体制で歩みました。
- ・看護部内でのタスク・シフト/シェアを進めました。看護師が行っていた移送業務を看護補助者に、看護補助者が行っていたアメニティや寝衣配布、退院後のベッド清掃を看護事務にタスク・シフト/シェアしました。また、多職種会議も開催し、各課との情報共有、看護部と各課で患者の利益を考え、職種の専門性を活かしたタスク・シフト/シェアを進めることについて話し合いを行いました。
 - ・コロナ禍で中止していたふれあい看護とインターンシップを再開しました。市内の高校生をふれあい看護：10名、インターンシップ：5名受け入れました。プログラムも見直し、新たに『看護の仕事について』の講義と手術室の体験を追加しました。講義では看護師の仕事の魅力ややりがいについて学

び、普段入ることのできない手術室での体験は高校生からも好評でした。当院での体験を通し看護師という職業に興味を持ち、将来の選択肢に入れていただけると嬉しいです。

- ・令和4年から継続していた臨床倫理管理者研修の事例検討会を開催しました。理論を用いて自部署分析・スタッフ分析を行い、課長・係長それぞれの立場で支援計画を立案し実践した結果を報告し、意見交換を行いました。2年間にわたった研修は一区切りとなりましたが、臨床倫理については今後も継続していきます。

【今後の目標】

コロナが5類感染症となり、10月にはコロナ専用病棟となっていた地域包括ケア病棟が通常運用を再開しました。地域包括ケア病棟の機能を活かし地域密着型多機能病院として患者さんが住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう、地域の皆さんと協働したいと思います。

文責 看護室長 金澤 ひかり



3 A病棟

【スタッフ】

杉崎 美香 看護課長
齋藤 亜妙 看護係長
砂川 友紀 看護係長

看護 師：23名

(うち短時間正職員：1名 パート：2名)

夜勤専従：3名 糖尿病療法指導士：1名)

看護補助者：10名

(うち夜勤専従：1名 学生アルバイト：1名)

看護事務：1名 医療クラーク1名)

【部署の特徴】

3 A病棟は外科・循環器内科・消化器内科・緩和ケア内科を中心とした一般急性期混合病棟です。大腸がん、心不全が上位疾患であり、内科・外科混合病棟という点では、確定診断から治療期までの過程に関わる病棟です。腹腔鏡下手術や、胃や大腸の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）などの内視鏡的治療や栄養管理、化学療法のためのCVポート増設件数が多いのが特徴です。

10歳代から100歳代までと幅広い年代が入院され、急性疾患のみならず、緩和対象となる苦痛や慢性的な疾患を抱える方が多く、入院日数も様々です。

各科の特色に沿った看護を実践するため、内視鏡検査時の処置、手術前後の看護、化学療法時の看護、CVポート時の介助、ストーマ管理、CART等多くの知識・スキルが必要となります。手術目的・検査目的・薬剤調整・緩和目的等様々な理由で入院されるあらゆる健康問題を抱える患者・家族の傍らに立ち、声に耳を傾け、最善のケアを提供するために多職種と連携した定期的なカンファレンス開催が多いのが特徴です。

【実績】

入院患者数	退院患者数	稼働率	平均在院日数
767人	811人	72.3%	16.5日
手術件数	内視鏡件数	化学療法件数	
404件	175件	53件	

【令和5年度の取り組み】

患者・家族と意思を共有するためには、詳細なデータベース聴取・分析を行った上で看護計画を立案し、個性のあるケアに繋げる必要があります。看護業務も少しずつ、他職種へタスク・シフト/シェアされることが推進されていても、看護計画に基づく看護の提供においては、看護師が専門職として行う責務があります。当病棟では、幅広い年齢層、入院患者の高齢化、独居世帯の増加などの現状のなか、一連の内科・外科的治療過程や、人生の最終段階である終末期を患者本

人のみならず、家族と共に歩いていくこと、どのような希望をもち生活していくか意思決定を支える力が必要です。今一度、この看護計画への取り組みを強化しようと考え、1.看護計画に基づいた看護を提供できる。2.自己の役割を認識し、行動できる。3.安全な医療を提供するために、患者に適した環境を整備するという3つの目標を立て、活動を行って来ました。

当病棟は4科の混合病棟であり、入院理由も多岐に渡っています。1人1人の患者に合った看護を提供するために、看護の標準化を目的に疾患や看護援助に対する勉強会チームや部署特有の検査や処置などを安全に介助するための手順を作成するマニュアル作成チームを編成し学習の機会を設け、看護師全員のレベルアップを目指しました。また、それらを活用し受け持ち看護師としての役割を発揮できるよう看護過程チームを編成し、患者・家族の意向を聞くことができ退院調整につなげることができるよう活動を行いました。また、安全な看護の提供や療養環境の整備のため、昨年に引き続きインシデントチームも編成し、インシデント分析やアクシデント予防のための意識改革に取り組んで転倒転落予防やレベル2以上の薬剤インシデント予防に努めてきました。

【今後の目標】

活動評価から受け持ち看護師が意向を確認すること、データベースに意向を記載することが弱いと今回の活動でも示されており、退院調整のみならず、看護計画に妥当性がなく、看護計画も患者・家族の意向を聞くことできていないという結果でした。今後は患者家族の意向を反映した個別性のある看護を提供し、入退院支援を行いたいと思っています。また、そのために必要な知識と技術を各々が、自身のキャリアに応じた成長を行えるようにタスク・シフト/シェアの取り組みを推進することで環境を整備し、安全な看護の提供に繋げられるよう努力していきたいと思っています。

文責 看護係長 砂川 友紀



仕事と大学

3A病棟 看護助手 中村 茅人

入職して今年の6月で丁度1年が経ちました。

それまでは助手の経験も介護の経験すらも無く、初めは右も左も分からない状態でした。

それにも関わらず同じ助手さんを初め、看護師の方々も一緒に業務についてくださり1つ1つ丁寧に教えてくださりました。

そのお陰により、少しずつではありますが業務のやり方を覚え、環境にも慣れる事が出来、今となつては3A病棟の皆さんと協働する他、自分1人でも介助が出来るようになったり日々のリーダー業務も任せてくださるようにもなりました。

今年度になってからは看護師さんの中に同年代の方が入職してくださり、日頃からも仲良くさせて頂くような仲間も増えました。

土日祝を基本とするシフトの裏側では、本来の顔である大学生として社会福祉士、精神保健福祉士の為の学業や部活動である軽音楽部の部長業に励んでいます！

大学の方では今年に入って大学



3A病棟の同年代



大学

4年生になった事により、普段の学業や部活動の他に卒論や就職活動、国家試験の為の勉強、実習が加わり大忙しの時期…。

将来は医療相談員として、最終的には看護師として！その為がんばっています！

息抜きの日友達と遊びに行ったり、趣味のギターを弾いてみたり音楽を聴いてみたりライブに行ってみたり…。

そんな自分にとって大切な音楽の中で1番に好きなアーティストは「My First story」です！ONE OK ROCKの弟のバンドで、最近では鬼滅の刃の主題歌でHYDEとコラボしたことで有名なアーティストです。

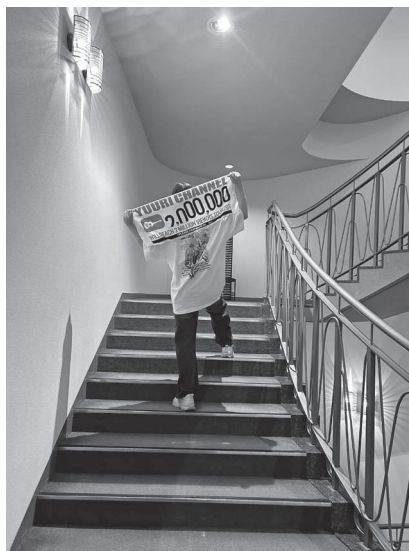
ライブに行くのもこのバンドであつたり、ラウドロックやメタル系の激しいのが多いです！そんな音楽やライブ、友達の力も借りて4年生も大学も仕事もこれからがんばっていきます！

エネルギー源

3A病棟 米澤 円香

3A病棟では様々な疾患の患者様が入院されることが多く、配属された当初は不安でしかありませんでしたが、入職してからの毎日はあっという間にすぎ、早くも2年半経とうとしています。病棟の皆さんの優しいフォローがあり、まだまだ足りないことが多い私を見捨てずにいてくれたおかげでなんとかここまで辿り着いています。2年目の今、入職からの1年を振り返ると楽しく仕事に行けていた時もありましたが、どうしても壁にぶち当たり、心が折れそうな瞬間が何度もありました。2年目になった今でもある話です。そんな時にいつも寄り添い、一緒に立ち止まってくれ、それでも最後には背中を押してくれたのは私の推しの存在でした。推しの曲を聴きながら出勤し、帰ってからは推しのライブ映像を見る、SNSを見る、そんな推し中心の生活が私にとってのリフレッシュになっています。ライブには遠征費、グッズ費、チケット代など

どうしても出費がかさんでしまいます。ですが、私にとって推しは最強のエネルギー源です。なので、推しの可愛いところ、かっこいいところ、おちゃめなところをたくさん見てエネルギー補給するために、これからも「推し事」も「お仕事」も頑張ります。まだまだ未熟者ですが、看護師としても一人間としても成長できるよう精進していきます。



3B病棟

【スタッフ】

岡本 麻理 看護課長
仙保 知子 看護係長
宮下めぐみ 看護係長
看護師 25名
准看護師 1名
看護補助者 7名

【部署の特徴】

3B病棟は、整形外科と泌尿器科の混合病棟です。整形外科は、幼児から超高齢者まで幅広い患者さんを対象とし、骨折、交通外傷など周術期を中心とした急性期看護を行っています。

泌尿器科の主な疾患は、尿管結石、腎結石、前立腺がん、膀胱がん、腎がん、慢性腎不全です。検査や手術、化学療法、ターミナルケア、透析療法と求められる知識の幅は広く、高い看護スキルが求められます。

地域柄高齢の患者さんも多いため、家族を含めた関りが重要となります。患者さんが安心して入院前の生活にもどることができるように多職種と連携し必要な支援が提供できるよう取り組んでいます。

【実績】

令和5年度

新入院患者数	1,290人
退院患者数	983人
病床稼働率	80.6%
平均在院日数	11.8日
手術件数	1,285件

【令和5年度の取り組み】

今年度は「専門職として責任を持った看護を提供する」「患者、家族の意向に添った看護過程を展開する」「患者の利益を最優先に考えたタスク・シフト/シェアを促進する」という目標を立て看護活動を行ってきました。昨年から継続して取り組んでいる看護過程の展開では患者さんの意向を取り入れた目標設定ができるようカンファレンスの充実を目指し管理者が積極的に参加するよう努めました。様々な年代の看護師がカンファレンスに参加し他者の考えを聞くことで学びの場になったのではないかと思います。専門職として受け持ち患者さんに責任を持った看護を提供するためにこれからも看護過程の充実に継続して取り組んでいきます。

【今後の目標】

3B病棟は入退院数、手術件数が多く、在院日数が短い同患者さんと長くかかわることが少ない状況です、手術目的で入院する患者さんが多いため周術期の看護に目を向けがちですが、患者さんを生活者として捉え、退院後の生活を見据えた看護が提供できるよう看護過程を充実させていきたいです。

文責 看護課長 岡本 麻理



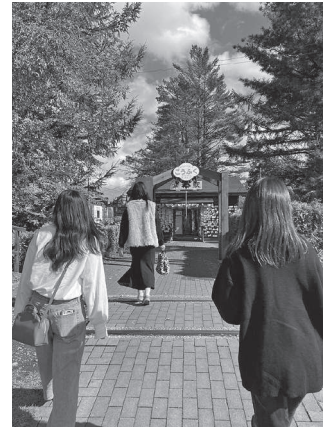
1年を振り返って

3B病棟 沖田 萌々花

看護師として働き始めて1年が経ちました。入職時は緊張しながら仕事をする事が多く、仕事を覚えることに必死であったという間の1年でした。仕事は初めての経験ばかりで毎日毎日学ぶことがたくさんあり、仕事をこなすことに必死で患者さんとのコミュニケーションもままならない状態でした。家に帰ってもご飯を食べてすぐに寝てしまう生活ばかりで休日でも家で過ごすことが多かったのです。2年目に近づくにつれ少しずつ仕事も覚えてきて、入職時に比べて気持ちに余裕をもって仕事ができるようになり患者さんとのコミュニケーションもうまく取れるようになってきたことでやりがいも感じる事が多くなってきました。仕事に慣れてきたことで休日には友達とも遊びに行くことも増え、充実した休日を少しずつ送れるようになりました。

2年目になり、1年目ではうまくできなかった退院支援や患者からの情報収集などを身に付けることができるように頑張っていきたいと思います。また、患者さんとよりうまくコミュニケーションをとり、退院後

の生活を見据えたケアを考えていけるように関わっていきたいと思います。まだまだ経験したことのない技術やケア、治療があり学んでいかなければいけないこともたくさんあるため、日々勉強も頑張りがりながら少しずつ自分のできることを増やしていきよりやりがいを感じられるよう頑張っていきたいです。そして、休日にも充実した日々を送ることができるようにプライベートも充実させていきたいです。



私の好きな友達との思い出

実際になってみてわかる病気のつらさ

3B病棟 平木 康太

5月に社会人サッカーが開幕。今年は身体も絞ってコンディション良好、今年は今までより楽しくサッカーができそうだった矢先。今季1試合目で前十字靭帯断裂という人生で最大の怪我をしてしまいました。7月に当院で手術を受け、入院中の対応をしていただいた医師や病棟スタッフ、リハビリの方々本当にありがとうございました。そして、入院期間は5週間にも及び、1歳の我が子をみながら仕事の合間で毎週荷物を届けにきてくれていた妻には申し訳なさ感謝の気持ちでいっぱいです。我が子というと、入院前は、寝かしつけはパパの役目でしたが、退院後は「ママとねんねする」としばらく一緒に寝てくれませんでした。ちょっと悲しかったですね。

タイトルにも書きましたが、実際に手術をして、免荷で数週間過ごす事、片足が付けられないというストレス、5週間という入院期間がどれほどつらいということが身に染みてわかりました。やっぱり「健康大

事！」と強く実感しました。この経験から、より患者の気持ちに沿って看護をしていこうと思いました。

仕事も配慮していただき、お陰様で日常生活は問題なく過ごせるようにまで回復しましたが、スポーツ復帰はまだ先です。妻からは「次はないよ」と1枚目のイエローカードをもらったので、2枚目をもらわないようしっかりリハビリに取り組みんで、健康な身体づくりをしていこうと思います。



4 A病棟

【スタッフ】

佐藤 悦子 看護課長

佐野 舞 看護係長

丸岡 貴子 看護係長

看護師：27名 准看護師：2名 看護補助者：7名

医療クランク：1名 看護事務：1名

（うち短時間正職員：2名 パート：1名）

看護師夜勤専従：4名 看護補助者夜勤専従：1名

3学会合同呼吸療法認定士：1名 特定看護師：1名

【部署の特徴】

4 A病棟は、消化器内科、脳神経内科の急性期病棟です。予約入院のほか、他医療機関からの紹介患者の受け入れを行っています。

消化器内科では、糖尿病（教育入院）や誤嚥性肺炎、虚血性腸炎、大腸憩室炎、胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）、治療内視鏡では胃や大腸の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する止血術を行っています。

脳神経内科は、後志圏内では数少ない急性期病院として、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っています。患者平均年齢79.3歳、認知症ケア加算1対象者が多く、脳卒中やアルツハイマー型認知症をはじめとする認知症疾患、パーキンソン病および関連疾患も増えています。認知症の患者が増加し、身体疾患を持った認知症患者は、せん妄や行動・心理症状を起こしやすく治療に難渋する事が多いです。受持ち看護師を中心にチームで情報共有しながら、患者・家族の思いに寄り添い意思決定支援を行い多職種で連携しながら地域へとシームレスな対応ができるように看護ケアを実践しています。

【実績】

新入院患者数	664人
退院患者数	567人
平均在院日数	24.2日
稼働率	84.1%
内視鏡件数	325件
認知症ケア加算	11431件

【令和5年度の取り組み】

1. 患者・家族の思いを反映した看護過程を展開する。

2019年度から看護管理者の倫理研修や倫理事例検討を継続し倫理的配慮のある看護の提供を目指してきた。

また、リーダーシップを発揮できる自律した看護師

の育成、ラダー教育や人材育成にも力を入れている。しかし、ケア項目が中心となって業務を遂行するだけの看護になり、看護記録監査の分析結果からも患者や家族の思いに寄り添った看護の提供・看護過程の展開どころか、見える化も2023年もできなかった。

看護の基本である看護過程の重要性を再認識し、受け持ち看護師を中心とし、看護過程の展開ができチームで共有され、患者の看護に最善を尽くして協働することが必要であるとする。

2. 多職種と協働し、入院前後の患者・家族の意向に則した支援ができる。

新型コロナウイルス感染症により面会が制限され閉鎖的な療養環境、家族からの聞き取り時間が制限されている中、入退院支援を計画的に行い、患者や家族の意思を早期の段階で確認しなければならない。外来・入院治療が継続され、経過と共に予測される結果のアセスメントを行い、療養先の選定を行わなければならない。そのため、今後も受け持ち看護師を主体とし、地域を含めた多職種連携を行い、退院後の生活の場の調整をシームレスに整えることが継続的に必要である。退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの必要性は、病棟スタッフ全体に浸透することができ、2024年度も継続して、多職種と協働する環境を作り、退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの充実化を図る。

3. 専門性を発揮しながら安全な医療を提供するために、タスク・シフト/シェアしながら、患者に合わせた安全な療養環境を提供する。強みを活かし看護師が指示・采配を行う環境・リーダーシップがとれる人材育成が必要である。その中で、看護師が専門性を発揮することが今後さらに求められる。

患者が安心して安全に入院生活を送れるように、感染対策やインシデント減少、医療安全にも力を入れる。

看護補助者と協働した業務改善。ABチームに看護補助者を配置。リーダーシップやメンバーシップ教育を実施、看護師の指示の元、協働して業務を行う。アサーティブなコミュニケーションを図り、気持ちよく働ける雰囲気を作り、ワークライフバランスをとりながら、仕事に意欲的に取り組めるように、定時上がり制度を継続して帰る風土づくりを行う。

【今後の目標】

1. 患者・家族の意向を反映した看護過程を展開し、多職種と協働した入退院支援を行う

リーダーシップを発揮できる自律した看護師の育成、ラダー教育や人材育成も継続的に強化している。

しかし、ケアが中心となって業務を遂行するだけの看護になり、看護記録監査の分析結果からも患者や家族の思いに寄り添った看護の提供・看護過程の展開や看護計画の見える化もできていない。安心できる質の高い看護の提供のためには、看護行為が専門的知識に基づき判断され、計画的に提供されなければならない。そのため、看護師は専門性を発揮し、看護方針を定め、患者・家族の思いを反映した個別性のある看護過程の重要性を再確認し、受け持ち看護師が中心となり、看護過程の展開を行いチーム全体で看護に最善を尽くして協働することが必要であると考えます。

DPCを意識した入退院支援を計画的に行い、患者や家族の意思を早期の段階で確認をしていくことが今後重要となってくる。外来から入院治療が継続され、経過と共に予測される結果のアセスメントを行い、療養先の選定を行わなければならない。そのため、今後も受け持ち看護師を主体とし、地域を含めた多職種連携を行い、退院後の生活の場の調整をシームレスに整えることが継続的に必要である。退院前カンファレンス

スや倫理カンファレンスの必要性は、病棟スタッフ全体に浸透することができ、2024年度も継続する。

2. 専門性を発揮しながら安全な医療を提供する

年代・キャリアバランスはとれている。その強みを活かして看護師が指示・采配を行う環境・リーダーシップメンバーシップがとれる人材育成が必要である。その中で、看護師が専門性を発揮することが今後さらに求められる。リーダーシップ、メンバーシップの基準ができたため、評価基準に基づいて評価しスタッフ育成に取り組んでいく。患者・家族が安心安全に入院生活を送れるように、感染対策やインシデント減少、医療安全にも力を入れる。各委員会やリンクナースと協働し感染対策、医療安全、褥瘡予防にも取り組んでいく。

タスク・シフト/シェアでは、看護補助者が看護師の指示のもと依頼票を使用した患者移送業務を実践していく。

文責 看護部 看護課長 佐藤 悦子



おびひろ・よいち・おたる

4 A病棟 高木 実圭子

私は地元が帯広で、社会事業協会帯広看護専門学校卒業後、初就職の場が余市で3年の責務を果たし退職、今は縁があつてこの済生会小樽病院で働いています。帯広には海がありません、余市にきて夏の海で遊ぶ楽しさを知ってしまい、ついに昨年、特殊小型船舶免許を取ってしまいました。みんなで、海でBBQしジェットに乗って花火をして過ごす休日は最高です。冬は雪が多いし湿気も含んでいて、すごく嫌ですがなんとか生きています。腰まで雪が積もった日、職員駐車場から雪かきを協力しながら行い、車を掘り出した後、無事に家に帰れると思って安堵していましたが、余市に戻ると自分の家の駐車場はロードヒーティングなのに全く意味を成しておらず、お金返してくださいと切に思いました。ロードヒーティングが故障しているんじゃないかと、管理会社に連絡までしましたが、雪の量が多すぎてのことでした。仕方ないですね雪国は。逆に雪が多いことでウインタースポーツも楽しく行えているので良しとしましょう。

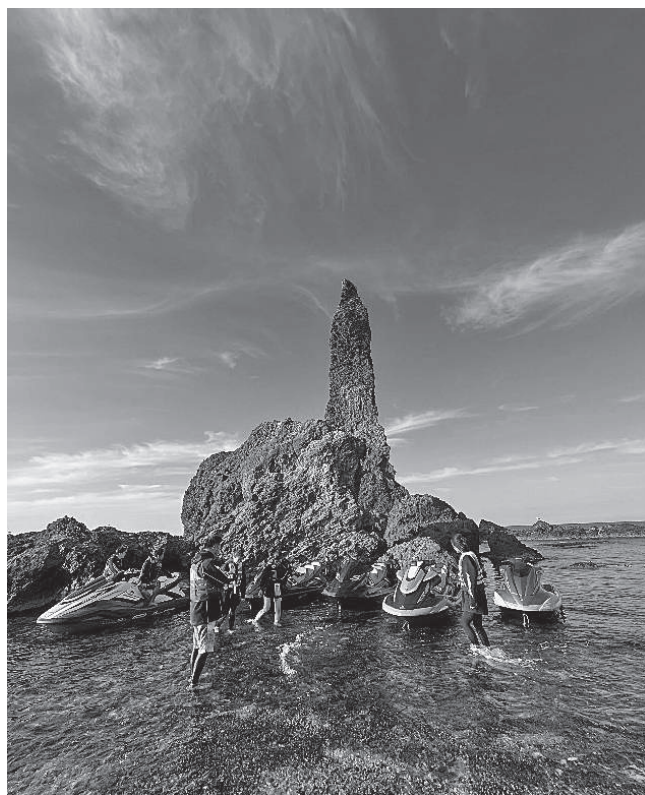
帯広は主に豚丼やインデアンカレー、スイーツが有名です。あと、かちまい花火大会。また、温泉は安い値段（490円〜）で良い施設もたくさんあります。またサウナブームにのってリニューアルしているところが多々あります。ロウリュウ・ロウリュウって感じですね。是非行ってみてください！いいところですよ、住みやすいですよ。小樽・余市は海鮮がとっても美味しいです。小樽は病院での飲み会以外では、ほとんど居酒屋さんへ行ったことがないので、美味しいごはん屋さんへ連れまわしてください、私はいつでも待っています。



海鮮丼は盛ってなんぼですね。

います。

美味しい食べ物を食べて、旨いお酒を飲んで、温かい温泉に浸かり、そして自由に遊ぶことが生きがいです。多少身を削ってでも生きがいのために、これからも私は働いていきます。



ろうそく岩までジェットでブイーンと行きました。



帯広のSORAきれいな施設、ロウリュウして整いまくっていい感じです。

看護師2年目になって

4 A病棟 三升畑 美来

4 A病棟で看護師として働き始めて2年目になりました。新型コロナウイルスの感染が広がっており学生時代は実習を十分に行うことができないこともあり、入職してすぐの頃は緊張と不安でいっぱいでしたが、先輩方に指導を受けながら学び少しずつ経験を積んでいくことで知識や技術を学ぶことができたのではないかと思います。2年目からはチームが変わり患者がガラッと変わりました。最初は慣れず前のチームの机に座りそうになったりナースコールに反応できなかったりすることもありましたが、最近では慣れ患者のことも理解できるようになってきました。私の部署には先輩がいません。そのため実施したことがない検査や処置ができるよう考えていただき、受け持ち看護師としての看護過程展開・看護添書作成・退院調整などについて親身に相談に乗ってもらい、少しずつではありま

すが行くことができています。まだまだ知識も技術も未熟ではありますが学習を進めわからないことは相談しながら、看護師として成長していけたらと思います。

元々これといった趣味がなく働き始めた時から何か趣味が欲しいと思っていましたが、なかなか見つからず2年目になってしまいました。趣味というほどではないですが寒い時期は夜勤明けに温泉に行くことにはまっていました。夜勤で疲れ切った身体で温泉に入りご飯を食べて寝るのが至福の時間でした。また暑さが落ち着いたら温泉で疲れを癒しに行こうと思います。また、車を運転することが好きで遠出はしていませんが市内をたまにドライブすることがありました。車は祖父から譲り受けたものでマニュアル車ではありますが何とか乗りこなしています。少しずつ運転する距離を増やしているところへ行けたらいいなと思います。

看護師として働いていく中で、夜勤もありいろいろ大変なことはありますが、遊びに行ったり温泉に行ったりして気分転換しながら自分なりに頑張っていると思います。



曾祖母の家のわんちゃん



横浜の赤レンガに行きました！

4 B病棟

【スタッフ】

伊井 洋子 看護課長

中山 優子 看護係長

大崎 朱美 看護係長

認知症ケア認定看護師 1名

看護師 16名（うち准看護師 1名）

看護補助者 8名（うち夜勤専従 2名）

【部署の特徴】

地域包括ケア病棟は、急性期治療を終えた患者さんや、在宅で療養中の患者さんを受け入れ、可能な限り在宅療養生活を継続できるように支援していく病棟です。

小樽市は、高齢化率が高く、老老介護や介護力が不足しているご家庭が多くあります。入院をきっかけに、自宅に退院することが困難になることも少なくありません。私たちは、医師や看護師だけでなく、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、管理栄養士、社会福祉士など、多職種がそれぞれの専門性を発揮し、地域とつながりながら、患者さんとそのご家族を支えていきたいと考えています。

【実績】

入院数	院内転棟(率)	自宅等からの入院(率)	平均在院日数	在宅復帰率
380名	187名(49.2%)	148名(38.9%)	22.5日	91.5%

【今後の目標】

秋以降、患者の増加と共に、病棟スタッフも増員されつつあります。地域包括ケア病棟の役割の一つである退院支援を通して、患者の満足や質の高い看護、さらにはスタッフのやりがいにつながるように取り組んでいきたいと思ひます

文責 看護課長 伊井 洋子

【令和5年度の取り組み】

病棟目標を、

①目的を持った情報収集を行い、患者中心の看護を行う

②多職種連携の中心的役割を担う

③患者に合わせた安全な療養環境の提供

としました。4 B病棟は、長らくCOVID専用病棟として活動してきましたが、5月にコロナが感染症5類に分類されてから準備期間を経て、10月から地域包括ケア病棟として本格的に再始動しました。コロナと奮闘している間に診療報酬改定があり、コロナの前と後では、地域包括ケア病棟に対する考え方も徐々に変わってきたように感じます。これまでは、院内の患者を中心に病棟の運営を考えていましたが、より地域とのつながりを求められるようになりました。地域からの緊急入院や、他院からの転院は情報が十分ではなく、情報収集や情報共有に時間がかかることもありますが、退院支援に必要なピースが何か、多職種の専門性を発揮してもらうためのつなぎ役はできたのではないのでしょうか。私自身もCOVID専用病棟からの切り替えが上手にできず、戸惑うことの多い1年でした。



2023年の大事件

4 B病棟 渡邊 千恵美

2022年5月生まれのトイプードルの男の子とご縁あり、我が家の二匹目の子となりました。名前はチャロです。とても人懐っこいのですが、臆病で甘えん坊。いつもそばにピタッとついてきます。一歳を迎えた後、めったにない夫の出張帰りに喜んで、後を追っかけて戻ってくる途中にキャンと泣いたとたん、前足をつくことができずに足がプラプラになった状態で私のもとへ戻ってきました。これはおかしい、折れているかもしれないと思い、病院へ行きたいのですが、すでに時間は20時を過ぎていました。かかりつけ医も他の病院も当たってみました。連絡が取れません。小樽ではどこも対応している所がなく、札幌の夜間救急動物センターに行く他はありませんでした。急いでみてもらわなくてはと車に乗り込み、センターに電話しながら病院へ向かいました。骨折の痛みとなれない車に乗せられて、私の手の中で震えながら病院へ着きました。ここでも再度、電話で確認したことの説明を受けて書類にサインをした後にさらに待って、やっと診察となり、レントゲンの結果左前足2本がポッキリ骨折していてギプス固定となり、帰宅した時には日が変わっていました。



ギプスのチャロ 痛々しい…



ジョンと元気になったチャロ

支えてくれている方々へ感謝

4 B病棟 長谷川 莉央

病棟のスタッフの方々、家族、友人からの支えもあり、入職してから早くも1年が経ちました。初めてユニフォームを着たときには看護師になったんだという実感が湧き感動したことを今でも覚えています。最初は緊張しながら病院へ行き、疲れて帰ってすぐに寝るということを繰り返す毎日でした。そんな中でもプリセプターさんが「大丈夫？」といつも声をかけてくれて、不安なときは一緒にベッドサイドに行ってくださり、本当にお母さんのような包容力で支えてもらいました。他の先輩方も温かく支えてくださり、4B病棟で働くことができ本当に良かったと感じています。最近では「できることが増えてきたね」



久しぶりの家族旅行

「お姉さんになったね」と声をかけていただくことが増え、自分自身も成長できているなど感じられることも増えてきました。知識や技術などまだまだ足りないことも多いですが、これからも尊敬できる先輩方の背中を見て日々成長できるように努力していきたいと思います。

私生活では家族と旅行へ行ったり大学の頃の友人と近況報告という名の食事会を開いたり、充実した日々を過ごすことができました。新しく一眼レフカメラも購入し写真を撮ることを趣味の一つにしています。今年は妹が成人の年なので、振袖の写真を撮ることが楽しみです。今でしか残せない写真をたくさん撮って、思い出を残していきたいと思います。



一眼レフで撮った愛犬

5 B 病棟

【スタッフ】

児玉真夕美	看護課長
佐藤由紀枝	看護係長 認知症ケア認定看護師
小野 智子	看護係長
看護 師	20名（夜勤専従 3名）
准看護 師	1名
介護福祉士	5名
看護補助者	3名
看護事務	1名

【実績】

入院患者数	304人
稼働率	97.5%
重症度	46%
平均在院日数	54.3日
在宅復帰率	86%
院内転棟患者数	192人
他院からの紹介患者数	162人

【部署の特徴】

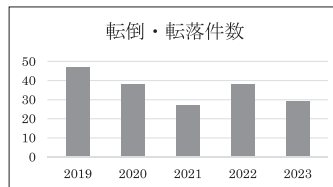
5B病棟は、急性期の治療を終えた主に大腿骨骨折の手術後や脳血管疾患の患者を対象に家庭復帰・社会復帰を目指して365日リハビリテーションを重点的に行っています。自院だけではなく、他院からの紹介、全国各地からの転院もあります。医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種がそれぞれの専門性を最大限に発揮し、一つのチームとなって患者・家族の想いに寄り添いながら質の高いサービスの提供を日々目指し実践しています。

【令和5年度の取り組み】

当病棟では、集中したリハビリテーション実施により入院中の患者のADLは著しく変化していきます。そのため、ADL向上に伴う転倒リスクも必然と高くなっていきます。多職種チームで構成（看護師、看護補助者、リハビリスタッフ）した転倒・転落WGチームにより病棟全体への転倒リスクの注意喚起や病棟ラウンドの実施、スタッフ一人一人の患者に応じた対策の指導などを徹底して実施しています。その活動によりスタッフ全員の安全対策に対する意識も高まり、転倒・転落件数も年々減少傾向となっています。ADL向上を目指しながら安全な療養環境に整えることは回復期リハビリテーション病棟においてとても重要であり、病棟スタッフ一丸となって活動してきたことでスムーズな退院支援へと繋がられています。

また、当院ではコロナ禍による面会制限は継続していますが、当病棟の患者は入院生活が長くご家族に会

える機会も限られています。そのような環境の中でも少しでも気分転換となりリハビリテーションへの意欲の向上となるよう、感染対策をしっかりと行った上で、入院生活においても楽しみや四季の変化を感じられるようなレクリエーションにも力を入れてきました。



	転倒・転落件数
2019年	47件
2020年	38件
2021年	27件
2022年	38件
2023年	29件

【今後の目標】

回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを取得し続けるためには、リハ医療を提供するために必要な人員をそろえ、ある程度医療依存度の高い重症患者を受け入れてリハ医療を提供し、回復してもらうことが必要となります。後志地域の高齢化は著しく、患者・家族が望む住み慣れた場所へ戻るためのリハ医療の提供は今後も重要な部分を担っていると感じています。今後も各職種の専門性を最大限に発揮するために、対等な立場で尊敬しあえる関係を保ちながら、患者や家族の想いを実現するためのチャレンジを大切に多職種で協働していきたいと思っています。次年度は、患者一人一人の栄養管理や口腔環境の整備にも力を入れ今後も選ばれる回復期リハビリテーション病棟を目指して頑張っていきます。

文責 看護課長 児玉 真夕美



レクリエーション 節分



転倒・転落チーム 病棟ラウンド

「初心忘るべからず」

5 B病棟 三浦 優花

新人看護師として入職してから早3年が経とうとしています。3年目となり後輩も次々にでき、今までは教えてもらう立場だった自分が今度は教えていかなければいけない立場になっているのだと日々ひしひしと感じるようになってきました。

私が看護師を志したのは母曰く3歳頃からだったと聞いています（物心もついていない頃なので自分の記憶にはないのですが笑）。そんな幼い頃からの夢をかなえ今ここになんとかいるわけですが、やはり理想と現実とは全く違いました。もう3年目なのにできないこと、分からない・知らないことだらけで、時には人と比べて自分が不甲斐なく感じたり、やはりこの看護師という道は一生学び続けなくてはいけないのだと身をもって実感しています。

5 B病棟では急性期とは違い、病態に急を要する患者さんはいませんが退院後の生活を見据え患者さん本人だけでなく家族や取り巻く環境についても考慮した退院調整が必要となります。時には希望した退院先と実際の退院先が違うこともありどうしたら患者さんも家族も納得した退院支援ができるのだろうと悩むこと

も多く退院調整というものの難しさを痛感していますが、それと同時にやり遂げた時の大きなやりがいも感じています。また、忙しい日々が続くとどうしてもタスクに追われて業務に偏ってしまい患者さんとの会話がへってしまう現状があり、患者に寄り添った看護をと言っていた3年前の初心だった私は跡形も見られなくなる時もあります。そんな私ももう中堅となっています。今後は自ら意志や目標を持って学び、始まりを恐れずに色々なことにチャレンジし吸収して、「初心忘るべからず」を肝に銘じ日々精進していきたいと思っています！



5B病棟の素敵な皆さんと1枚

看護師1年目を通して感じたこと

5 B病棟 堀 歌純

新人看護師として入職し、早1年が経ちました。看護学生時代は、新型コロナウイルスにより、実習に制限があり、ほとんど臨床実習を経験できないまま不安を持ちながら入職しました。私は5 B病棟に一人で配属となり、先輩がこわかったらどうしようと、更に不安を感じていたのを今でも覚えています。しかし、5 B病棟の先輩看護師・看護補助者、クラーク、リハビリスタッフの方たちは皆さん優しく話しかけてくれたり、病棟業務を教えて下さいました。私は人と比べてしまう癖があり、5 B病棟は点滴等、急性期に比べて技術が少なく、同期が合格したと聞くと、あー私って駄目なんだなとネガティブになることもありました。その時にもプリセプターの看護師が、人と比べる必要はないし、出来るから大丈夫と励ましてくれたことも鮮明に覚えています。今では人と比べずに成長できる5 B病棟に配属されて良かったと思っています。

1年たった今でも不安がありながらも、先輩の力を

借りながら患者さん・家族の希望に沿った入院生活・退院が出来るように日々学んでいます。何度も言われたことをうまくできなく、落ち込むことがありますが、5 B病棟のスタッフ皆さんの励ましの言葉、患者さんからのありがとうという言葉で何度も救われました。2年目からは後輩も入ってくると思うので、私のように5 B病棟に配属されて良かったと思ってもらえるような病棟・看護師になっていけたらと思います。



プリセプターさんと

外来看護課

【スタッフ】

伊藤 瑞代 看護課長
吉田真知子 看護係長
中山 祐子 看護係長
正職員看護師 7名
(うち資格取得者：糖尿病療養指導士 1名
内視鏡技師 4名
NST専門療法士 1名
緩和ケア認定看護師 1名)
短時間正職員 7名 (うち准看護師1名)
パート職員 5名 (うち准看護師2名)
嘱託職員 1名

【部署の特徴】

当院外来は内科・外科・整形外科・泌尿器科・循環器内科・脳神経内科・リハビリテーション科・精神科と8診療科に分かれており、看護活動を行っています。患者の症状を聞き取り、診療科を選択する相談や診察時の介助、採血、検査説明や検査介助、治療内容や入院説明、その他様々な業務やケアを実施しています。

外来は患者が病院に来て最初に足を踏み入れる場所であり、初めて医療従事者に接する場所でもあります。その為、安心して診療や検査を受けて頂けるように看護スタッフは患者の話をよく聞き、よく見る事を心掛けています。また、自身の看護知識・技術の向上を目指し、多職種とも連携し「質の高い継続した看護」が提供できるよう日々努めています。

【実績】

令和5年度外来患者数

科別	外来患者延数(人)
内科	22,715
外科	1,947
整形外科	42,467
泌尿器科	16,539
精神科	1,010
循環器科	6,285
神経内科	5,425
リハ科	338
総計	96,808

令和5年度内視鏡・化学療法件数

内視鏡検査	1,232
内視鏡手術	201
化学療法延件数	457

【令和5年度の取り組み】

重点目標を1.外来看護力の強化 2.安全な看護実践の推進 3.働きやすい職場環境整備として活動しました。

継続された看護の提供を目指し、退院支援にかかわる多職種カンファレンスには病棟と連携し、参加することができた時には、スタッフ間で情報を共有と看護計画を立案し記録を記載することができました。また、意思決定にかかわる記録の記載の強化を行い、記載漏れの件数は減少しています。

安全な看護を実践するためにアクシデントの振り返りや緊急時の対応、SBARを用いた報告の習得のための学習を継続しました。

【今後の目標】

今年も昨年度に引き続き継続看護の実践を目標に、退院時カンファレンスに積極的に参加し、スタッフ間での情報共有を行い、ケアを検討、実践するとともに看護計画を立案し、患者さんに寄り添った看護を提供していきたいと考えています。

文責 看護係長 吉田 真知子

休みの日には

外来看護課 藤原 大地

外来に異動となり1年と数か月が経ちました。外来に異動したことで、夜勤をすることが無くなったため、家族との時間が以前より増えました。

週末になると、美味しいものを食べに出かけたり、公園に行き遊んだ後は日帰り温泉に行ったりリラックスしたりしています。

家に居るときには、一緒にテレビを見たり、「ひみつのおるすばん」という子どもたちのなかでブームになっているゲームをしたり、何気ない日常が幸せだなと感じています。

これから子どもが大きくなっていくと、だんだん一緒に遊んだり出かけたりもしてくれなくなるのかなと思いつつも、家族との時間を大切に、これからも思い出を増やしていけたら良いなと思っています。



富良野旅行



大好きないちご飴と



探検に出発

透析看護課

【スタッフ】

本間美穂子 課長 フットケア指導士
井上 晶子 係長
看護師 5名 (慢性腎臓病療養指導看護師1名)

【部署の特徴】

当院透析室では、末期腎不全患者さんの透析導入から維持透析まで継続して血液透析治療を提供できる施設です。透析室内に25台の透析監視装置を有し、最大75人の透析患者さんに対応することができます。

透析看護課は一生涯続く透析治療を受ける患者さんへ、身体面、心理面、社会面など患者さんが安心して生活を続けられるためのサポートを、医師や臨床工学技士などの多職種と協働しながら行っています。

【実績】(患者数・手術件数などは、別項目にて記載します)

【令和5年度の取り組み】

令和5年度部署目標

1. 患者を生活者として捉えた看護計画を立案し、患者に合った看護を提供する
2. 多職種と連携し、先を予測した外来透析支援を行う



3. タスク・シフト/シェアに取り組み、安全な透析環境を確保する

透析患者さんは、全国的に見ても高齢化、治療の長期化がみられます。加齢や透析の長期化に伴い、さまざまな合併症などの問題が生じやすくなっています、しかし、透析治療を行いながらも、住み慣れた土地、家で暮らし続けることは透析患者さんの誰もが望むことであります。前年度から引き続き、患者さんが安心して透析通院を継続できるよう、患者さん、ご家族、地域の支援者など多職種と情報の共有・協力体制の構築を図ってきました。受け持ち看護師が中心となりチームメンバー全員で、透析患者さんの思いを尊重しながら望んだ生活を送り続けることができるよう、これからも引き続き取り組んでいきます。

【今後の目標】

今後も、透析患者さんの生活を陰となり日向となり支えていく、頼れる伴走者でありたいと願っています。少ないスタッフ数の部署だからこそ、協力し合い、相談し合い、お互いの良さを認め合いながら、日々の看護に努めていきたいと思っています。

文責 看護課長 本間 美穂子



帰省

透析看護課 石井 直美

8月に、夫の実家がある秋田県大館市へ帰省しました。帰省は墓参りが主な目的なので、決まってお盆の頃です。

そのお盆の8月15日に、数年前までは大文字焼きというイベントがありました。初めてその大文字焼きを見た時は、これがよくテレビで見ていたあの犬文字焼きというものなのだと感激しました。大館市に犬文字焼きがあることは知らなかったのですが、それからは帰省の時には、その犬文字焼きを見るのが1つの楽しみでした。ところが、数年前からいつも8月15日に開催されていたのが、山の日祝日に開催されるようになり、帰省時に見ることができなくなってしまいました。

その代わりではありませんが、JR大館駅前に『秋田犬の里』という施設がオープンしました。そこには、常時1歳前後の秋田犬が展示されています。1歳前後とはいえ、体はもう成犬並みに大きいのですが、スタッフの方とじゃれたり、おやつを貰ったりする様子は、とても愛くるしいです。いくら見ても飽きない感じで、今では帰省時にそこを訪れるのが楽しみになっています。

秋田犬は大きくなるととても力が強くなるらしく散歩が大変になるので、秋田犬を飼う人が減りつつあるそうですが、みなさんも大館市へ行くことがありましたら、ぜひとも、秋田犬の里へ寄ってみてください。ちなみにそこのおみやげコーナーでは、きりたんぽは売っていませんが、いぶりがっこが売られています。いぶりがっことクリームチーズを合わせて食べると美味しいということなので、そちらもぜひ、お試しください！



秋田犬の里



秋田犬の仔犬

手術・中材看護課

【スタッフ】

谷川原智恵子	看護課長
臼杵 美花	看護係長
佐々木雪絵	看護係長
看護 師	8名
看護補助者	1名

【部署の特徴】

手術センターは整形外科・外科・泌尿器科の局所麻酔、全身麻酔の手術を行っており、後志管内の外傷を請け負っていることから整形外科の手術が多い手術室です。手術チームは麻酔科医、診療科医師、看護師以外に放射線科や臨床工学技士など多職種で構成され、日々手術を受ける患者の数だけ、患者ごとにいくつものチームが存在しています。麻酔の方法や術式によってメンバーの職種や専門性も異なり日々新しいチームの中でそれぞれの専門性を発揮することが求められる部署です。現在、病棟経験者や他院での手術室経験者も増え、質の高い医療の提供に日々邁進しています。

手術は患者にとって人生の一大イベントです。患者が安全で安心して手術が受けられるよう患者ごとにチーム内で情報共有をし、安全で安心できる手術の提供に努めています。

【実績】

科名	年間手術件数
整形外科	1164件
外科	148件
泌尿器科	241件
合計	1553件

【令和5年度の取り組み】

手術センターでは多職種が関わり、侵襲度の高い処置が行われることから、様々な医療事故が起こる可能性を持っているとされています。例えば、「患者取り違い、手術・処置部位の間違い」、膨大な手術器具、材料を取り扱っていますので「体内に遺残」、「標本の取り違い」、「移送・移乗に関すること」、全身麻酔下で意識のない状態で保持する手術体位による「神経障害」などが挙げられます。そこで、当院の手術センターでも患者の安全を守るため、患者誤認防止、手術部位の間違いが無いよう患者本人に本人であること、手術部位を言ってもらうことはもちろん、手術部位のマーキングや手術部位の確認作業を徹底しルールを改訂に取り組みました。体内遺残防止については、手術に使用する器具、材料の数を確認するルールを改訂し記録に残すことや、多職種で声に出し確認することを徹底しました。その他、考えられる事故防止のためマ

ニユアルの見直しや手術中の状況判断、行動、コミュニケーション能力向上目的として手術中のシミュレーションを実施しました。

また、手術を受ける患者は手術を受けることが決定した時点で多くの不安を抱えているとされています。そこで、手術に対する不安や心配、恐怖に対する心理的支援と同時に患者の身体的なアセスメントを行い安全に手術が受けられるよう術前訪問・術後訪問の実施に取り組みました。少しでも患者の不安が少なく手術当日を迎えられるよう病棟看護師とも情報を共有することができ継続した看護の提供と同時に、患者にとってリスクとなるような問題がないか多職種で情報共有する機会を増やしていきました。

【今後の目標】

高齢化が進む小樽市において、様々な疾患を抱え手術をする患者が増えていくことや社会的に人口も減ってきていることで人員不足も懸念されます。そのため、今後も術前から術後まで継続的な看護の提供ができるよう術前訪問、術後訪問を行い多職種と情報を共有し、安全かつ安心できる手術の提供を行っていきます。そして、それぞれの専門性が発揮できるよう業務の見直しを行い改善し、医療の質を下げることの無いよう取り組んでいきます。

また、手術の知識・技術はもちろんですが、看護師が手術を受ける患者・家族の思いを聴き手術室看護師として意思決定を支え、倫理的配慮のある看護の提供ができるよう取り組んでいきます。

文責 看護係長 臼杵 美花



小樽に移り住んで3年

手術室 中島 勘太

函館から小樽に移住して今年で3年目になります。移住のきっかけは妻の転職で、夫が仕事を辞めて付いていくパターンは珍しいね、と周りからよく言われていました。新しい環境に慣れるまでは時間がかかる性分、街並みが函館と似ていたり、元々日本海側の江差町で生まれ育ったこともあり、海の近い小樽がすぐに好きになりました。特に、ウイングベイ小樽のような規模のショッピングモールは函館には無かったので、毎日通っても飽きないし、買い物が一度で済むのが魅力的です。休日は外で食べることが多く、観光客向け

のお店よりも地元の人が多く集まるカフェやラーメン屋によく足を運びます。行ったことのないお店を開拓するのも大好きです。また、小樽に来てから新しいことにも挑戦しようと思い、妻が所属するよさこいチームのスタッフとしてチームを支えています。そこで友人関係が広がり、素晴らしい演舞をお客さんに届ける達成感を味わったりと、自分の殻を破ったことで楽しい日々を過ごすことができます。

よさこいは夏の間は土日のイベントに出ることが多いので、趣味に勤しめるのは職場の皆さんのおかげです。非常に感謝しております。趣味に勤しめる事ができている分、職場に貢献したいと思っています。これからも仕事と趣味の両立を図れるように身体に気を付けながら頑張っていきたいです。



YOSAKOI

地域看護課

【スタッフ】

松江知加子 看護課長
尾垣 華誉 保健師・看護師＊退院支援専従（7月～）
今野 晶子 看護師＊入院支援専従（～12月）
青木 弥生 看護師（7月～）＊入院支援専従（1月～）

【部署の特徴】

地域看護課は主に入退院支援・調整、在宅療養支援を実践する部署です。

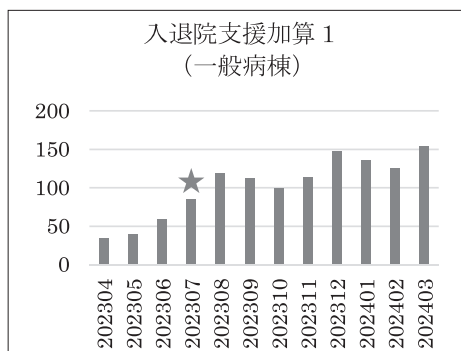
院内外の多職種と連携・協働し、患者・家族へよりよい医療・看護を提供することを目指し、病気との向き合い方、生活上の工夫や地域サービスの利用などの情報提供などを行い、患者・家族が可能な限り望む場所で自分らしい生活を送ることができる支援を目指しています。

【実績】

入院支援実績 総数327件

	入院支援介入数／ 予約入院数	介入割合
整形外科	197人／717人	27.5%
泌尿器科	88人／247人	35.6%
外科	42人／116人	36.2%

入退院支援加算1 算定件数



＊7月から新退院支援システム開始

【令和5年度の取り組み】

令和元年から取り組んでいる外科系の入院支援を継続してきました。入院支援は入院予定の患者が入院後にどのような治療、過程を経るのかをイメージし、安心して入院生活を送られるよう外来において入院前に行われる支援です。成果として入退院支援加算1の合算である入院時支援加算が算定されます。予定入院は比較的自立した患者さんが多いため入退院支援加算・入院時支援加算とも算定数は多くありませんが、新たな退院支援システムの導入に伴い退院困難者の要件が変更され入退院支援加算1の算定数が上昇すると同時に入院支援加算の算定数も大幅に増加しました（約5

倍）。入院支援は外来診療後に行われるため支援時間が昼前後に集中することが多く人員数の関係で介入が困難なケースが多々ありましたが、今年度は入院支援専従スタッフの工夫と外来の協力によって支援時間が重ならないよう調整し介入件数を伸ばすことができています。

また、7月以降は退院支援専従スタッフと課長の2名でMSWと共に全病棟の退院支援計画カンファレンスに参加、病棟看護師と3者で退院支援計画書を作成しています。新退院支援システム導入にあたっては4月から病院、看護部、医療支援室と話し合いを重ねました。退院困難者の除外基準の設定や記録方法・カンファレンス開催日、役割分担など運用ルールの検討を行う中、部署の手順も急遽作成し、カンファレンスに臨みました。

毎日開催されるカンファレンスでは進行を担当、関係者全員が初めての取り組みかつ部署を横断して行われるカンファレンスでの進行は院内で勤務経験がないスタッフにとってかなりハードルが高かったと思います。部署内の準備も完全とは言えないまま「まずは行ってみよう」と進んだこと、システムの理解不足や病棟スタッフとの関り等、様々な葛藤があったと思われます。それでも頑張って挑み続けたスタッフ、そんな2人をそっと見守りサポートに徹してくれた他2名のスタッフ…みんなの力で乗り切った1年でした。心から感謝しています。

また、今年度は部署の都合で1年間休止していた北海道医療大学の在宅看護学実習を再開しました。6月に3年生2名、12月に4年生4名を受け入れ、前任の看護課長やMSWにご協力頂き入退院支援のジョブシャドウ等、過去の流れを踏襲しつつ今の地域看護課が伝えられることを模索し実践しました。大変なこともありましたが実習指導を通して学生から元気を貰うとともに地域看護課としての在り方を振り返るなど、我々も多くの学びを得ることができました。その後の入退院支援業務の一つの糧となっています。

【今後の目標】

今年度導入した新退院支援システムを軌道に乗せること、単に退院支援計画書を作成するカンファレンスではなく、院内外と連携しながら病棟と入退院支援部門が協働して患者に寄り添った効率的な入退院支援に結び付けることが重要と考えます。今後は退院後の生活を見据えた視点をより強固にした入院支援の拡大と実践、地域看護課が行うべき退院支援の構築と実践を目指して参ります。

文責 看護課長 松江 知加子



今年度から面談室が変わりました



仕事とプライベートの両立

地域看護課 尾垣 華誉

令和4年4月に小樽へ引っ越した事をきっかけに、以前勤めていた職場を退職し、8月から済生会小樽病院へ入職することになりました。

これまで、急性期の循環器や内分泌疾患メインの病棟で2年勤務し、その後は健診クリニックで5年半、院内だけでなく道内の企業に直接伺い、健診業務を行っていました。

病院勤務は約6年振りであり、更に当部署のような入退院支援部門での看護師としての経験がなかったため、自分にこの仕事が務まるのかと不安と緊張の日々でしたが、部署の先輩看護師達やMSWなど多職種の方々からの的確なアドバイスやサポートをしていただき、日々入退院支援についての学びを深めながら1年過ごす事ができました。

今後、当部署の看護師としてどのように入退院支援に関わっていけばよいか、まだ迷う事も沢山ありますが、部署内スタッフや多職種で協力していきながら、患者支援に繋げていきたいと考えています。

小樽に来て1年が経ち、生活に慣れたところで夫の転勤が決まり、札幌に引っ越すことになったため、現在は札幌から通勤しています。この1年の間に仕事とプライベート、どちらも環境が変わった事で気持ちに余裕がなく、休日に何かする気力が出ないくらいに疲労が溜まっていた時期もありましたが、今は生活も落ち着いてきて、オン・オフの切り替えができるようになってきたので、ドライブをしたり旅行に行って綺麗な景色を見たり、美味しい物を食べたりして、リフレッシュする時間も大切にしています。



利尻富士町ポン山の山頂からの景色



白い恋人のパッケージになっている場所です



利尻島のしまほっけ定食

教育看護課

【スタッフ】

浅田 孝章 看護主幹

教育委員会

委員長：浅田 孝章（看護主幹）

委員：伊藤 瑞代、佐藤 悦子、臼杵 美花
（以上課長）

仙保 知子、砂川 友紀、小野 智子、
井上 晶子、大崎 朱美、宮下めぐみ
（以上係長）

オブザーバー：中川 尚美（看護次長）

新人教育検討委員会

委員長：兒玉真夕美、本間美穂子（課長）

委員：浅田 孝章（看護主幹）、吉田真知子、
中山 優子、齋藤 亜妙、佐藤由紀枝、
丸岡 貴子、宮下めぐみ、佐々木雪絵
（以上係長）

オブザーバー：中川 尚美（看護次長）

【部署の特徴】

教育理念「済生会の看護理念を理解し、安全で安心

できる質の高い看護を提供できる看護師を育成」のもと、一人ひとりにあわせた、臨床現場で活かせる研修を行うため、教育委員会と新人教育検討委員会が中心となり「新人研修」と「ラダー研修」の2本柱で1年間計画的に研修を企画・運営・評価を行っています。

新人研修は、基本的な看護技術を早く習得できるように演習を多くし、研修後個人練習、個人指導を行える体制を整え、職場でのリアリティショックが少なくなるよう工夫しています。また、新人指導プログラムの進捗と、メンタル面の変化に合わせ、新人に寄り添う研修で1年間の成長をサポートしています。

ラダー研修では、高度な社会のニーズに応えられる看護職員の育成を目指し、理念や基本方針に基づき実現できるように、看護実践（クリニカル）の能力に焦点化した4つの力（ニーズをとらえる力・ケアする力・協働する力・意思決定を支える力）と、済生会の組織人として幅広く看護実践の研鑽と積み上げができるよう研修を組み立てています。また、院内の研修にとどまらず済生会本部研修（東京）、看護協会の研修など院外研修の参加も、積極的に支援しています。

【実績】

	研修時間	研修参加人数
新人研修	180時間00分	10名（看護師9名、准看護師1名）
ラダー研修	90時間30分	ラダーⅠ：22名 ラダーⅡ：28名 ラダーⅢ：22名

2023年度ラダー研修 参加者一覧												
ラダー レベル	院内ラダー要件研修 部署	3A	3B	4A	4B	5B	外来	地域看護	透析室	手術室	みどりの里	いしばし病 院施設間交流
Ⅰ	看護過程④ (2023/7/20 PM)	伊藤 玲奈	竹下仁衣菜	北崎 葉月	林 裕美子	石黒 真帆					知久 歩美 佐藤 辰也 小泉 由美	
	メンバーシップ② (2023/8/29 1日)	伊藤 玲奈		北崎 葉月	北村 光	石黒 真帆		尾垣 華音				
	フィジカルアセスメント① (2023/8/1 PM)	伊藤 玲奈	竹下仁衣菜	北崎 葉月		浜田 由希 三浦 優花 石黒 真帆		尾垣 華音				木村 弥月 原田 翼
Ⅱ	フィジカルアセスメント② (2023/10/5 PM)	田代 季	佐久間春菜	細矢 優花	渡邊 美香		松本 美紀			中村 美幸		小谷 直生 渡辺 由佳
	看護過程⑤ (⑤-1 2023/7/6 1日) (⑤-2 2023/9/29 1日)	齊藤 好美	田村 政了	細矢 優花 (⑤-1のみ参加) 山谷香菜未			渡邊 美香		高橋 知子			
	リーダーシップ① (小チームにおける) (2023/5/8 1日)	安藤 優花	木谷由香里	細矢 優花 山谷香菜未		清水 美空				木村明香梨 中島 勘太 野 達也		
	リーダーシップ② (チームにおける) (2023/6/5 1日) 実践報告会 (2023/11/29)	安藤 優花	木谷由香里	細矢 優花 山谷香菜未		清水 美空				木村明香梨 中島 勘太		
Ⅲ	看護過程⑥ (⑥-1 2023/6/13 1日) (⑥-2 2023/8/14 1日) 実践報告会 (2023/10/31)	田中 幸希					沼山奈緒美	金田 匡代 藤林茂鈴恵 小松田まどか			知久 歩美 佐藤 辰也 小泉 由美	
	リーダーシップ③ (所属部署におけるリーダーシップ) (2023/6/26 1日) 実践報告会 (2023/9/13)	今井 友裕	平木 康太	野上 麻里		照井 りか	菊地奈々子		山口 千恵	大久 雅也		
	看護倫理 (2023/6/22 1日) 実践報告会 (2023/9/26)	木藤 絢子	菅原美沙紀		河原 美幸		加賀紗矢香	浅香 香織 田中詩緒梨	古瀬 康江			

【令和5年度の取り組み】

1. 新人看護職員入職時研修

新人看護職員のリアリティショックの軽減、職場適応を促進し、早期離職防止、臨床で指導をする看護職の負担軽減を図ることを目的として、入職後すぐに部署へ配属するのではなく集合研修を実施しています。

コロナ禍で実習での経験が少なく、人との係りが希薄となっていることもあり、社会人基礎力やコミュニケーションの研修を増やしました。また、リアリティショックを緩和する目的で、集合研修後に部署や病棟での実践を取り入れました。

入職時研修から配属部署の実地指導者を研修担当として関わることで、配属前から新人と良い関係性を構築することに繋がったと思います。

2. 新人研修

新人研修は新人看護職員研修ガイドラインをもとに、当院の「新人看護職員指導計画」に合わせ研修計画を立案しました。系列病院の「みどりの里」の新人にも、当院の新人研修に参加できるように調整をしています。また、創傷管理研修を北海道看護協会小樽支部の施設交流研修として間口を広げました。

4月は入職時研修の他に2回、5・6・7・8月も月に2回研修を企画、9・11・1・2月にも月1回開催し、新人同士が交流を持ち、お互いの成長を確かめ合う場ともなりました。

3. ラダー研修

ラダー要件研修として、ラダーレベルⅠ～Ⅲ毎に3テーマずつ研修企画しています。Ⅳ・Ⅴについては外

部研修を活用していくことになっています。昨年度の評価を基に担当者が中心となり内容を見直し、OJTに繋げていくために実践研修を多く取り入れていきました。また、監督職にも実践での指導を協力依頼して取り組みました。

4. なでしこサポートルームを開設

新人職員のリアリティショックを緩和するために、なでしこサポートルームを設置しました。6・9月（3ヶ月毎）の面談、毎月のアンケートを実施し、さらに面談前にアンケートを実施していました。前年度の新人離職率は44.4%でしたが、今年度は10%と低く、早期離職の軽減に繋がりました。

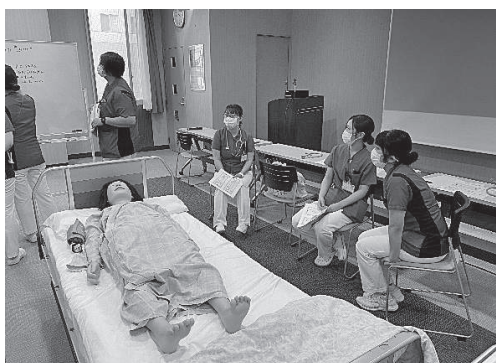
精神面のサポートだけでなく、不安な技術についても支援しています。

【今後の目標】

『看護過程の展開』『リーダーシップを発揮していく力』の育成が看護部の課題だと思います。それらの力が身に付くように継続して研修を組み立てていきます。研修に参加しただけで終わらないように実践研修を取り入れています。現場で監督職がサポートし研修で学んだ事を確認してもらい、報告会にも参加してもらうことで教育的な視点の醸成にも結び付くと考えます。

研修修了者が学びっぱなしにならないように、次年度の研修受講者をサポートするように企画に盛り込み、学ぶ文化、育てる文化を醸成していきたいと思います。

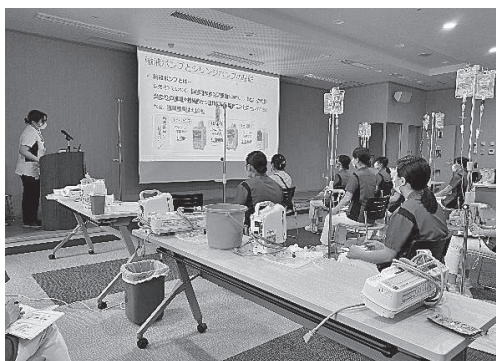
文責 看護主幹 浅田 孝章



ラダーⅠ フィジカルアセスメント研修①



ラダーⅢ リーダーシップ研修③



新人研修 輸液ポンプ・シリンジポンプ



新人研修 感染対策

事務部

■ 総 括

【事務概要】

(組織体制)

- ・管理事務室：総務課、経理課
- ・医療支援室：医事課、地域連携課、
医療クラーク課、健康診断課
- ・情報システム課
- ・院内保育所

(職員数)

正職員 45名 (内、院内保育所 1名)

常勤雇用契約職員 27名 (内、院内保育所 4名)

非常勤雇用契約職員 23名 (内、院内保育所 7名)

計 95名

(役職者)

部長 1名、室長 2名、課長 3名、主幹 1名、

係長 2名、主任 10名

(主な保有資格)

診療情報管理士、社会福祉士、精神保健福祉士、社会保険労務士、ドクターズクラーク、医療メディエーター、医療経営士、医療情報技士、保育士、看護師、作業療法士

※令和5年3月31日現在

【令和5年度の取り組み】

令和5年度、事務部は「ポストコロナ黒字体質への転換〈補助金に頼らない経営〉」を戦略テーマとし、BSC(バランス・スコア・カード)4つの視点毎にそれぞれ以下の戦略目標を掲げて取り組みました。

《財務の視点》

- ・黒字体質化〈補助金に頼らず単月黒字化〉

《顧客の視点》

- ・患者満足度の向上〈外来会計待ち時間の削減〉
- ・地域医療機関満足度の向上〈紹介・逆紹介率の向上〉
- ・地域企業満足度の向上〈健康意識の向上〉
- ・職員満足度の向上〈時間外労働の削減、モチベーションアップ〉

《内部プロセスの視点》

- ・定型的な業務の自動化〈サービスの質の向上・新たな時間の創出〉
- ・健康経営優良法人の届け出〈働きやすい職場環境の整備・ルールの見直し〉
- ・地域連携の強化〈渉外専従者の配置による連携施設訪問強化〉

- ・増収施策の徹底〈加算算定率の向上・DPCコーディングの適正化〉
- ・給与・人事評価制度の再構築〈新給与規定のシミュレーション・プラン策定〉
- ・医療材料費の削減〈ベンチマークシステムの活用による全国平均値以下での購入〉

《学習と成長の視点》

- ・事務職員教育プログラムの作成(済生会グループ人事交流制度の活用)
- ・業務の標準化〈部署マニュアルの見直し、定型的な業務の洗い出し〉
- ・職員ITリテラシーの向上〈法人内Excel研修会の受講、院内指導員の育成〉
- ・外部コンサルタントの活用〈増収・働き方改革・給与評価制度〉

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類され、9月末をもって病床確保も終了し、10月から通常診療体制に戻りました。また、医師の働き方改革の令和6年4月スタートに向けた準備(医師の労働時間の実態把握、宿日直届の再提出、タスク・シフト/シェア)、補助金に頼らない黒字体質を図るため、外部コンサルタントを活用した3つのプロジェクトを発足し、改善に取り組みました(①黒字化対策プロジェクト②働き方改革プロジェクト、③給与・人事評価制度の再構築プロジェクト)。

また、タスク・シフト/シェアを行う上でシフトを受ける側の余力の確保、生産年齢人口の減少による労働力不足の対策として、定型的な業務の自動化、コミュニケーションチャットツールの導入や職員へのスマホ貸与などDXの推進に取り組みました。

【今後の目標】

令和5年度は黒字決算となりましたが、令和6年度は大変厳しい状況が見込まれます。今年度に発足した、3つのプロジェクトの成果を発揮し、また、医療DXの更なる推進による生産性の向上、ベンチマークシステムを用いた医療材料費の削減も継続して取り組み、経営の安定化と医療の質の向上、働きやすい職場環境の構築に取り組んで参ります。

文責 事務部長 五十嵐 浩司

管理事務室

総務課

【スタッフ】

蝦名 哲行 課長（管理事務室長兼務）
 秋元かおり 人事・給与グループ、臨床研修・秘書グループ（主任）
 内山 泰男 人事・給与グループ（主任）
 小野 翔平 人事・給与グループ、臨床研修（主任）
 石橋 慶悟 庶務グループ（主任）
 川畑 有香 庶務グループ、臨床研修・秘書グループ
 中川 雅美 庶務グループ
 吉田 理恵 臨床研修・秘書グループ
 成田 明美 電話交換グループ
 寺島 光代 電話交換グループ
 吉田 悦子 電話交換グループ
 神山 拓也 施設管理グループ（主任）
 豊川 哲康 施設管理グループ
 坂井 駿介 施設管理グループ
 古田 順一 施設管理グループ
 松原 明 施設管理グループ
 《委託職員》 中央監視スタッフ 3名（夜間・休日）
 警備スタッフ 5名（夜間・休日）

【部署の特徴】

総務課は、大きく4部門に分かれて業務を行っております。

- ① 人事管理、労務管理、給与計算、文書管理、庶務関係
- ② 臨床研修事務、医局秘書業務
- ③ 電話交換、防災センター業務・窓口受付、制服の在庫管理
- ④ 施設管理、法定検査・自主検査の計画及び実施、備品の点検・修繕対応、中央監視室・防災センターの管理、委託業務の管理

【実績】

常勤職員数の推移

（単位：人）

区分	令和3年4月	令和4年4月	令和5年4月
医師	26.5	28.4	29.4
看護師・准看護師	177.4	177.6	189.0
看護補助者	46.0	43.9	36.9
医療技術職	117.1	113.3	116.2
事務職員	65.7	66.0	69.7
その他職員	26.9	25.6	26.5
合 計	459.6	454.8	467.8

光熱水使用量実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
電気使用量 (kWh)	2,544,260	3,253,294	3,397,594	3,295,762	3,259,185
ガス使用量 (m³)	390,815	526,559	579,137	552,925	341,836
水道使用量 (m³)	31,796	35,776	41,086	41,277	41,349

※令和3年9月以降、みどりの里増築棟光熱費含む

【令和5年度の取り組み】

○労務管理業務の効率化と新制度への対応

・勤怠管理システム「勤次郎」

打刻システムにより、客観的な出退勤時間を把握、給与ソフトへの取り込みによる 給与計算一部自動化、出勤簿のペーパーレス化、職員の在院状況の把握、院内統一の勤務表、様式9の自動化の実現、職員が利用しやすい環境構築の為のメーカー交渉、有休取得率の把握、看護休暇・介護休暇の時間単位年休取得、緊急連絡先の把握

・給与システム更新準備（現システムの継続又は新給与システム導入の検討）

- ・人事システム導入準備
- ・職員満足度調査の実施
- ・ストレスチェックの集団分析の実施
- ・対象職員への生活習慣病予防健診の実施
- ・保健師による無料の特定保健指導の実施
- ・新型コロナウイルス感染症に関する職員周知
 - ▶ 受入体制情報の外部提供禁止について
 - ▶ 職員本人及び家族発熱の際の対応について
 - ▶ 対応職員の手当等について

○研修管理体制の強化

- ・令和6年3月28日付 基幹型初期臨床研修病院として指定を受ける
（令和7年4月より受け入れ開始）
- ・看護師特定行為研修 術中麻酔管理領域パッケージの指定を受ける
（現在10区分、1パッケージの指定）
- ・専門医制度内科専門研修プログラム
1名在籍（令和4年4月開始）
- ・初期臨床研修（協力型）
1年次2名、2年次1名（令和5年4月開始）

○電話交換業務の更なる応対力の強化と顧客サービスの向上

- ・「不審電話対策マニュアル」の院内周知

○施設管理

《法定点検》

建築設備定期報告

消防設備点検（総合点検、機器点検）

防火対象物点検

防災管理定期点検

簡易専用水道検査、受水槽清掃

作業環境測定（ホルムアルデヒド、エチレンオキシド）

煤煙測定（冷温水発生器2基、温水ボイラー1基）

事業場排水測定結果報告

医療ガス設備点検

第一種圧力容器性能検査（貯湯槽2基、滅菌機2基）
非常用発電機負荷試験

《その他》

自衛消防訓練の実施（年2回）

備蓄飲料水の更新

送迎バスの入れ替え（新規リース契約・旧車両売却）

送迎バスダイヤ変更

正面道路アスファルト修繕工事

冷温水発生器冷媒配管交換工事

院内保育所の非常災害対策計画の策定

インフラ長寿命化計画の策定

暴力対応マニュアルの更新

【今後の目標】

- ・令和6年度に導入予定の新・人事システムを用いて、まずは職員の入退職手続き、年末調整の電子申請・承認を行い、より一層の業務の効率化・ペーパーレス化を目指します。併せて課員の業務の平準化や時間外労働の削減も目指します。
- ・令和6年度に開始される医師の時間外・休日労働時間の上限規制（医師の働き方改革）に向けて、勤怠システムの見直し、または更に進めていくことにより、現状の医師の業務負担の軽減を図ります。
- ・令和7年度から基幹型初期臨床研修病院として研修医の受け入れを開始するにあたり、各部署連携し準備を進め、医学生に選ばれる研修病院を目指します。
- ・看護師特定行為研修では、新たに指定を受けた術中麻酔管理領域パッケージの研修をスタート予定。看護部と協力し、働きながら学びやすい環境づくりを目指します。

次年度は、外部との調整や病院組織の適正な管理など、多岐にわたる業務について丁寧に対応していき、「信頼される総務課」として柔軟な対応を心掛けて参ります。

文責 事務主任 秋元 かおり

経理課 経理グループ

【スタッフ】

氏 名	役職名	職 責
蝦名 哲行	管理事務室長	現金保管責任者
堀 博一	事務課長	固定資産管理担当者
佐藤 緑	事務主任	出納員

【部署の特徴】

主な業務は、出納（現金・預金の管理）、旅費計算、会計システムへの入力・帳票の作成、郵便物の発送、予算・決算業務、借入金、経営分析、財務諸表作成、未収金管理、固定資産管理など 病院の『資産』に関する業務全般となります。

【実績】＜令和5年度 経理課関係行事＞

4月 令和4年度 決算資料作成
5月 令和4年度 決算報告、支部監事監査
5月 令和4年度 消費税報告、支部理事会
6月 令和4年度 法人税報告
8月 有限責任監査法人トーマツ訪問往査
10月 インボイス制度 開始
12月 幹部研修会
12月 旅費検討スタート
1月 電子帳簿保存法 開始
1月 支部理事会（令和6年度事業計画、予算）
2月 本部経理研修会 WEB
3月 三千考房 三枝氏（旧トーマツ所属）経理訪問監査

【令和5年度の取り組み】

今年度は法改正に対応する準備に業務の大半を要しました。10月に適格請求書（インボイス）、翌1月に電子帳簿保存法と続けての対応がありました。しかし対応のなかで請求書を電子化し運用したことにより回覧のスピードが飛躍的に向上し時間の削減となりました。

また、CSVデータを用いて会計ソフト（福祉の森）にインポートすることで入力作業の削減につながり業務効率が上がる結果となりました。また以前からの目標である月次決算・集計・分析作業等の迅速かつ正確に行えるよう業務の平準化、簡略化、作業分担の見直しなどにより他部署との連携強化さらに時間外勤務の減少など成果がみられました。特に月次決算の処理については業務システムと日程の見える化によるスピード戦略を行い適正な処理を進めてきました。更に各部署の未収金台帳と経理データとの整合性にも着手していきました。

【今後の目標】

人事異動による業務効率の低下を踏まえた詳細な業務マニュアルの作成、業務の可視化、さらに作業効率を考えた自動入力システムの構築を進め日常業務を軽減し経営管理と経費の増減を分析できる環境を構築する事が当面の課題と考えます。来期は旅費関係の見直しを進め、まずは出張経費精算をキャッシュレス化し業務効率の向上を目指します。

文責 経理課 課長 堀 博一

【スタッフ】

堀 博一	課長
木村 卓司	係長
大野 久司	主任
荒木亜由美	SPDスタッフ
碓井あさこ	SPDスタッフ
山澤 啓子	SPDスタッフ
吉田 有希	SPDスタッフ

【部署の特徴】

購買業務を主とし、SPDスタッフと共に各部署で使用する診療材料、医薬品、日用品などの物品管理・院内配送・受発注を行っています。

その他、売買契約、保守・委託契約の窓口として、各部署と調整し取引業務の最前線で日々業務を担っております。

また、各部署の業務改善や患者サービス向上に向けた取り組みのサポートを行う部署です。

【実績】

診療材料購入実績：392,881千円

医療機器・器具備品購入実績：34,312千円

医薬品購入実績：423,859千円

入札実績：

令和5年8月 医事会計・再来受付機
自動精算機・会計表示システム
令和6年3月 診療報酬請求業務

【令和5年度の取り組み】

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され、医療機関の体制も徐々に変化してきました。

一方で、物価高騰で、全ての部門に於いて、値上げ対応が続きました。

加えて、コロナの補助金も無くなり、病院経営が厳しくなることが予想される中、今年は、診療材料、医薬品の価格適正化に取り組みました。

全国の平均価格以上で取り引きしている品目について、改善を図るため、病院長を筆頭に、診療部長、事務部長、各部門長の協力を得ながら、ディーラー様、及び、メーカー様と商談を続けました。

結果、全国済生会の中で、最も改善された施設となり、大きな成果を上げることができました。

大きなシステム更新としましては、医事会計システム更新があり、合わせて自動精算機を導入し、患者様の会計待ち時間の短縮を実施しました。

医療DXが求められる中、患者様が、より利便性が良くなる設備、システム、サービスの提供を継続的に検討し、患者様満足度向上に寄与できるよう各部門と調整する必要があると感じた一年となりました。

【今後の目標】

用度購買部門は、多種多様な業務を担当することが多くあります。

特に他部署の協力無くては、成せない案件が多く、各部門間のパイプ役として調整力の重要性について意識を持ち業務に取り組んでいます。

また、全体把握を行った上で、判断する必要があり、情報収集を怠らず、適切な対応を心掛けます。

次年度は、各部門の生産性向上、職員の利便性向上で、システム、ソフトの導入希望が予想されます。

希望部署、及び、当院の環境に適した製品、サービスの選択肢が持てるサポートができるよう取り組んで参ります。

文責 経理課係長 木村 卓司

医 事 課

【スタッフ】

村上 義明 課長
 森 雅之
 平澤 慎吾 診療情報管理士 医療経営士3級
 伝法 俊和
 館林くるみ
 太田 歌子
 小泉 幸代
 世戸 収子
 本間 美江
 (その他 雇用契約職員6名)

【部署の特徴】

患者さんが病院を受診する際に最初に係わりを持つ部署で、病院のイメージにも大きく影響します。きめ細やかな対応はもちろんのこと診療部門や看護部門と連携を取りながら、患者さんに取ってより良いサービスを提供していく部署になります。

また、医事課は院内で行われる医療行為を診療報酬として正確に計算する役割があり病院経営にとっても重要な業務を担っています。

今後もチーム一丸となり、院内連携・院外連携を意識し医療への貢献と病院経営への参画を通して地域社会に貢献していきます。

【実 績】

施設基準動向

・救急医療管理加算1、加算2の算定基準作成、導入

【令和5年度の取り組み】

患者満足度向上の取り組みとして、通院支援アプリ Wellcne ーウェルコネー(プラスメディ)の後払い決済システムの導入及び、アルメックス社自動精算機の導入により会計待ち時間が大幅に減少し、スムーズな会計業務を実現し業務効率化に繋がりました。

【実習生の受け入れ】

医事課では、近郊の専門学校生の実習の受け入れを行っています。

人材の確保という視点も考え、新しい力の確保へ努め教育スタッフの知識向上の機会としても取り組んでいきます。

養成 業種	学校名・学年	実習期間	実習 人数
医療 事務	大原学園 大原医療 福祉専門学校 医療事務学科2年生	2023年7月10日 ～2023年8月10日	1名
医療 事務	三幸学園 札幌医療 秘書福祉専門学校 医療事務学科2年生	2023年10月16日 ～2023年10月20日	1名

【今後の目標】

引き続き各種業務の精度向上・医療DXを推進し、患者満足度の向上に力を入れていきます。併せて職員の人材育成にも力を入れていき、患者さんが安心して病院にかかって頂けるような環境作りを行っていきたいと考えております。

文責 事務課長 村上 義明

済生会に入職して・・・

医事課 村上 義明

ご縁があり、令和4年10月に済生会小樽病院に入職して今年で2年目になろうとしています。以前は、超急性期病院、精神科病院、慢性期病院と色々な組織の病院で勤務をして、医療事務以外の事務知識も身に着けて、医事課スタッフの皆さんと楽しく過ごしてきました。済生会小樽病院に入職して感じた事は、職員も院内もとても明るく親切な病院でよかったなと感じています。今まで経験した事を活かして、当院での人材育成、業務効率の見直し、施設基準・加算算定等少しでもお役に立てるように、医事課スタッフの皆さんと楽しくがんばって行きたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

写真の紹介ですが、わが家で飼っている猫の紹介です。メインクーンという品種の猫で、イエネコの中でも大きな品種のひとつであり、「ジェントルジャイア

ント（穏やかな巨人）という愛称をもち、とても優しく人なつっこい性格です。現在は11才（人間に換算すると60才）で体重は7kgのオス猫ですが、家に帰ると毎日玄関でお出迎えをしてくれるとても可愛い猫で癒されています。



ねこ

医療クラーク課

【スタッフ】

浦見 悦子 事務課長
・医師事務補助グループ 16名
平尾 愛 ドクターズクラーク
焼田久美子 ドクターズクラーク
田宮 千晶
伊藤紀美江 ドクターズクラーク
吉田 幸恵
他、雇用契約職員10名のうちドクターズクラーク5名
・外来受付グループ 6名

【部署の特徴】

医療クラーク課では外来診察補助業務、医療文書の作成補助業務、回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務、医療の質の向上に資する事務作業業務、予約センター業務等を行っています。

1. 外来診察補助業務

業務の中心となる外来診察補助業務では各ブロック受付、各外来診察室、内視鏡室、中央処置室にスタッフを配置し診療がスムーズに進められ、医師・看護師の事務的な作業負担軽減が出来るよう各種検査・処方・リハビリ等のオーダー代行入力、次回予約入力、検査説明等を行い多職種と連携し業務を行っています。

2. 医療文書の作成補助業務

各種診断書、介護保険主治医意見書、医療要否意見書等の作成依頼・作成代行及び医師が作成した完成書類の処理、問合せ等に対応しています。

3. 回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務

医師の回診に同行し、各種検査・診察記録等のオーダー代行入力や入退院に係る文書作成代行業務を行っています。

4. 医療の質の向上に資する事務作業業務

診療に関するデーター整理、手術の症例登録等を行っています。

5. 予約センター業務

平日14～16時まで患者さんからの診察予約や予約変更等の電話連絡に対応し、患者さんに寄り添いご希望にお応えできるよう努めています。

【実績】

文書取扱い件数 (件)

診断書(入院証明書・通院証明書)	850
診断書(当院書式)	599
傷病手当	274
身体障害者診断書	133
特定疾患個人調査票	260
労災(照会・意見書)	409
介護保険主治医意見書	877
医療要否意見書(生保)	1,006
訪問看護指示書・訪問リハビリテーション指示書	266
計	4,674

予約センターでの予約件数 (各外来での対応も含む) (件)

予約	4,333
予約キャンセル	806
予約外案内	1,090
その他	1,584
計	7,813

【令和5年度の取り組み】

新型コロナウイルス感染症が5月より5類となりましたが、感染症拡大防止対策として外来受診に来院される患者さんへの体温・体調確認等、感染対策を図りながら業務に努めて参りました。また、11月27日より今まで会計窓口でお渡ししていた処方箋が、各外来で発行しお渡しする流れに運用変更となり、医師と更に連携を図りながら外来診察補助業務に対応して参りました。

【今後の目標】

患者さんを中心とした医療を提供できる環境作りをサポートしていくため、医師の事務的な作業負担をより軽減出来るようスタッフのスキルアップを図り、各部門とのコミュニケーション・連携を引き続き強化して参ります。令和6年度より施行される「医師の働き方改革」に向け、医師の事務作業の負担軽減が図れるよう更に取り組んでいきたいと思ひます。

また、今後も文書業務の効率化・精度向上を図り、患者さんからの問い合わせにスムーズに対応出来るよう、日々心掛けて業務に努めて参ります。

文責 事務課長 浦見 悦子

令和5年度を振り返って

医療クラーク課 新田 舞

私はこれまで医療クラーク課一筋で働いてきました。現在は泌尿器科・外科・睡眠外来・リハビリテーション科の外来診察補助業務をしています。

基本業務は一緒ですが、担当する科によりルールや扱う検査オーダー、汎用など細かい所が違うので混同してしまわないよう、いつも緊張して業務にあたっています。

その都度確認しているつもりですが、家でその日の

業務を思い出し、入力漏れがあるような…予約間違いしているような…と心配になる事も多々あります。もっと落ち着いて働けるといいのですが、なかなかうまくいきません。

この数年でメディパピルスの導入・電子カルテの更新・C-PAPのデータがSDカードからインターネットになり、今年度から外来で処方箋を発行する事に変更、他にもいろいろ変化がありました。

患者さんにご迷惑をかけない為に、頑張って自分をアップデートし更にチェック漏れやミスの無いよう気を付け、初心の気持ちを忘れず日々の業務を行っています。



健康診断課

【スタッフ】

浦見 悦子 課長
菅原 充晴 係長
窪田 恭子
葛西 淳子
工藤 美奈
稲田 琴恵

【部署の特徴】

小樽市内や近郊の企業健診、各種がん検診を含む市民健診のほか、若年から高齢者まで様々な年齢層の方々に受診して頂けております。

また、近年、労働者の健康管理や健康に対する関心も高まっており早期発見・早期治療にお役に立てるよう予防医療として協力し携わっていきたいと考えております。

【実績】（2023年度）

	人数（人）
生活習慣病予防健診	1,861
日帰りドック	207
企業健診	2,119
特定健診	708
市民健診	275
個人健診	776
ちょこっと その他	539
合計	6,120

【今後の目標】

今後は生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、企業健診、市民健診（たるトク健診）等の件数を増やしていきたいと考えております。

最後に健診センターとして健診を受けられた皆様の健康づくりと疾病の早期発見と予防に努めて参ります。

今後とも関係部署の協力を得ながら健診受診者増を図っていききたいと考えております。

文責 事務係長 菅原 充晴

地域連携課

【スタッフ】

課長 阿部 亮（事務職）
主任 小林 政彦（社会福祉士）
主任 柴田 幸子（事務職）
金田智香子（事務職）
定 淳志（事務職）
吉田みのり（社会福祉士）
福森 星輔（社会福祉士）
山崎 隆（社会福祉士）
阿部 葵（社会福祉士）

【部署の特徴】

特徴としては地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の2つの病棟に社会福祉士を合計3名配置し手厚い入退院支援を実施している。当院の役割である急性期から回復期まで一貫した医療の提供を行うため他院からの紹介を受ける前方連携には経験豊富な職員を配置しスムーズな受入れを目指している。ま

【令和5年度の取り組み】

入退院支援加算算定率を向上させるための業務フロー見直し・業務改善のために地域連携システムを活用し進捗管理。また、システム導入に伴い紹介患者の迅速な把握や逆紹介の管理を実施。

会計年度	項目名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2023年度	入退院支援加算1(一般病棟)	34	40	59	85	119	113	99	114	148	136	126	154	1,227

【今後の目標】

紹介重点医療機関を目指し、紹介・逆紹介割合の基準を達成する。

無料低額診療率の基準達成（10%以上）

文責 事務室長 阿部 亮

一年間を振り返って

地域連携課 阿部 葵

社会人2年目を迎え、医療ソーシャルワーカーとしての経験が少しずつ積み重なってきました。振り返ってみるとあっという間の1年だったように感じます。入職してすぐは覚えることやわからないことも多く、新たな環境に慣れることに必死な日々でしたが、患者さんやそのご家族との関わりを通じて、さまざまな学びと成長の機会に恵まれました。

退院支援を行っていくなかで、経済的な課題、退院に関する課題、家族関係などの困りごとなど、患者さんやご家族の抱えるさまざまな課題や不安をどのように解決し、どのように退院支援に繋げていけば良いの

か、当院の社会福祉士は社会福祉法人として無料低額診療制度の推進を積極的に行い特に非課税世帯の患者さんを中心に制度のご案内を強化している。そして医療費の問題で医療が受けられない患者さんをださないよう各種相談活動や広報活動を地域の自治体や各種公共団体などと連携している。

【実績】

無料低額診療率 10.3%
社会福祉士の相談種別と件数
介護保険申請 507件
在宅退院調整 367件
家屋調査 129件
転院退院調整 571件
施設退院調整 779件
無料低額診療 294件
その他 750件

か悩むこともありました。そのような時には、先輩方にアドバイスをいただきながら支えてもらい、退院支援やそれにかかわる制度など多くのことを学ぶことができたと感じています。

日々の業務のなかで、自身の知識不足や課題を痛感し落ち込むこともありますが、患者さんやご家族が不安なく、また、納得できる生活を実現できるよう、これからも日々学びを深めていきたいと思っています。



くつろぐ愛猫

【スタッフ】

大田 隆宏	主幹
井上智香子	主任
本間 真一	主任

【部署の特徴】

電子カルテ・医事会計等のシステム保守、運用とともに、医療情報データベースの構築および利用、データ活用のためのアプリケーション作成を行っています。

医療業務を裏方として支えつつ、院内独自システムの開発も各部署の依頼により行っています。

今年度より全国事務（部）長会経営管理部会内の業務効率化チームに課員が参加し、システム目線での協力を行うこととなりました。

独自に設置したデータベース（SQL Server）を有効活用し、院内の各種データの収集や二次利用などに利用しています。

また、情報システム部門をもたない北海道済生会、みどりの里、老健はまなすの支援も行っています。

【実績】

- 生保受診一覧の作成
生保の保険を持っている患者が受診した日の一覧を作成しました。
- 後払い対応
後払いに対応するため、日計表等のレポートを変更しました。
- バックアップテープ対応
4世台でローテーションを行い、テープをサーバーとは別の場所に保管するように対応しバックアップを強固にしました。
- インターネットのプロバイダ変更
NUROへ変更して、通信速度の改善を行いました。
- 給与明細メール送信
メールサーバーがExchangeに変更になったため、GraphAPIを利用した送信方法に変更しました。
- 看護必要度改正対応
マスタの変更などに対応して変更された看護必要度Ⅱに対応しました。
- 医事会計（IBARS）の移行
医事会計のバージョンアップにより、当院独自のデータベース環境を自施設で作成して移行しました。
- 薬剤師対応記録の集計
薬剤師が各種対応してテンプレートに入力したデータを集計できるプログラムを作成しました。
- 仮想環境の作成
Nutanixで4台のノードで合計59台の仮想サーバーを動作させています。
 - ▶ 医事会計（IBARS）の変更により仮想環境を構築しました
 - ▶ 仮想の移行
保証期限が切れているVMWareで動作してVMを移行しました
- 日本整形外科学会（JOANR）への症例登録の自動化実験
全国事務（部）長会経営管理部会業務効率化チームからの依頼により、RPA（Power Automate Desktop無償版）による症例登録の自動化が行えないか実証実験を行いました。（残念ながら実験は失敗に終わりました）
- 院内Excel研修会の開催
経営企画室と協力し、院内にてExcel基礎編（全12回）の研修を行いました。
- 研修会受付システムの構築
院内Webで研修会の登録を行い、研修当日にICカードによる打刻にて参加者情報を収集し、開催後参加者情報をダウンロードする仕組みを作成しました。
- 独自新型コロナワクチン予約システムの構築
ワクチン予約サイトを構築し、院内で情報を連携しワクチンの予約から接種まで一貫して管理が行えるシステムを構築しました。
- リーダーの役割、メンバーの役割の評価システム構築
看護部教育からの依頼により、リーダーの役割およびメンバーの役割の自己申告と評価、回答結果の集計までを行えるシステムを構築しました。
- 医師宿日直業務日誌登録Webの構築
総務課の依頼により、常勤医の宿日直業務日誌登録を院内Webで行える仕組み、および総務課にて宿日直のスケジュールおよび日誌を管理できる仕組みを構築しました。
- NECコミュニケーションサービス導入の支援
電子カルテPCおよび病院貸与のiPhoneにてチャットを可能とするサービスの導入支援を行いました。
- メールサービスの移行
メールセキュリティ向上のため、メールサービスをExchange Online（本部包括契約）に切り替えるための移行作業を行いました。

【令和6年度の取り組み】

人事給与システムのサポート切れによる更新の予定があり、その対応を行います。今年度は人員を増強し、業務を少しずつ継承し持続可能な組織体制の礎を築きます。サイバーセキュリティ対策を強化していきます。

【今後の目標】

DX推進ワーキングが設立され、当課2名がこちらのサポートを行い、ペーパーレスの推進をはじめ業務効率化のお手伝いをしてまいります。

文責 主任 本間 真一

各委員会・診療チーム・その他

NST委員会

【メンバー】

- Adviser : 水越 常德 医師
Chairman : 安達 秀樹 医師
Director : 一島 妃東美 管理栄養士
Sub Director : 西澤 一步 管理栄養士
- ・医師…水越 常德、安達 秀樹
 - ・管理栄養士…多田 梨保、権城 泉、一島妃東美、西澤 一步
 - ・看護師…中山 祐子、安藤 優花、工藤 祐華、太田 聖子、菅原美沙紀、根布 実穂、平岩 悠子、森 靖子、三浦 優花、田中 葉子
 - ・薬剤師…鈴木 景就、笠井 一憲、佐渡 望
 - ・理学療法士…松村 真満、米田健太郎、浅香 翔梧、廣田 正和
 - ・言語聴覚士…加賀 潤輝
 - ・臨床工学士…横道 宏幸、吉田 昌也
 - ・臨床検査室…嶋 優人
 - ・事務部…金田智香子、吉田 幸恵

◆日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了（医師）…明石 浩史、安達 秀樹、高田美喜生、松谷 学、水越 常德、宮地 敏樹

◆日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士…一島妃東美、笠井 一憲、権城 泉、鈴木 景就、多田 梨保、中山 祐子、西澤 一步、松村 真満

【実績】

- ◆栄養サポート加算算定件数…208件
- ◆カンファレンス・回診…毎週木曜日、29回
- ◆委員会…毎月第3木曜日、12回
- ◆勉強会…2回

【令和5年度の取り組み】

- ◆小チーム活動を再開しました（教育・アウトカム・広報・呼吸チーム）。
 - アウトカムチーム
 - ・栄養療法および栄養管理に関するアウトカムについて集計しています。
 - 広報チーム
 - ・広報誌「栄養の架け橋」9月、12月、3月に電カル掲示板に掲示しています。
 - ・栄養楽習会のポスター10月、2月に作成と配布しています。

○呼吸チーム

- ・月に1回小チーム会議開催しています。
- ・リハスタッフへのサクシジョンの指導実施、マニュアルの見直し等検討しています。
- ・勉強会を開催しています。

○教育チーム

- ・各チームと連携し勉強会の企画および運営を行っています。

◆現地開催型の勉強会を企画し多くの職員に参加していただくことができました。

○第1回栄養楽習会 令和5年10月19日開催
参加者約40名

【テーマ】 リハ栄養とMNA

【講師】 ネスレ日本株式会社 北村八大先生

○第2回楽習会開催 令和6年2月15日開催
参加者49名

【テーマ】 人工呼吸器ハミルトンC1「マスクを使った人工呼吸器管理」
～その効果と正しいマスク装着方法について～

【講師】 日本光電 ハイケアソリューション課 雨林紘太郎先生

◆NST専任者の確保が困難のためカンファレンス・ラウンドを9月より中止しています。

【今後の目標】

- ◆NST加算算定要件である職種（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士）について、所定の研修受講者の確保に努め、NST専門療法士の育成を目指します。
- ◆NST専従者・専任者としての人員を確保（増員）できるよう、活動の充実を目指します。
- ◆ニーズに合った栄養療法に関する勉強会の実施を計画します。
- ◆グループ活動を継続し、委員会の活性化に努めます。

文責 NST専門療法士 西澤 一步

院内感染予防対策委員会、感染対策室、ICT、AST

【メンバー】

委員会構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
病院長	病院長	和田 卓郎	
施設長	施設長	堤 裕幸	日本感染症学会/専門医・指導医
委員長	副院長	堀田 浩貴	ICD (ICT・AST) 日本化学療法学会/抗菌化学療法認定医師
副委員長	副院長・看護部長	菅原 実夏	
診療部	副診療部長	安達 秀樹	
療育看護部	療育看護部長	大橋とも子	
医療技術部責任者	医療技術部長	野村 信平	
事務部責任者	事務部長	五十嵐浩司	
手術・中材責任者	手術・中材課長	谷川原智恵子	
薬剤室責任者	薬剤室室長	上野 誠子	
栄養管理室責任者	栄養管理室課長	多田 梨保	
臨床検査室責任者	臨床検査室課長	木谷 洋介	(ICT・AST)
透析水管理者	臨床工学室係長	横道 宏幸	
感染管理認定看護師	TQMセンター主幹	澤 裕美	認定感染制御実践看護師 (ICT・AST)
薬剤師	薬剤室主任	小野 徹	日本化学療法学会/抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師 (ICT・AST)
感染対策室事務局	総務課主任	神山 拓也	(ICT・AST)
委員会事務局(事務部)	事務室長	岩山 隆史	
	総務課主任	小野 翔平	
	健康診断課	窪田 恭子	
	医事課	伝法 俊和	

【オブザーバー】

オブザーバー構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
診療部	副院長	水越 常德	ICD
看護部(リンクナース)	3A病棟	伊藤 玲奈 柴田 祐希	リンクスタッフ
	3B病棟	佐久間春菜	リンクスタッフ
	4A病棟	平元 昌恵	リンクスタッフ
	4B病棟	河原 美幸	リンクスタッフ
	5B病棟	藤林茂鈴恵	リンクスタッフ
	外来	沼山奈緒美	リンクスタッフ
	手術センター	中村 美幸	リンクスタッフ
	透析センター	井上 晶子	リンクスタッフ
医療技術部	薬剤室	一野 勇太 (AST)	
	臨床検査室	岡本 晃光 (AST)	
	放射線室	小林 洸貴	
	リハビリテーション室	平塚 渉	
	リハビリテーション室	室矢 康治	
療育看護部 (リンクナース)	A病棟	棚田 綾子	リンクスタッフ
	B病棟	上 朋美	リンクスタッフ
	C病棟	高山 明子	リンクスタッフ
療育医療技術室	機能訓練課	山本 優	

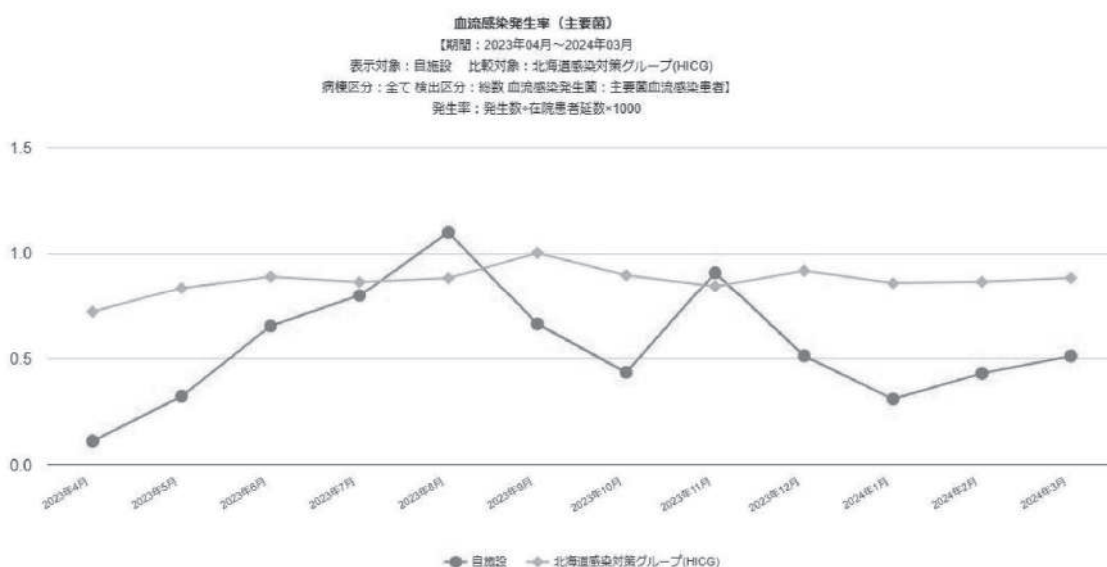
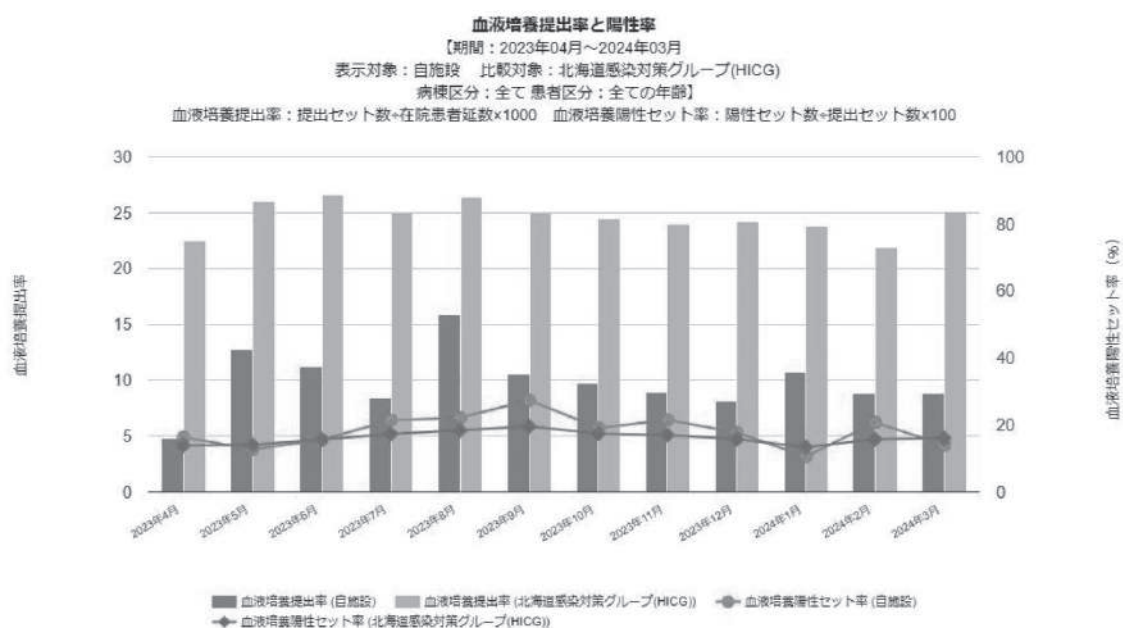
【部署の特徴】

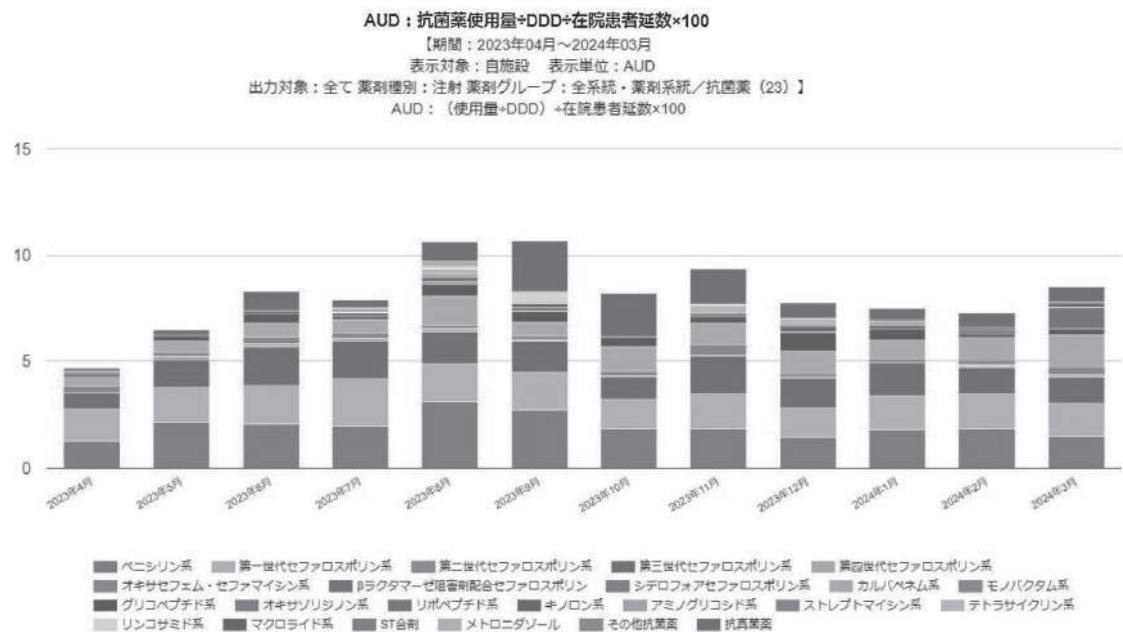
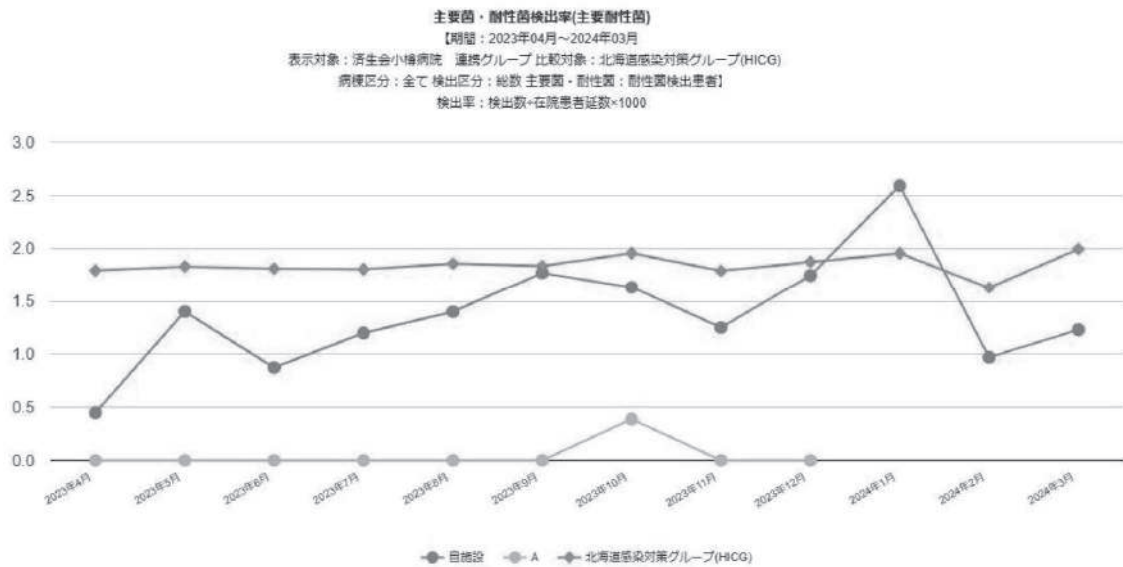
当院では、院内感染対策指針に基づき、院内感染予防に係る様々な対策を実施する為、院内感染予防対策委員会を設置し、感染症に係る情報共有及びその対策を検討し、感染症の拡大を最小限に抑えるため積極的に活動を行っております。

効果的な感染防止対策を実施するため、院長の直轄部門としてインフェクションコントロールドクター（ICD：Infection Control Doctor）である副院長のもと感染対策室を設置し、更に実行部隊として感染対策チーム（ICT：Infection Control Team）を結成し、具体的な活動を行っております。

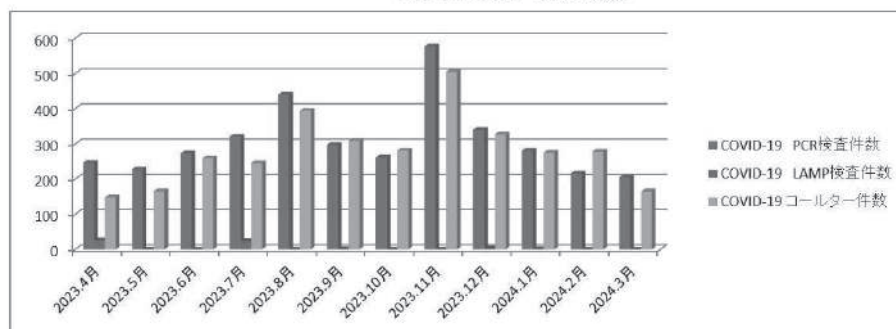
また、抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）を結成し活動しており、特に適正使用が重要とされる広域抗菌薬と抗MRSA薬投与患者、血液培養陽性者の抗菌薬治療を対象とし、毎週チームメンバーでカンファレンスを行い、メンバーそれぞれの専門性を活かし抗菌薬の変更や臨床検査の追加などをまとめ主治医に提案することで、感染症患者に対して適切な感染症治療を支援し、抗菌薬適正使用を推進に関する活動を実践しております。

【実績】

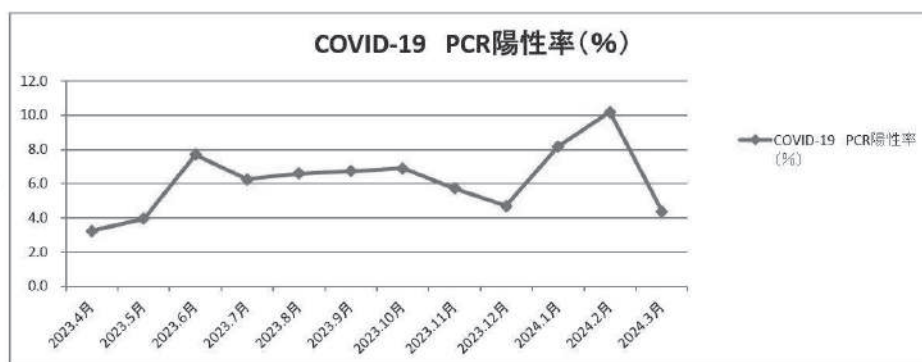




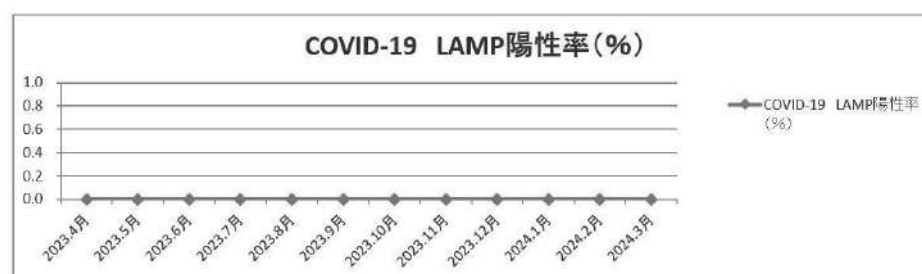
COVID-19 検査数



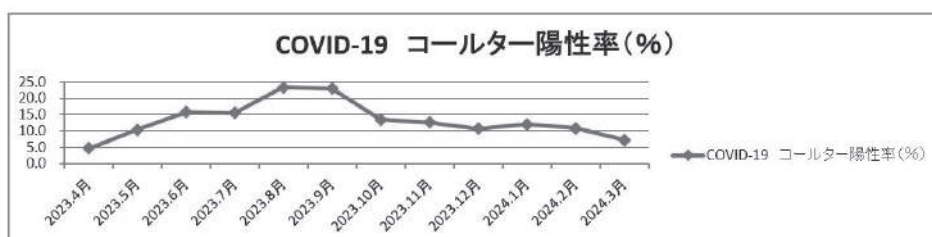
	2023 4 月	2023 5 月	2023 6 月	2023 7 月	2023 8 月	2023 9 月	2023 10 月	2023 11 月	2023 12 月	2024 1 月	2024 2 月	2024 3 月
COVID-19 PCR検査件数	246	228	273	320	440	297	261	577	340	281	216	205
COVID-19 LAMP検査件数	28	0	0	24	0	1	0	0	3	1	0	0
COVID-19 コールター件数	148	165	259	245	394	309	281	505	327	275	278	165
	420	393	532	589	834	607	542	1082	670	557	494	370



	2023.4月	2023.5月	2023.6月	2023.7月	2023.8月	2023.9月	2023.10月	2023.11月	2023.12月	2024.1月	2024.2月	2024.3月
COVID-19 PCR陽性率(%)	3.3	3.9	7.7	6.3	6.6	6.7	6.9	5.7	4.7	8.2	10.2	4.4
陽性件数	8	9	21	20	29	20	18	33	16	23	22	9



	2023.4月	2023.5月	2023.6月	2023.7月	2023.8月	2023.9月	2023.10月	2023.11月	2023.12月	2024.1月	2024.2月	2024.3月
COVID-19 LAMP陽性率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
陽性件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



	2023.4月	2023.5月	2023.6月	2023.7月	2023.8月	2023.9月	2023.10月	2023.11月	2023.12月	2024.1月	2024.2月	2024.3月
COVID-19 コールター陽性率(%)	4.7	10.3	15.8	15.5	23.4	23.0	13.5	12.7	10.7	12.0	10.8	7.3
陽性件数	7	17	41	38	92	71	38	64	35	33	30	12

【令和5年度の取り組み】

- ・委員会開催（毎月）
- ・職員研修の実施（年2回）
- ・連携施設との合同カンファレンス実施（年4回）※内、新興感染症訓練1回
- ・連携施設への訪問指導（年4回）
- ・マニュアル等の改訂
- ・COVID-19の5類移行対応

【今後の目標】

今年度は、5月より新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に移行し、長らく続いていた様々な制限が緩和され、当院でも、5類へ移行後、感染した職員・濃厚接触者になった職員の自宅待機期間の短縮や職場復帰前検査の解除、入院患者さんへの面会禁止だったのが、制限がありますが面会可能となりました。また、ここ数年下火であったインフルエンザ感染症が急激に増えた1年でした。来年度も引き続き、院内の感染対策を実施するとともに連携施設と連携し地域の感染対策に貢献出来るよう尽力してきたいと思います。

文責 感染対策室 木谷 洋介

医療安全管理委員会、医療安全管理室

【スタッフ】

委員長：織田 崇（医療安全管理責任者）
（小樽病院）
診療部：安達 秀樹（マネージメントリーダー）
看護部：谷川原智恵子（兼任医療安全管理者）、
佐々木雪絵（兼任医療安全管理者）
中川 尚美、杉崎 美香、岡本 麻理、
佐藤 悦子、安宅 春華、兒玉真夕美、
伊藤 瑞代、本間美穂子
医療技術部：上野 誠子（マネージメントリーダー、
医薬品安全管理責任者）
平塚 渉（マネージメントリーダー）、
松尾 覚志（医療放射線安全管理責任者）、
多田 梨保、木谷 洋介、
横道 宏幸（医療機器安全管理責任者）
事務部：蛭名 哲行、阿部 亮、吉田みのり、
山崎 隆
医療安全管理室：笹山 貴司（専任医療安全管理者）、
伊藤紀美江

（みどりの里）

療育診療部：堤 裕幸（マネージメントリーダー）
療育看護部：大場美穂子（兼任医療安全管理者）、
中山 美幸、池田 早苗、成木 宣裕
療育医療技術室：前田 美穂（マネージメントリーダー）
事務部：岩山 隆史（マネージメントリーダー）

【部署の特徴】

医療安全は、医療の質に関わる重要な課題であり、安全な医療の提供は医療の基本となるものです。各部署から選出されたリスクマネージャーのもとに、医療安全管理のためのマニュアルを整備することや、ヒヤリ・ハット事例分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い、医療安全管理の強化充実を図っています。

また、地域医療安全ネットワークを構築することにより連携施設以外とも情報交換をし、地域の医療安全向上を目指しています。

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

①活動実績

医療安全管理対策委員会：毎月第一金曜日、12回実施
医療安全カンファレンス：毎週水曜日、49回実施
医療安全連携施設ラウンド：小樽掖済会病院、朝里中央病院、島田脳神経外科
（2023年12月19日ZOOMを活用し、4施設会議実施）

②医療安全セミナー実績

※今年度はコロナウイルス感染防止対策のため、webセミナーにて開催

①開催日：2024年1月29日～2024年2月29日

講習内容：「WAI-WADとレジリエンス」

参加者人数：473名

②開催日：2024年3月28日～2024年4月30日

講習内容：「航空業界から学ぶミスの防ぎ方」

参加者人数：469名

③レポート報告件数について

・インシデントレポート報告件数 1277件

・報告内容概要別件数

概 要	件 数
薬剤	330
輸血	0
治療・処置	19
医療機器等	56
ドレーン・チューブ	231
検査	35
療養上の世話	501
その他	105

・職種別報告件数

職 種	件 数
医師	3
看護師	929
看護助手	7
薬剤師	75
放射線技師	10
臨床検査技師	10
臨床工学士(CE)	22
管理栄養士	63
理学療法士(PT)	43
作業療法士(OT)	23
言語聴覚士(ST)	11
事務	11
社会福祉士	1
介護福祉士	36
児童指導員・保育士	7
調理委託	23

・報告内容

薬剤関連 (326件)

報告内容	件 数
無投薬・未配薬	126
投与時間・日付間違い	13
患者間違い	12
薬剤間違い	11
重複投与	9
過剰投与	9
過小与薬準備	13
その他	133

輸血関連 (0件)

治療・処置 (18件)

概 要	件 数
方法(手技)の誤り	3
未実施・忘れ	3
部位間違い	1
その他	11

医療機器等 (55件)

概 要	件 数
不適切使用	22
点検・管理ミス	7
組み立て	3
故障	1
その他	22

ドレーン・チューブ類 (226件)

概 要	件 数
自己抜去	95
接続はずれ	29
抜去	17
自然抜去	14
不適切使用	7
切断・破損	5
ルートクランプエラー	3
その他	56

検査関連 (32件)

概 要	件 数
未実施	7
部位間違い	3
患者取違い	3
データ取違い	2
検査の手技・判定技術の間違い	2
その他	15

療養上の世話 (502件)

概 要	件 数
スキンケア	128
転倒	124
給食の内容の間違い	60
転落	46
異物混入	11
実施忘れ	10
衝突	9
遅延	8
誤配膳	8
患者間違い	5
その他	93

項目別患者影響度件数

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5	その他
薬剤関係	76	231	19	3	0	0	0	0	1
輸血	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処置	0	11	3	5	0	0	0	0	0
医療用具(機器)	12	41	3	0	0	0	0	0	0
ドレーン・チューブ類	14	182	25	10	0	0	0	0	0
検査	3	23	4	3	0	0	0	0	2
療養上の世話	24	110	19	16	6	0	0	0	0
転倒・転落	3	2	149	18	9	0	0	0	0
食事と栄養	17	134	2	1	0	0	0	0	0
事務	0	2	0	0	0	0	0	0	1
手術	0	0	0	1	0	0	0	0	0
情報・記録	8	14	2	1	0	0	0	0	1
リハビリテーション	5	16	3	4	1	0	0	0	0
その他	21	14	1	1	2	0	0	0	1

【令和5年度の取り組み】

- ・「部署でインシデントの振り返りを行い、患者の安全確保に努める」を医療安全の年間テーマとし、各部署において目標設定し実践した。
- ・感染拡大防止の観点からZoom、ビデオ教材、webセミナーなどを活用し、医療安全活動を行った。

【今後の目標】

- ・安心、安全な医療の提供をするため、部署の垣根を越えた医療安全活動を行えるような組織風土の醸成を目指す。

文責 医療安全管理室副室長 笹山 貴司

褥瘡対策委員会

【スタッフ】

木村 雅美	外科副診療部長	委員長
兒玉真夕美	5B病棟看護課長	副委員長
今井 友裕	3A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
大村 毎	3A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
小路 深雪	3B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
平木 康太	3B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
澤田 涼子	4A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
高木実圭子	4A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
青木 昭人	4B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
北村 光	4B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
田中詩緒梨	5B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
磯部 真奈	5B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
鈴木 桂子	外来看護課	褥瘡対策チーム
松木まさき	手術・中材看護課	褥瘡対策チーム
上 朋美	A病棟療養看護課	褥瘡対策チーム（専任）
渡部 優子	A病棟療養看護課	褥瘡対策チーム（専任）
横山こず恵	B病棟療養看護課	褥瘡対策チーム（専任）
大平 夢子	B病棟療養看護課	褥瘡対策チーム（専任）
霜鳥 祐弥	C病棟療養看護課	褥瘡対策チーム（専任）
佐藤いずみ	C病棟療養看護課	褥瘡対策チーム（専任）
山平 建人	リハビリテーション室	褥瘡対策チーム
石川竜乃介	リハビリテーション室	褥瘡対策チーム
多田 梨保	栄養管理室	褥瘡対策チーム
一野 勇太	薬剤師	褥瘡対策チーム
世戸 収子	医事課	事務局
犬飼 大祐	経理課	事務局
中川 尚美	看護管理室	褥瘡対策チーム
成木 宜裕	C病棟療養看護課長	褥瘡対策チーム

【部署の特徴】

褥瘡は難治性の創傷のため、一度発生すると完治するまでに時間を要します。そのため、褥瘡が治癒しないことで入院期間が長くなり、身体的・精神的苦痛を伴うと予測されます。

褥瘡予防や治療には、発生原因の把握や局所治療だけではなく、全身状態やADL、社会的背景など多方面からの介入が必要となります。当院では毎月外部WOC2名に往診してもらいながら多職種でチームを組み、日々活動を行っています。

【実績】

1. 相談実績 4月～3月

相談患者数(多発褥瘡)	106名(15名)
新規発生	63名(小樽病院58名、みどりの里5件)
持ち込み	43名

2. 令和5年度褥瘡発生報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実患者数	375	391	433	409	466	412	402	413	423	450	449	428
新規発生患者数	4	1	6	4	5	1	7	4	6	10	3	3
新規発生率	1.07	0.26	1.39	0.98	1.07	0.24	1.74	0.97	1.42	2.22	0.67	0.7
持ち込み患者数	1	3	6	2	2	4	8	5	1	7	4	5
有病率	1.33	1.02	2.77	1.47	1.50	1.21	3.73	2.18	1.65	3.78	1.56	1.87

【令和5年度の取り組み】

年間目標『褥瘡発生予防対策の取り組みについてスタッフへの周知、指導し、褥瘡発生を予防する』

評価指標：新規褥瘡発生人数 37人以下

結果：63人

- ・ 外部WOCによる月1回の定期回診（第1水曜日）、および月1回オンライン回診（第3水曜日）
- ・ 手順に沿ったマニュアルの作成および修正の検討
- ・ 褥瘡発生予防のためのスタッフ教育
- ・ 新規褥瘡発生患者の要因分析
- ・ 毎月各病棟の褥瘡発生数を発信
- ・ 評価が難しい患者や対策について回診に同行しWOCより指導（3月）

【今後の目標】

入院中の褥瘡発生は入院期間が延びてしまうだけでなく、患者さんの希望に沿った退院の妨げやその後の影響へも及ぼしかねません。しかし、当院の褥瘡新規発生患者数は少ないと言えず、さらなる褥瘡発生予防に努めていく必要があります。そのため、令和6年度は新規褥瘡発生患者数昨年度比20%減を目指し活動していきます。特に褥瘡対策チームが効果的な褥瘡予防対策を実施するための知識、能力を養い、部署全体へ波及できるような取り組みを実践していきます。

また、当院は後志全域に患者の受け入れをしています。後志は高齢化が進み、老々介護や独居の状態で入院される患者が多い状況です。その中には褥瘡を抱えた状態で入院される患者も少なくありません。再発予防するためにも院内チームだけではなく、外部との連携が必要となってきます。褥瘡は全人的ケアが必要であり、多職種で構成されたチーム活動が重要となります。院内だけではなく、地域医療と連携し、治療・予防を実施し、質の向上を目指します。

文責 褥瘡対策副委員長 5B病棟 児玉 真夕美

クリニカルパス委員会

【概 要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。平成30年度よりDPC開始となり、質・量ともに向上を目指して活動しております。令和4年度より骨折リエゾンサービス（FLS）へもクリニカルパスを用いて運用開始しております。

【スタッフ】

委員長：織田 崇（委員長）
 医師：水越 常德、安達 秀樹
 看護 師：砂川 友紀、会津 郁美、大村 和史
 竹下仁依菜、山崎多寿子、青木 昭人
 石田ゆかり、早川 晃子
 薬剤 師：芦名 正生、中村 圭介
 放射線技師：松尾 覚志
 臨床検査技師：高橋 賢規
 臨床工学技士：山内 揚介
 理学療法士：髭内 紀幸（副委員長）、花田 健、
 四十坊麻由、室矢 康治、三野宮裕樹
 管理栄養士：一島妃東美 → 佐藤かりん
 事務職員：平澤 慎吾、伝法 俊和、田宮 千晶
 山崎 隆

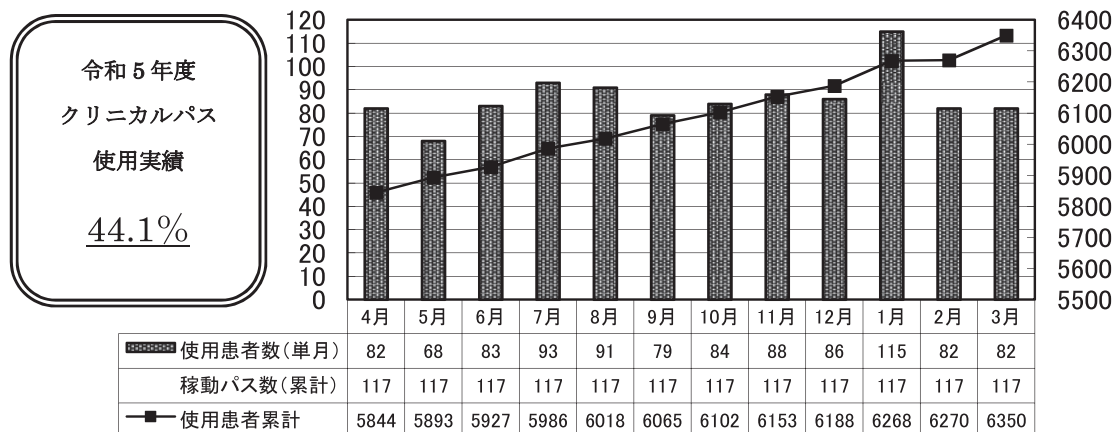
【当委員会の特徴】

委員会を5つのチーム（運用チーム、分析・改訂チーム、活動推進チーム、サポートチーム、骨折リエゾンサービスチーム）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

上記各チームリーダー、クリニカルパス活動推進スタッフからなるコアチームが中心となって活動してまいりました。

【実 績】

クリニカルパス使用患者数(全疾患合計)



稼働クリニカルパス

内科

胃瘻造設術（3種類）、R-CHOP療法、糖尿病教育・検査入院（3種）、大腸EMR（6種）

外科

腹腔鏡視下胆嚢摘出術（2種類）、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（2種類）、ヘルニア根治術（2種類）、外科大腸癌化学療法、甲状腺手術（2種類）

整形外科

膝関節鏡視下術、左・右BHA（2種類）、左・右大腿骨近位部骨折（2種類）、左・右橈骨遠位端骨折（2種類）、左・右TKAパス（2種類）、左・右UKA（2種類）、左・右THA、左・右ACL（2種類）、下肢抜釘（3種類）、左・右アキレス腱断裂縫合術（2種類）、左・右腱板断裂術（2種類）、膝A S半月板縫合術、急性腰痛、骨盤骨折腰部脊柱管狭窄症（2種類）、頸椎症性脊髄症（2種類）、左・右足関節果部骨折骨接合（2種類）、手根管症候群（2種類）、肘部管症候群（2種類）、上肢抜釘（4種類）腰痛椎間板ヘルニア、ミエログラフィー（3種）、左・右高位脛骨骨切術（2種類）
回復期）大腿骨近位部骨折

泌尿器科

前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術、GC（ジェムザール+シプラスチン）、TUL、腹腔鏡下腎臓摘除術

計125パス

【令和5年度の取り組み】

今年度もクリニカルパスのバリエーション分析結果を基に、急性期と回復期で機能を調整したクリニカルパスを作成して、標準化を図りました。

今後は内科系のクリニカルパス作成を精力的に取り組むことに挑戦していき、質の高いクリニカルパス作成に励み、既存のクリニカルパスの質向上にも励みます。それら委員会活動が病院全体の医療の質向上、患者満足度へ寄与できるよう努めてまいります。

文責 リハビリテーション室 髙内 紀幸

患者サービス検討委員会

【メンバー】22名

委員長	菅原 実夏 (看護部)
副委員長	阿部 亮 (事務部)
	一野 勇太 (医療技術部)
事務局	吉田みのり 村上 義明
看護部	齋藤 朋美 佐々木知美
	松本 美紀 宮本 洋祐
	大崎 朱美 浅香 香織
	野 達也 高橋 知子
医療技術部	多田 梨保 小林 朱莉
	内藤 格 加賀 潤輝
	松村 真満 斉藤亜里沙
事務部	浦見 悦子 豊川 哲康
	菅原 充晴

【活動内容】

コロナ感染症の位置づけが、5月より感染症分類の第5類となりましたが、院内の患者受け入れ体制の変更や地域の感染状況を鑑み、ロビーコンサートや各種研修などの企画・運営は、引き続き控える1年でした。そのため、患者満足度調査と接遇の2つのグループに分かれて活動をしました。

患者満足度調査グループ

- ・患者満足度調査は、令和5年6月・12月に実施しました。外来診察の待ち時間の対策として『患者呼び出し表示システム』の検討を重ねています。会計待ち時間対策として『自動精算機』『後払い決済』を導入しました

外来の患者満足度の調査結果

	2023年度	2022年度	2021年度
回答数	356	232	165
総合評価 当院平均値	3.94	4.14	4.03
総合評価 ベンチマーク (BM) 平均点	4.08	4.09	4.11
総合評価 BM同規模平均点	4.04	4.07	4.1

外来満足度調査では前年度と比較すると、全てにおいて低い結果となり、ベンチマーク結果でも平均点を下回ってしまいました。回答数は、約120件増えていきますので、ご意見を更なる対策に反映していきます。

フリーコメントでは主に外来待ち時間についてのご意見が多くありました。年度末に通院支援アプリ「wellcne (ウェルコネ)」の案内ブースを正面玄関に設置しましたため、次回の患者満足度調査の結果に注目したいと思います。

入院の患者満足度の調査結果

	2023年度	2022年度	2021年度
回答数	143	11	16
総合評価 当院平均値	4.42	4.27	4.13
総合評価 ベンチマーク (BM) 平均点	4.35	4.35	4.42
総合評価 BM同規模平均点	4.37	4.37	4.42

入院満足度調査では、回答数は目標の100名を超えました。総合評価前年度より上昇しましたが、ベンチマークは同じ結果でした。

患者さんからのご意見 (ご意見箱) に対しては、担当者による週に一度のカンファレンスの開催で、速やかな対応を心がけています。

「自動精算機」を2台設置しました。会計の待ち時間の短縮になりました。



通院支援アプリ「wellcne (ウェルコネ)」の案内ブースを正面玄関に設置しました。

接遇グループ

- ・「接遇プロジェクトチーム」が作成した『接遇マニュアル』の職員への周知と優秀者の選定を行いました。クイズをマニュアルから作成し、クイズに回答し優秀者の投票とエピソードを載せてもらいました。忘年会で、以下の方々の表彰を行いました。
- ・最優秀者：田代 季さん
- ・優秀者：松木まさきさん、横道 宏幸さん
豊川 哲康さん、山崎 隆さん
森 尚美さん

【今後の目標】

次年度の目標として、入院満足度調査結果において、ベンチマーク結果を平均点以上、および回答数は目標の100件以上の“150件以上”を目指します。外来満足度調査は、更なる回答数の増加を目指し、今年度の結果以上を目標とします。

ご意見箱に関しては、患者・ご家族からの意見の現状を調査し、速やかに改善策を講じ、各部署での共有に努めます。

- ・会計待ち時間対策として自動精算機の導入と後払い決済アプリの導入が実現しました。さらに、診察待

ち時間対策としての「呼び出し表示システム」の導入について引き続き検討を致します。

- ・コロナ禍を経て院内環境も平時にもどりつつありますため『接遇マニュアル』の職員への再周知と接遇研修の企画にも進め、済生会小樽病院の職員として、更なる接遇の向上を目指します。
- ・入院療養中の患者サービスとしての“ロビーコンサート”の開催等も、委員会として前向きに検討して参ります。

文責 副院長 兼 看護部長 菅原 実夏

内分泌・糖尿病診療センター

【スタッフ】

部署・職種		氏名	資格など
センター長	医師	水越 常德	副院長・内分泌専門医
		安丸 卓磨	副院長
看護部	看護師	木藤 絢子	糖尿病療養指導士
		仙保 知子	係長・糖尿病療養指導士
		早川恵美子	糖尿病療養指導士
医療技術部	薬剤師	青木有希子	糖尿病療養指導士、 糖尿病薬物療法認定薬剤師
		村川麻里子	糖尿病療養指導士
	管理栄養士	多田 梨保	課長・糖尿病療養指導士
		権城 泉	主任・糖尿病療養指導士
	理学療法士	三浦富美彦	糖尿病療養指導士 代謝認定理学療法士
		城田 祐輔	糖尿病療養指導士
		舩岡紗也香	
	臨床検査技師	岡本 晃光	主任・糖尿病療養指導士
	医療事務部	村上 義明	課長
		平尾 愛	

【活動内容】

当センターでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師・事務で構成しています。今年度より月1回のセンター会議に加え、毎週金曜日にチームカンファレンスを開催し、KAGRAシステムより選定した患者さんへの介入について多職種で検討することにより、より質の高い糖尿病支援に努めています。外来診療の活動としては、糖尿病透析予防指導・フットケア外来・インスリン自己注射や血糖自己測定指導を通して、各職種の特徴を生かし、患者様の個々のライフスタイルに合わせた療養支援を提供しています。

糖尿病の教育入院は、当院で作成した1～2週間程度の教育入院スケジュールに沿って、糖尿病療養指導士のスタッフと一緒に、糖尿病について学び、自身のこれまでの生活を振り返り、個々のライフスタイルに合った具体的な療養生活を考えていけるよう、患者様中心のチーム医療を実践しています。また、近年増加傾向である妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠に対して、近医産科と連携を図り、診療を行っています。以前から行っているCGM（持続グルコース測定）・フリースタイルリブレなどの機器を使用することで、24時間の血糖値の推移を把握し、日常の診療や患者さん自身の糖尿病管理の動機付けに役立てています。

【実績】

糖尿病教育入院 実施人数：45人
 糖尿病透析予防指導：0件
 CGM装着・解析 実施件数：10件
 フリースタイルリブレ 実施件数：408件
 フットケア 実施件数：64件
 糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病 介入人数：3名
 KAGRAシステム抽出人数663件

【取り組み】

- センター会議開催 毎月定例 12回
- 糖尿病カンファレンス 毎週金曜日
- 院外勉強会・活動・学会発表
 - ・第29回全国済生会糖尿病セミナー
 （2023年8月19日）学会発表
 演題名：低血糖発作による救急搬送をきっかけに判明した認知機能低下・服薬インスリン実施率が低下した糖尿病のある人のライフステージに合わせた他薬剤調整を行った一例
 発表者：薬剤室 青木 有希子
 - ・第29回全国済生会糖尿病セミナー
 （2023年8月19日）学会発表
 講演名：各特性に合った運動指導ツールの作成を目指した当院における糖尿病治療を目的として入院した人の傾向調査
 講演者：リハビリテーション室 城田 祐輔
 - ・第29回全国済生会糖尿病セミナー
 （2023年8月19日）学会発表
 講演名：右足関節三課骨折の術前血糖管理を機に、1型糖尿病のカーボカウントの見直しとインスリン量の調整を行った一例
 講演者：栄養管理室 権城 泉

【今後の目標】

糖尿病治療の目的は、治療を行いながらも健康な人と変わらない生活を送れるように支援することです。それぞれの専門職種を生かした視点から親身になって患者様と関わっていき、その人に合った療養指導の提供を今後も継続して行っていきたいと思っています。後志地区は高齢化が進んでいますが、“その人らしい生活・生き方”を支えるために、チームを始め、地域全体で協力して進めていきたいと考えています。そのためにも、我々スタッフの自己研鑽・コミュニケーションを充実し、よりよい医療サービス・療養指導の提供に邁進していきたいと思っています。

文責 薬剤師 青木 有希子



緩和ケアチーム

	役職・職種	氏名
診療部	内科診療部長	明石 浩史
	外科副診療部長	木村 雅美
	緩和ケア内科	菊地未紗子
看護部	看護師 緩和ケア認定看護師	藤原 大地
	看護師 係長	吉田真知子
	看護師 係長	中山 優子
	看護師 係長	宮下めぐみ
	看護師 係長	齋藤 亜妙
	看護師	田代 季
	看護師	木谷由香里
	看護師	野上 麻里
	看護師	早川恵美子
薬剤室	薬剤師 課長 緩和薬物療法認定薬剤師	鈴木 景就
	薬剤師	村川麻里子
栄養管理室	管理栄養士 主任 がん病態栄養管理栄養士	権城 泉
リハビリテーション室	理学療法士 主任	松村 真満
	作業療法士 主任	林 知代
	言語聴覚士 主任	加賀 潤輝
放射線室	診療放射線技師 係長	舟見 基
事務部	MSW	福森 星輔
	MSW	吉田みのり

【活動内容】

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師、MSWなど多職種で構成されたチームで患者さん、ご家族のつらさに寄り添い、また、希望をもって生活が継続できるよう活動しています。具体的な活動として①緩和ケアチーム回診（毎週火曜日）②チームカンファレンスの開催（外来：火曜日午後、入院：木曜日午後）③院内講演会の企画④マニュアル整備⑤地域連携活動を行っています。

2023年度は心不全の緩和ケアの介入強化を行いました。重症心不全の患者さんやその家族は治療経過の中で様々な問題を抱え、身体的、精神的に苦痛を伴う事も少なくありません。循環器内科と連携を取り、患者に対し緩和ケアに関する情報提供を行い、希望があった場合に緩和ケアを他の治療と並行して行います。苦しみを予防し、和らげて、患者さんや家族の療養生活の質をよりよいものにすることを目指しています。がん、心不全含めて総介入件数は400件を維持する事ができています。

在宅退院患者支援についても地域の医療、福祉関係

の皆様と協同することで患者様の「家に帰りたい」という希望をできるだけ尊重した取り組みを行うことができています。

外来から入院まで連続してチームとして係わる事ができ、継続的な緩和ケアの介入ができていていると思います。

【講演会の企画・開催】

① 2023年6月19日 心不全緩和ケア講演会

講演Ⅰ：「多職種介入による循環器緩和ケアの実践」

演者：北海道大学病院 循環器内科

助教 佐藤 琢真先生

講演Ⅱ：「心不全緩和ケアチームの実践【症例報告】」

演者：北海道大学病院 臓器移植部

医科外来ナースセンター

レシピエント移植コーディネーター

加藤 美香先生

パネルディスカッション：

「心不全に対する緩和ケアチームの介入－ACPを含めて－」

演者：藤原 大地

② 2024年2月29日 私の街の緩和ケア

講演Ⅰ：「おたるワンチーム ICTで深まる連携とACP」

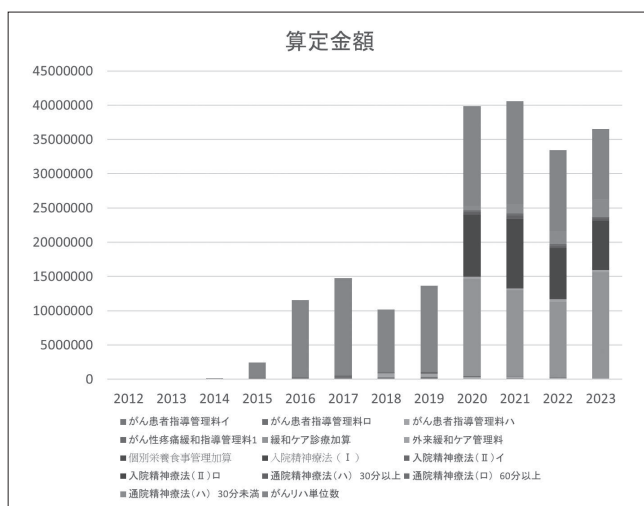
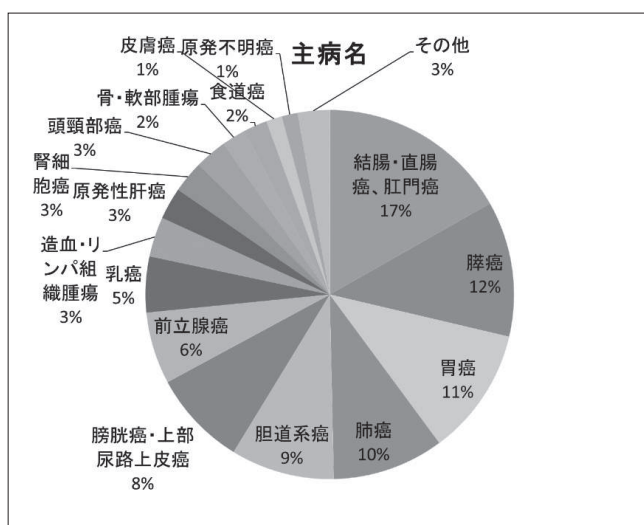
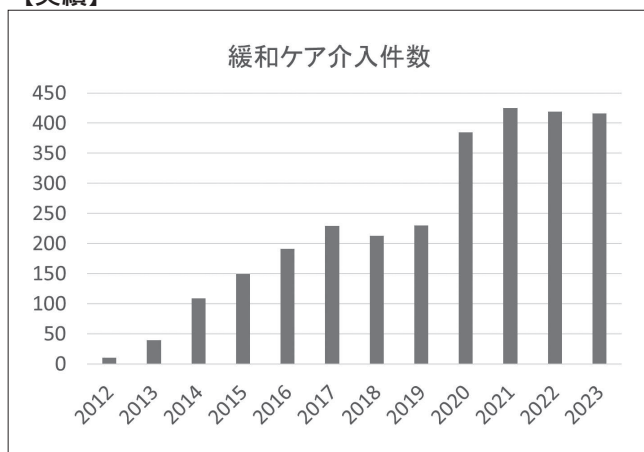
演者：高村内科医院 院長 高村 一郎先生

講演Ⅱ：「多様化する在宅医療の現状と今後」

演者：札幌在宅クリニックそよ風

院長 飯田 智哉先生

【実績】



【今後の目標】

緩和ケアへの早期介入の試み

がんスクリーニングにより介入件数は増えましたが、病棟からチームへの連絡漏れが見られる状況にあります。また、入院後に診断がつく場合が考えられるため、連絡体制を強化し、全てのがん患者が早期から緩和ケアを受けることができる体制を作っていきたいと考えています。

地域医療への貢献

地域の緩和ケアの質向上に寄与し、がんになっても安心して住み慣れた場所で過ごしていけるよう、地域の医療機関、介護福祉関係者と連携しながら、退院後も継続的にフォローできる体制を整えていきます。また、最新の知識や緩和ケアに対する考え方などをさらに広めていくための講演会を継続的に開催していきます。

地域の緩和ケアの質向上についての講演、講師等の依頼にも積極的に協力します。

研究活動の推進

チームメンバー個々の能力の向上は、ケアの質をさらに高めることにつながります。メンバーそれぞれが自己研鑽を行い、多職種チーム医療の成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思えます。

文責 薬剤室 鈴木 景就

認知症ケア推進室

【スタッフ】

所属	氏名	職種・役職	専門・認定資格
診療部	林 貴士	医師 脳神経内科部長	日本神経学会専門医 総合内科専門医 医師臨床研修指導医 認知症サポート医
	菊地未沙子	医師 精神科・腫瘍 精神科・緩和 ケア内科 部長	精神科専門医 精神科指導医 精神保健指定医 産業医 日本総合病院精神医学会一般 病院連携精神医学特定指導医
看護部	佐藤由紀枝	看護師・看護係長	認知症看護認定看護師
	打越 純子	看護師	
	藤原 揚子	看護師	
	古瀬 康江	看護師	
	見澤 早苗	看護師	
	田中 幸希	看護師	
	田中 寛子	看護師	
	信山柚季菜	看護師	
	佐々木真琴	看護師	
	川崎 雅美	看護師	
	清水 美空	看護師	
医療 技術部	山中 佑香	作業療法士 作業療法課課長	
	對馬 啓介	作業療法士	
	松村 真満	理学療法士 理学療法課主任	
	関 あすな	言語聴覚士	
	又村 健太	薬剤師	
	西澤 一步	管理栄養士	
事務部	山端 隆	社会福祉士	
	平澤 慎吾	医事課	

【部署の特徴】

認知症ケア推進室は2016年に認知症ケア委員会として発足し、2019年からは推進室として活動しています。急性期疾患による治療や回復過程でリハビリが必要となった認知機能の低下した患者様が、入院生活という環境の変化に混乱なく療養できるよう、環境調整やケアを推進しています。また、せん妄の発症を予防するために早期の介入を実践しています。環境調整では、病院であること・入院している理由の掲示や、カレンダー・時計の設置、ケアでは個別性に合わせたカンファレンスからケアの提供と現状の理解につなげるためのリアリティーオリエンテーションの実践に取り組み、認知症ケアの質の向上を目指しています。

【実績】令和5年度

認知症ケア加算1 算定件数	30,703件
認知症ケア加算1 収益	19,471,519円
せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,095件
せん妄ハイリスク患者ケア加算収益	2,104,710円
せん妄ハイリスク患者急性期算定率	79%
入院患者認知症比率（算定延件数/入院延患者数）	43.0%
身体的拘束比率（身体的拘束件数/総認知症算定件数）	10.9%

【令和5年度の取り組み】

認知症ケア加算1、せん妄ハイリスク患者ケア加算に準じて、専門的知識をもつ多職種でケアの実践を行っています。

認知症ケアにおける主な活動内容は①認知症ケアチームによる週1回以上の回診・カンファレンスの実施（毎週火曜日午後）②院内研修会の開催③認知症患者の環境調整④身体的拘束軽減のためのケアなどを中心に行っています。

当院に入院する患者の4割は認知機能の低下を有し、急性期病棟に入院するせん妄ハイリスクに該当する患者は約8割を占めます。認知機能の低下はせん妄のリスクとなるため、せん妄予防と認知機能の低下に対するケアが重要になります。急な環境の変化の中でも現状を理解し、昼夜を把握し安心して療養できる環境調整が必要です。

認知症ケア推進室では、認知機能の低下やせん妄ハイリスク患者に対し、記憶・見当識を維持し現状を理解できるよう、ベッドサイドに病院である事や入院した理由がわかるような掲示、カレンダーや時計の設置を義務付け取り組んでいます。また、掲示や時計に注意を向けることが出来ず、現状の理解が難しい患者には、病院である事や実践するケアを現在の時間と関連付けながら伝えるリアリティーオリエンテーションにより説明を繰り返し行っています。なんてことのないケアですが、この対応を丁寧に行うことが認知機能の低下やせん妄ハイリスク患者において重要なケアであり、不安や混乱、せん妄への移行を予防する事に繋がっています。

今年度は、掻痒感によるカテーテル抜去予防を目的に、被覆材の検討を行い身体的拘束軽減への取り組みを実施しています。また、昨年度試験運用を実施していた脱衣やカテーテル抜去予防の下着やスカーフの運用を開始し、院内で実践しています。

【今後の目標】

認知症ケア、せん妄ケアの更なる質向上を目指し、院内研修をはじめ現場での環境調整やケアを実践し、病院全体で知識・対応力の向上に繋げていきたいと考えています。

次年度からの診療報酬改定に伴い身体的拘束の最小化が求められる中、患者の人としての尊厳を守り安心した医療を提供するためには、私たち医療者の認識を変える必要があります。「安全のためには仕方ない」という安易な考えだけでは身体的拘束は認められません。自身や自身の家族が患者になっても入院したいと思えるよう患者の尊厳を守りながら安心・安全な医療を提供できる病院である必要があります。そのために

は、身体的拘束における院内の現状を把握し、身体的拘束を最小化するための具体的な活動に繋げていきたいと思います。また、認知機能の低下があっても患者自身が病状や治療についての説明を受け、自身の治療

や今後の生活場所を自ら選択する機会が得られるよう、意思決定の支援についての実践も強化していきたいと考えています。

文責 看護係長 佐藤 由紀枝

手・肘センター

【スタッフ】

部署・職種		氏名	役職・資格など
診療部	医師	和田 卓郎	院長、日本手外科学会専門医・指導医・代議員、日本肘関節学会監事・評議員
		織田 崇	診療部長、日本手外科学会専門医・指導医・代議員、日本肘関節学会評議員
医療技術部	作業療法士	山中 佑香	技術課長、日本作業療法士協会認定作業療法士
		高橋 靖明	技術主任
		五嶋 渉	
		我彦 由紀	
		河村 結	
		杉下 智香	
		白戸 力弥	日本作業療法士協会認定作業療法士

【部署の特徴】

当センターは、手と肘の診療を専門とする医師と作業療法士が担当しています。新鮮重度損傷や先天異常を除く、手と前腕、肘の外傷や変性疾患を対象としています。月1回、医師と作業療法士が行うケースディスカッションを開催し、患者さんの治療方針、目標設定などについて議論しています。より質の高い治療を医師と作業療法士で検討することで、機能面だけでなく患者満足度の向上に努めています。また、学術活動を通して、患者や治療に還元できる臨床研究を積極的に行い、さらなる質の高い治療が提供できるよう日々研鑽を積んでいます。

また、2016年4月より新設された精密知覚機能検査の算定や、スプリント作成を通して、増収への貢献だけでなくより専門的な治療も行っています。さらに当院は北海道で数少ない筋電電動義手の実施装着訓練機関の一つであり、手・肘センターではこの筋電義手訓練について北海道各地より患者さんを受け入れ、上肢切断者に対する最先端のリハビリテーションを行っています。

【実績】

- 精密知覚機能検査 170件（手根管症候群119件、肘部管症候群39件、その他12件）
- スプリント作成 119件
- 筋電義手訓練症例数 5例（令和5年度、通算）
- 手術 436件（抜釘を除く）

【令和5年度の取り組み】

- ケースディスカッション 毎月1回（医師、作業療法士）
- ミーティング 毎週1回（作業療法士のみ）
- 外部研修受け入れ 3名（帯広厚生病院、札幌医学福祉歯科専門学校、札幌リハビリテーション専門学校）
- 院外勉強会 3件（詳細は学会・研究発表参照）
- 学会発表 16件（詳細は学会・研究発表参照）
- 論文・著書 4件（詳細は論文発表参照）

【今後の目標】

小樽・後志地区はもちろんのこと、道内外において患者と医療者の双方に選ばれるよう日々研鑽を重ね、丁寧な診療・リハビリテーション提供ができるよう心がけます。

どんな疾患に対しても最先端の治療を提供できるように、国内外における学術活動や研究を通して自己研鑽を積んでいきます。

文責 作業療法士 高橋 靖明、山中 佑香

13TH APFSSH, 9TH APFSHT &
8TH APWA CONGRESS in Singaporeの参加

河村 結

2023年5月31日から6月3日に、シンガポールで行われたAsian Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand&the Hand Therapyに参加しました。ハンドセラピーに精通した大先輩方の付き添いだったのでほとんど観光気分で気楽な旅行だったのですが、手外科分野のことはもちろん、海外特有の文化にも触れることができ、とても有意義な時間でした。



学会の合間を縫って、マーライオンやマリーナベイサンズなどのベタな観光地はもちろん、パンダ見放題の動物園や、光る巨大なツリー、空港内の巨大な滝など、海外でしか味わえない大規模の体験が多く、驚きの毎日でした。

学会では、飛び交う英語に頭がパンクしそうになりながらついていくのに必死だったのですが、熱い発表の数々に触れ、医療、リハビリに懸ける思いはどの国でも同じだと実感しました。国内の情報だけでも網羅しきれていない現状ですが、こうして海外の情報、文化に触れることで視野が広がり、今後の学習に生きていくと強く感じました。



済生会生活困窮者問題シンポジウムを開催

今回は、済生会の根幹事業のひとつである「生活困窮者支援」について小樽でシンポジウムを開催しましたのでご紹介します。済生会での生活困窮者支援活動は「なでしこプラン」と言い、令和5年度は全国で計496事業を実施し、延べ21万8千人への支援を行いました。各地における支援活動はシンポジウムを開催することにより地域に紹介されます。今年度は三重県と北海道で開催しました。

本シンポジウムのテーマは、「小樽ウェルネスタウン発 誰もが自分らしく暮らせる未来を！」です。現在北海道済生会で進めるウェルネスタウン構想において、連携している団体を中心に構成し、それぞれ専門の立場で生活困窮者問題について報告。北海道内外より約130人が参加しました。はじめに近藤真章支部長より開会が宣言されました。来賓挨拶では小樽市長より「地域共生社会の実現に向け尽力いただいている済生会と強力な連携を取り、市民一人ひとりが生き生きと生活できるよう次の世代に引き継いでいきたい」と述べられました。また、炭谷茂理事長は、ソーシャルインクルージョンの推進に協力をいただきたいと挨拶されました。

その後、基調講演では、日本財団・尾形武寿理事長が「みんながみんなを支える社会を目指して」と題し、日本財団の支援の仕組みや課題先進国日本の課題解決に取り組む活動内容をご講演。「当財団は子ども・高齢者・障害者などへの新しい支援の仕組みを生み出し、人々が互いの痛みや苦しみを分かち合うことができる社会にしたい」と訴えました。

続いて、小樽商科大学・片桐由喜副学長がコーディネーターを務め、生活困窮者への支援をテーマにパネリスト4名による議論が交わされました。しんぐるまざあず・ふおーむ北海道・平井照枝代表は「ひとり親世帯に対する支援は固定観念にとらわれずに傾聴することが支援につながる」と語りました。小樽市福祉保険部福祉総合相談室・大口明男主幹は仕事や生活で悩んでいる人への相談支援事業「たるさぼ」を紹介しました。株式会社ドリームジャパン・長原和宣代表取締役は「刑務所出所者への支援事業をととして、再犯を防ぎ新たな被害者を生まないためには企業が身元引受人になって就労の場と住まいを確保することが大切」と話しました。北海道済生会・ソーシャルインクルージョン推進室清水雅成より北海道済生会が進めるフードバンクを紹介。「行政や企業など各々が強みを生かして支援を必要とする家庭へ手を差し伸べたい」と言及しました。

最後に北海道済生会・櫛引久丸常務理事より「生活困窮者は、現代の、日本社会が抱える大きな問題の1つですが、その状況は多様で複合化しておりますことから、その支援についても包括的、重層的なものにしていかなければならないと、このシンポジウムを通して実感いたしました。」と挨拶し、会を締めくくりました。

文責 北海道済生会 支部事務局 清水 雅成



シンポジウムには130人が参加



基調講演 日本財団・尾形武寿理事長



挨拶をする近藤真章北海道済生会支部長

初期研修・地域研修

2年次初期臨床研修を終えて

令和5年4月1日～令和6年3月31日
井澤 朋大

済生会小樽病院での2年目の初期臨床研修のおかげで自分は大きく成長させていただきました。

まず最初は学ぶことの多さに圧倒されました。1年目の大学病院では幅広い知識をいろいろな先生方から教わっていましたが、こちらでは整形外科に特化した内容を一気に覚える必要がありました。診療内容や手術適応・手術内容やインプラント選択などわからないことだらけの連続でありましたが、上級医の先生方をはじめとしたスタッフの皆さんのサポートにとっても助けられてなんとか乗り越えることができました。次に泌尿器では泌尿器疾患の見方、コンサルのタイミング、透析管理など他科でも必要な知識を丁寧に学べ、前立腺生検までやらせてくださったのは本当にいい経験でした。地域研修の『みどりの里』では重症心身障害児を診ることができ、自分の知っていた病院とはまた違う姿をみせていただきました。脳神経内科では病棟管理や神経伝導検査をメインにやらせていただき、救急などで診断に苦慮しそうな症例についても丁寧に身体所見や画像所見を学ばせていただきました。最後に整形外科に再び戻りましたが、そこでは骨折の患者さんをたくさん診ることができ、手術も多くやらせていただきました。患者さんもたくさん持たせていただき、手術のみならず術前管理・術後管理・後療法なども考えることができたのは大きな財産になると思います。

忙しい中、丁寧に教える時間を作ってくくださった先生方、未熟な知識を丁寧にフォローしてくくださった看護師・看護助手のみなさま、その他大勢の方の助力があつて研修を終えることができましたことを、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

1年間を通して、公私共に皆様には大変お世話になりました。仕事のみならず、食事や飲み会、レクリエーションなど様々な機会に関わることがありましたが、とても良くしていただき、病院全体、ひいては小樽という街がとても大好きになりました。今後また機会があればぜひこちらの病院で働かせていただきたいと思います。

1年次初期研修を終えて

令和5年4月1日～令和6年3月31日
岸本 快

済生会小樽病院での1年間は医師として大きく成長できる時間でした。

私は学生の頃より整形外科志望だったため、研修医の時点から整形外科の基礎を学びたいと思い、札幌医科大学整形外科の関連病院である当院の研修を希望いたしました。しかしながら当院は研修医の受け入れ実績も多くはなく、同期も私を含めて2人だったため正直なところ不安を抱いて初期研修をスタートしました。

ですが、そのような不安はすぐにはなくなりました。人数が少ないからこそ同期、先輩に気軽に相談することができ、指導医の先生方とも距離が近く治療方針や手術、処方等の基礎的な部分から丁寧に指導して頂くことができたため、着実に医師としての素養を身につけることができました。

内科では外来、病棟管理、救急対応を学ぶことができました。また、先生方から現状疑問に感じていることを講義形式で教えて頂く機会も設けて頂き、今後の医師人生の基礎となる考え方を養うことができたと感じます。

整形外科では実際に救急対応から診断、手術、術後管理、退院後の外来フォローといった一連の流れを数多く担当させて頂いたことで、他の研修施設では積むことのできない経験をすることができました。実際に骨折治療は50件近く執刀することができ、その他にも人工関節置換術や脊椎固定術、手・肘関節手術の第一助手も多く担当することができ、整形外科に対する視野が何十倍にも広がったと実感しています。この経験を通して研修医として、整形外科医として大きな一歩踏み出すことができました。

たすきがけプログラムのため1年という短い期間でしたが、多くのことを学ぶことができ密度の高い研修を送ることができました。この場を借りて、済生会小樽病院の職員の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

済生会小樽病院での研修を終えて

令和5年4月1日～令和6年3月31日
竹中 理紗

私が初めて済生会小樽病院を訪れたのは大学2年生の頃でした。まだ医学を学び始めたばかりで、臨床の現場のイメージもついていなかった私にとって、貴院での看護体験実習はとても大きな影響を与えてくれました。院内の雰囲気はとても明るく、スタッフの皆さんには活気があり、いつかそんな貴院で働きたいと思うようになりました。

実際に1年間働いてみて、その当時の病院へのイメージは変わることはありませんでした。廊下では明るい挨拶が飛び交い、病棟ではスタッフさんと患者さんの笑い声が聞こえてきて、どこを切り取っても温かい雰囲気を感じられ、病院の明るく活気がある雰囲気は、職員全員によって作り出されていると実感しました。医療スタッフ同士の垣根もなく、気軽にコミュニケーションを取りやすい環境が、初めて医師の仕事を覚える環境として最適でした。

整形外科志望ということもあり、整形外科での研修中は幅広くかつ専門的に学ぶ機会を頂きました。外来や救急車の初療に始まり、回復期病棟から退院するまで、急性期から回復期まで診ることができました。自宅や施設に退院するまでの環境調整などにも携わることができ、実際に求められている医療は何かを学ぶことができました。

札幌医科大学とのたすきがけプログラムが運用開始されてからまだ年数も経っていない中、様々な要望を受け入れてくださり、誠にありがとうございました。研修体制を整えて下さった全ての方々のおかげで充実した研修期間となりました。また、日々の診療業務でお忙しいところ時間を惜しまずご指導いただいた上級医の先生方に心より感謝申し上げます。

1年間で見つけた新たな目標を達成できるよう、さらなるスキルアップを目指して参ります。たくさんの方に支えられながら研修したこの1年間は、最高の医師人生のスタートとなりました。

内科専攻医研修を終えて

令和4年4月1日～令和6年3月31日
安丸 卓磨

現在、糖尿病代謝内分泌内科専門医として働き始めましたが、いまだに専門領域以外の疾患をみることが

たくさんあります。

そこに一概的に良し悪しの判断はできませんが、個人の意見としては「専門領域以外だからみれません」という医師になるのではなく、できるだけ多くの患者さんの命を救える医師像を目指しております。

済生会では消化器内科に所属しながら総合内科的な枠組みで働くことができました。

私自身、専門領域に限らず多くの患者さんの手助けになればと思い済生会に就職したのでとてもよい経験になりました（消化器、内分泌、腎臓、感染症、膠原病、血液内科、循環器、呼吸器、緩和ケアなどの疾患）。また救急による初期対応から慢性期管理や退院調整まで幅広く医師の力で関われるので若手医師が力をつけたりするにはとてもよい環境であったと今では思います。加えて、小樽地域ならではの観光客や旅行者（海外の方）の救急対応も経験することができ自身の英語力や臨機応変に対応するフレキシブルさを培うことができました。

この二年間の経験が自分にとって大きな財産になったことは間違いありません。

この経験を生かして専門領域に縛られず多くの方々に適切な医療を届けられように全力を尽くそうと思います。

地域医療研修を終えて

令和5年5月29日～令和5年6月23日
小樽市立病院 赤坂 幹

この度は地域医療研修で受け入れて下さりありがとうございました。コロナ禍が明け、グランドパークでの素晴らしい歓迎会に一員として招いて頂き、とても楽しい気持ちで研修を開始することができました。私は来年度から脳神経外科に入局するため、特に関連の強い脳神経内科で研修をさせていただき、ALSやパーキンソン病の診察・治療や脳卒中術後患者さんの回復期医療を経験させていただきました。また内科・脳神経内科の患者さんに対する中心静脈カテーテル手技など、手技を行う機会を多く与えてくださったのを非常に嬉しく思います。日々の診療行為の合間に先生方から医療知識を教えて頂いたり、カンファレンスでの議論での学びもあり、非常に有意義な研修期間を過ごすことができました。一ヶ月間の手厚い指導のお陰で医師として成長できたと感じます。素晴らしい研修をありがとうございました。

済生会小樽病院での地域研修を終えて

令和5年6月26日～令和5年7月21日
小樽市立病院 初期研修医 谷向 慎矢

はじめに、この度は地域研修を快く受け入れて頂き、誠にありがとうございました。また、グランドパークホテルで開催された新人歓迎会にも参加させて頂くなど、多くの方に関わらせて頂きました。感謝を伝えられていない方も多くいらっしゃると思いますので、この場をお借りしてお礼申し上げます。

最初に済生会小樽病院に来て感じたのは、医療スタッフの方々の距離がとても近いことでした。初日、医局にたどり着くまでにお会いしたスタッフの方々全員が明るく挨拶してくださったのを、鮮明に覚えています。とても雰囲気の良い病院だと感じましたし、初めての病院で不安だったこともあり、大変ありがたかったです。

神経内科・内科を中心に、外来や病棟、発熱外来、救急患者の診察、訪問診療などで研修させて頂きました。認知症ケアチームや緩和ケアチーム、内科外科カンファレンス、プライマリケアWebカンファレンスなどにも参加させて頂き、本当に幅広く研鑽を積むことができました。訪問診療では、患者ご家族との関係構築も含め、病院理念にも掲げていらっしゃる「かかって良かったと思う病院」、「地域と共に歩む病院」として、地域社会に密着されていることを感じました。訪問診療に同った経験はなかったため、急性期病院では経験できない回復期までの一貫した医療を見ることができ、とても良い学びになったと思います。

ご指導賜った先生方をはじめ、病院で働かれているスタッフの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。この研修を糧に今後も研鑽を重ね、いつの日か一緒に働くことが出来たら幸いです。研修最終日に、この文章に何を書こうかと考えながら病院の廊下を歩いていると、廊下に掲げられた病院理念が目に入りました。私は生まれが小樽市なこともあり、馴染みのある地域に根ざした「働いて良かったと思う病院」で研修が行えたことを大変嬉しく思います。

4週間と短い間ではありましたが、誠にありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和5年9月1日～令和5年9月30日
山形済生病院 村松 希信

地域医療研修としてこの一か月間、整形外科を中心に大変お世話になりました。夏の終わってから秋にかけての期間であり、気候的に過ごしやすかったです。北海道には観光などで来ていましたが、小樽には初めて訪れました。小樽の観光も含め色々な食事を堪能しました。特にあんかけ焼きそばには感動しました。

整形外科志望ということもあり、地域医療研修ですが、小樽でも整形外科で研修することができました。同じ疾患症例でもやり方が異なっている点や上腕骨外側上顆炎に対して鏡視下手術といった普段見られない手技なども勉強することができ大変ありがたかったです。小樽で新しく学んだ手技や処置などを山形に戻っても活かしていきたいです。

生活面でも担当の吉田さんに細かく気を遣って頂き、楽しく過ごすことができました。ほぼ毎日外食し、北海道でしか飲めないサッポロクラシック生ビールを堪能しました。小樽ビールも美味しかったです。余談ですが、観光で余市に行きニッカウイスキーを沢山買ってしまいました（多すぎたため発送しました）。先生方とご飯に行ったりもし、大変ありがたかったです。

一か月間と短い期間でしたが、貴重な経験ができました。スタッフの皆様にお気遣い頂き充実した研修となりました。お世話になった先生方、スタッフの皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和5年10月2日～令和5年10月27日
大阪府済生会富田林病院 研修医 喜田 章太

この度は1ヶ月間とは短期間でしたが、大阪府の済生会富田林病院より地域医療研修として貴院にて研修させていただきました。小樽には高校の修学旅行以来に訪れましたが、暑すぎず寒すぎずの丁度良い気候で1ヶ月の研修生活を送ることができました。研修としましては整形外科とみどりの里で2週間ずつ研修をお受けいただきました。

貴院ではかなり多くの整形外科手術件数があり、初めの2週間は毎日オペ場に入り、和田院長はじめ各先生方にご教授頂きながら数多くの症例を経験できました。その中でも富田林病院ではあまり経験することができない手関節領域の手術も経験出来たため、とても

勉強になりました。

後半の2週間ではみどりの里にて重症心身障がい者施設を経験させていただきました。重症心身障がい者施設は初めて経験したため、最初はかなり重症の患者さんが治療されているイメージがありましたが、医師をはじめ数々の医療関係者が協力しあってサポートし、雰囲気も皆さん優しく、とてもアットホームな場となっていました。患者さんにとってはとても住みやすい環境と思います。その中で普段見ることのない症例や手技も経験出来たため、充実した研修をおくることが出来ました。

普段の生活面では小樽の方々はとても気さくに喋りかけてくれました。病院で知り合った方々や居酒屋であった近所の方々ともすぐ打ち解けることができ、様々なところに連れて行ってもらいました。友達になった皆さん本当にありがとうございます。

最後になりましたが小樽の地での研修を活かし高度医療だけでなく地域に寄り添った医療を提供できる医師を目指したいと思います。

お世話になった多くの先生方をはじめスタッフの方々には、大変お世話になりました。誠にありがとうございます。小樽大好きになりました！またいつか帰ってきます。

論文発表

執筆者・共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	発行年月
Teramoto A, Yamaguchi S, Amaha K, Saiga K, Noguchi K, Watanabe K	Characteristics of Nonunion After Arthroscopic Ankle Arthrodesis: A Multicenter Retrospective Cohort Study	Journal of Foot and Ankle Surgery	63 (2) 123-126	2024 March- April
織田 崇 近藤 弘基 山中 佑香 白戸 力弥 和田 卓郎	上腕骨内側上顆炎の鏡視下手術の治療成績における筋性起始部病変の影響	日肘会誌	30 338-340	2023年
科我 美紗 織田 崇 近藤 弘基 和田 卓郎 山下 敏彦	母指CM関節症に対するMini TightRopeを使用した関節形成術後に生じた第2中手骨骨折の1例	整・災外	66 1377-1381	2023年
大嶋 崇史 藤本秀太郎 織田 崇 寺本 篤史 山下 敏彦	Tillaux-Chaput結節の剥離骨片を伴う足関節果部骨折に対するスーチャーブリッジ法による内固定の短期成績	骨折	45 531-534	2023年
織田 崇 和田 卓郎	【上肢変形治癒骨折に対する矯正手術】 短縮骨切り術	関節外科	42 630-634	2023年
齋藤 駿太 京極 真	Occupational Engagement研究における国外文献と国内文献のギャップ調査	作業療法	42 (4) 452-459	2023年
坂本 勇太 齋藤 駿太	作業療法を拒否するクライアントの作業の可能化 マズローの欲求段階の視点から	作業療法の実践と科学	5 (4) 111-117	2023年

著書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
一島妃東美	リハ栄養診断推論を究める！ 誌上ケースカンファレンス vol.5	臨床栄養2023年5月号 (142巻5号)		710-720	令和5年 5月	医歯薬出版 株式会社
一島妃東美	コンビニ食を上手に用いた栄養 指導2023	Nutirtion Care2023年6月号 (16巻6 号)		66-67	令和5年 6月	メディカ 出版
一島妃東美	よくわかる論文の構成と書き 方 Introduction	「臨床栄養」別冊 現場発！管理栄養 士のための臨床研究Tips	西岡心大	77-81	令和5年 9月	医歯薬出版 株式会社
一島妃東美	回復期リハビリテーション病 棟の栄養管理各論 慢性呼吸 性肺疾患	回復期リハビリテーション病棟のた めの栄養管理ガイドブック	西岡心大 高山仁子 岡本隆嗣	202-203	令和6年 3月	医歯薬出版 株式会社
齋藤 駿太	作業療法参加型臨床実習のカ リキュラム例と実践手法	作業療法参加型臨床実習 その理念 と実践	佐藤善久	94-101	2023年	医歯薬出版 株式会社
山中 佑香	義肢・装具の支給体系とチー ムアプローチ 労災補償制度による筋電電動 義手支給の変遷と現在	15レクチャーシリーズ 作業療法テ キスト 義肢装具学	白戸力弥	174-178	2023年	中山書店

学会・研究発表

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者				学会名	発表年月日	場所(市町村)
診療部	母指CM関節症に対するsuture-button suspensionplastyの治療成績の推移と満足度との関連	加我 美紗	織田 山中 近藤 池田 和田	崇 佑香 弘基 康利 卓郎	小島 白戸 濱田 山下	希望 力弥 修人 敏彦	第66回日本手 外科学会学術 集会	令和5年 4月20日 ～令和5年 4月21日	東京
リハビリ テーション 室	棟尺骨遠位端開放骨折により、前腕回線制限が生じた症例	五嶋 渉	なし				北海道ハンド セラピー研究 会	令和5年 5月10日	オンライン
栄養管理 室	高齢の大腿骨近位部骨折患者における栄養状態と周術期食事摂取量に関する検討	一島妃東美	笠井 安達	一憲 秀樹	中山 祐子	第38回日本臨 床栄養代謝学 会学術集会		令和5年 5月10日	神戸市
栄養管理 室	回復期リハビリテーション病棟における胸椎・腰椎圧迫骨折患者の体重減少に関する背景因子の検討	西澤 一步	一島妃東美 中山 祐子	笠井 安達	一憲 秀樹	日本臨床栄養 代謝学会(令和 6年度に日本 栄養治療学会 へ名称変更)		令和5年 5月10日	兵庫県神戸市
診療部	骨接合plateを用いたAITFL augmentationと遠位脛腓間運動の生体力学的解析	高橋 克典	寺本 塩泡 神谷 渡邊	篤史 孝介 智昭 耕太	村橋 鍋城 山下	靖崇 尚伍 敏彦	第96回日本整 形外科学会学 術総会	令和5年 5月11日	横浜市
診療部	足関節内側靱帯損傷モデルにおける距腿関節運動の変化ー6 自由度ロボットシステムを用いた生体力学的研究ー	高橋 克典	寺本 塩泡 山下	篤史 孝介 敏彦	村橋 神谷 渡邊	靖崇 智昭 耕太	第142回北海 道整形災害外 科学会	令和5年 6月11日	札幌市
診療部	足関節内側靱帯各線維束の荷重分担ー6 自由度ロボットシステムを用いた生体力学的研究ー	高橋 克典	寺本 塩泡 山下	篤史 孝介 敏彦	村橋 神谷 渡邊	靖崇 智昭 耕太	第142回北海 道整形災害外 科学会	令和5年 6月11日	札幌市
リハビリ テーション 室	CMCEを用いたことで多職種連携と作業の可視化が図れた終末期のがん患者の事例	齋藤 駿太	なし				第53回北海 道作業療法学 術大会	令和5年 6月24日 ～令和5年 6月25日	恵庭市
リハビリ テーション 室	COVID-19病棟に転棟後、生活行為への介入により直接自宅退院に至った事例	阿部健太郎	山中 佑香	齋藤 駿太	第53回北海 道作業療法学 術大会		令和5年 6月24日 ～令和5年 6月25日	恵庭市	
リハビリ テーション 室	作業療法士がアドバンスケアプランニングに介入し短期間で自宅退院が可能となった事例	林 知代	山中 佑香	菊地未紗子	第53回北海 道作業療法学 術大会		令和5年 6月24日 ～令和5年 6月25日	恵庭市	
リハビリ テーション 室	コロナ禍における院内オンラインリハビリの取り組み	山中 佑香	高橋 靖明	林 知代	第53回北海 道作業療法学 術大会		令和5年 6月24日 ～令和5年 6月25日	恵庭市	
リハビリ テーション 室	運動恐怖が橈骨遠位端骨折掌側ロッキングプレート固定術後の短期成績に与える影響	高橋 靖明	山中 五嶋	佑香 渉	白戸 河村	力弥 結	第53回北海 道作業療法学 術大会	令和5年 6月24日 ～令和5年 6月25日	恵庭市
リハビリ テーション 室	橈骨遠位端骨折に合併したTFCC損傷の一次的修復術に対して作業療法を行った3症例	五嶋 渉	山中 佑香	白戸 力弥	第53回北海 道作業療法学 術大会		令和5年 6月24日 ～令和5年 6月25日	恵庭市	
リハビリ テーション 室	当院緩和ケア内科での外来リハビリテーションの介入	林 知代	山中 佑香 米田健太郎	菊地未紗子 加賀 潤輝	第28回緩和医 療学会		令和5年 6月30日 ～令和5年 7月1日	神戸市	
薬剤室	低血糖発作による救急搬送をきっかけに判明した認知機能低下・服薬インスリン実施率が低下した糖尿病のある人のライフステージに合わせた薬剤調整を行った一例	青木有希子	佐渡 早川 恵美子	望 権城 水越	泉 常德	第29回全国済 生会糖尿病セ ミナー		令和5年 8月19日	福井県福井市

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所(市町村)
栄養管理室	当院におけるNST介入の数値化と介入効果の検討	一島妃東美	西澤 一步 笠井 一憲 松村 真満 中山 祐子 安達 秀樹	第15回日本臨床栄養代謝学会北海道支部学術集会	令和5年 8月26日	札幌市
リハビリテーション室	橈骨遠位端骨折に第4, 5中手骨頸部骨折を合併した1例	高橋 靖明	五嶋 涉 河村 結 我彦 由樹 杉下 智香 白戸 力弥 山中 佑香	第9回手外科ハンドセラピー研究会	令和5年 9月2日	札幌市
看護部	地域包括ケア病棟の熟練看護師が医療ソーシャルワーカーと協働して社会資源を調整していくプロセス	林 裕美子	松原三智子	日本地域看護学会第26回学術集会	令和5年 9月2日～ 令和5年 9月3日	神奈川県 川崎市
診療部	腹腔鏡下胃全摘術後胆管結石症で腹腔鏡下胆管切石術し、10年後に結石再発した症例に対する再腹腔鏡下手術の経験	木村 雅美	田山 誠 片山 知也	第96回小樽市医師会会員研究発表会	令和5年 9月8日	小樽市
診療部	Biomechanical Analysis about Syndesmotic Stability for AITFL augmentation with fibular plate	Takahashi K	Teramoto A, Murahashi Y, Nabeki S, Shiwaku K, Kamiya T, Watanabe K, Yamashita T	54th American Orthopaedic Foot & Ankle Society Annual Meeting 2023	令和5年 9月20日	アメリカ ケンタッキー
医療支援室	終末期における全人的苦痛緩和ケアの1事例	福森 星輔	明石 浩史 藤原 大地	第36回日本サイコロロジー学会総会	令和5年 10月7日	奈良市
診療部	健常若年女性に生じたレンサ球菌性髄膜炎の1例	山本 彬広	藤倉 舞 平野理都子 林 貴士 松谷 学	第27回日本神経感染症学会学術大会	令和5年 10月12日	横浜市
診療部	足関節内側靭帯損傷モデルにおける距腿関節運動の変化ー6自由度ロボットシステムを用いた生体力学的解析ー	高橋 克典	寺本 篤史 村橋 靖崇 塩泡 孝介 神谷 智昭 山下 敏彦 渡邊 耕太	第38回日本整形外科学会基礎学術集会	令和5年 10月19日	茨城県 つくば市
診療部	足関節内側靭帯各線維束の荷重分担ー6自由度ロボットシステムを用いた生体力学的解析ー	高橋 克典	寺本 篤史 村橋 靖崇 塩泡 孝介 神谷 智昭 山下 敏彦 渡邊 耕太	第38回日本整形外科学会基礎学術集会	令和5年 10月19日	茨城県 つくば市
放射線科	膝関節腫瘍の鑑別	小野寺耕一		北日本放射線診断カンファランス	令和5年 10月20日	仙台市
診療部	足関節内側靭帯各線維束の荷重分担の生体力学的解析ー6自由度ロボットシステムを用いてー	高橋 克典	寺本 篤史 村橋 靖崇 塩泡 孝介 神谷 智昭 山下 敏彦 渡邊 耕太	第48回日本足の外科学会学術集会	令和5年 10月26日	大阪府大阪市
薬剤室	骨軟部感染症におけるゲンタマイシン局所高濃度灌流療法(iSAP/iMAP)での副作用に対する薬学的介入	一野 勇太	小野 徹 鈴木 景就 上野 誠子	第17回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2023	令和5年 10月28日	名古屋市
診療部	足関節内側靭帯損傷モデルにおける距腿関節運動の生体力学的研究ー6自由度ロボットシステムを用いてー	高橋 克典	寺本 篤史 村橋 靖崇 塩泡 孝介 神谷 智昭 山下 敏彦 渡邊 耕太	第50回日本臨床バイオメカニクス学会	令和5年 11月10日	兵庫県姫路市
リハビリテーション室	緩和ケア外来にてOTがアドバンスケアプランニングに参加した一事例	林 知代	山中 佑香 菊地未紗子	第57回日本作業療法学会	令和5年 11月11日～ 令和5年 11月12日	沖縄
リハビリテーション室	身体障害領域の高齢者における作業との結び付きに関する評価尺度の開発	齋藤 駿太	京極 真	第57回日本作業療法学会	令和5年 11月11日～ 令和5年 11月12日	沖縄
リハビリテーション室	橈骨遠位端骨折ロッキングプレート固定術早期の運動恐怖が短期成績に与える影響	白戸 力弥	五嶋 涉 河村 結 高橋 靖明 山中 佑香	第57回日本作業療法学会	令和5年 11月11日～ 令和5年 11月12日	沖縄

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所(市町村)
診療部	Biomechanical Analysis of Syndesmotic Stability for AITFL augmentation using fibular plate	Takahashi K	Teramoto A, Murahashi Y, Shiwaku K, Kamiya T, Watanabe K, Yamashita T	The 9th Meeting of Asian Federation of Foot and Ankle Surgeons	令和5年11月24日	台湾
臨床検査室	血小板減少を認めたマムシ咬傷の1例	岡本 晃光	嶋 優人 小林 拓真 木谷 洋介	第29回会員研究発表会	令和5年12月6日	小樽市
臨床検査室	令和5年度 北臨技サーベイ 精度管理報告会	岡本 晃光	なし	令和5年度ワークショップin小樽	令和6年1月27日	小樽市
診療部	Biomechanical Analysis of Load Sharing in Deltoid Ligament Using A 6 Degrees-of-freedom Robotic System	Takahashi K	Teramoto A, Murahashi Y, Shiwaku K, Kamiya T, Watanabe K, Yamashita T	69th Orthopaedic Research Society 2024 Annual meeting	令和6年2月6日	アメリカ ロングビーチ
診療部	腹腔鏡下胆管結石手術(胆管切開法)：切開孔処理は一期的閉鎖を基本とし、ときにTチューブ法も実施	木村 雅美	田山 誠 片山 知也 竹政伊知朗	第12回腹腔鏡下胆道手術研究会 主題2	令和6年2月17日	東京
リハビリテーション室	肘関節周辺外相術後の屈曲制限に対するSerial Static Splintの効果	山中 佑香	白戸 力弥 我彦 由樹 五嶋 渉 織田 崇 和田 卓郎	第36回日本肘関節学会学術集会	令和6年3月1日～ 令和6年3月2日	札幌市
診療部	高齢期に進行したDyke-Davidoff-Masson症候群の1例	山本 彬広	平野理都子 藤倉 舞 松谷 学 貴士 久原 真 林	第113回日本神経学会北海道地方会	令和6年3月2日	札幌市

講 義 (大学・専門学校他)

講師	講義テーマ	講義名	講義先	年月日	場所
安達 秀樹		疾病論Ⅳ 腎・泌尿器	小樽看護専門学校	2023年8月24日～10月4日 計6回	小樽市
菊地未紗子	コミュニケーションについて	第13回緩和ケア研修会	小樽市立病院	2023年11月11日	小樽市
小野寺耕一	中枢神経・頭頸部	放射線診断学	札幌医科大学医学部医学科3年	2023年4月25日	札幌市
織田 崇	作業療法治療学特論-手の外科療法と画像診断	リハビリテーション学	日本医療大学	2023年7月20日	札幌市
林 貴士	必須クリニカルクラークシップ選択クリニカルクラークシップ	作業療法学	北海道文教大学	2023年10月～12月 計9回	恵庭市
松谷 学	症候診断学 けいれん・不随意運動について	脳神経内科学講義脳神経内科学 総論	札幌医科大学4年	2023年6月21日	札幌市
松谷 学		脳神経内科学講義脳神経内科学 各論	北海道文教大学	2023年10月 計6回	恵庭市
松谷 学	成人看護学		看護学校	2023年8月21日 8月28日 9月4日	小樽市 (オンライン併用)
水越 常德		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2023年6月1日 2023年6月29日	恵庭市
明石 浩史	医療情報と標準化	応用医療情報学	札幌医科大学医学部医学科	2023年4月18日	札幌市
明石 浩史		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2023年6月13日 2023年6月20日	恵庭市
安丸 卓磨		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2023年7月13日 7月20日 7月27日 8月3日 8月10日	恵庭市
織田 崇	作業療法治療学特論-手の外科療法と画像診断	作業療法学	日本医療大学	2023年7月20日	札幌市

講演

演者	演題	講演会名	主催者	年月日	場所
福森 星輔	身寄りのない終末期緩和ケア対象者の事例	くらしにつながるカンファレンス	小樽地域包括ビジョン協議会	令和5年3月6日	オンライン
藤原 大地	2病院における緩和ケアの便秘治療の現状	緩和ケアにおける慢性便秘症を考えるZoom LIVE SEMINAR in 小樽	EAファーマ株式会社	令和5年4月6日	小樽市立病院
山本 彬広	アジョビの使用経験とアンケート調査を交えて	医療従事者のための頭痛セミナー		令和5年5月17日	小樽市ZOOM併用
中村 圭介	「薬剤師主体で行う病院での二次骨折予防～介入の要点と今後の展望～」	後志病院薬剤師会学術講演会	後志病院薬剤師会/北海道病院薬剤師会/旭化成ファーマ株式会社	令和5年5月26日	WEB開催
菊地未紗子	緩和ケア内科医の立場から	済生会!終活セミナー 人生のしまいかた 緩和ケアとは	済生会小樽病院	令和5年6月2日	小樽市
藤原 大地	心不全に対する緩和ケアチームの介入-ACPを含めて-	心不全緩和ケア講演会	大塚製薬株式会社/ノバルティスファーマ株式会社	令和5年6月19日	済生会小樽病院
藤原 大地	緩和ケアにおける便秘に対する看護ケア	生涯教育研修会	小樽薬剤師会	令和5年6月22日	ZOOM
菊地未紗子	コミュニケーション	第7回緩和ケア研修会	勤医協中央病院	令和5年8月19日	札幌市
明石 浩史		第14回函館五稜郭病院緩和ケア研修会	函館五稜郭病院	令和5年8月26日	函館市
和田 卓郎	Arthroscopic debridement for lateral humeral epicondylitis. Good indication and bad indication	Session Title LATERAL EPICONDYLITES: CURRENT CONCEPTS	第15回国際肩・肘外科学会	令和5年9月5日	イタリアローマ
菊地未紗子	高齢化社会における不眠症治療のポイント～転倒リスク予防、せん妄のリスク予防を考慮して～	不眠症Webセミナー	小樽医師会	令和5年9月28日	小樽市
浅田 孝章	当院における新卒看護師准看護師への教育体制	看護管理者懇談会	北海道看護協会	令和5年10月7日	小樽協会病院
笠井 一憲	(薬価)経腸栄養剤について	臨床栄養学実習	北海道文教大学学生	令和5年10月19日	小樽市
笠井 一憲	静脈栄養について	臨床栄養学実習	北海道文教大学学生	令和5年10月20日	小樽市
中村 圭介	「当院での二次性骨折予防における薬剤師の取り組み」	令和5年度全国済生会病院薬剤師会 北海道東北ブロックオンライン業務報告会	全国済生会病院薬剤師会 北海道東北ブロック	令和5年11月21日	WEB開催
織田 崇	肘内側痛を呈する病態と治療	主訴から考える疾患セミナー	第一三共株式会社	令和5年11月29日	宇都宮市Web併用
本間美穂子	透析看護	成人看護学Ⅳ腎・泌尿器看護	小樽看護専門学校2学年	令和5年12月11日	小樽
菊地未紗子	総合病院 精神科新設における実践～不眠・せん妄のリスク予防対策～	日本医師会生涯教育講座 睡眠マネジメントセミナー in 旭川	旭川市医師会	令和6年3月22日	旭川市

座 長

座長	学会・講演名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
白戸 力弥	第53回北海道作業療法学会	大会長	北海道作業療法士会	令和5年 6月24日～ 令和5年 6月25日	恵庭市
中村 圭介	第2回小樽FLS連携フォーラム	「小樽市における二次骨折予防の取り組み」「小樽市立病院の骨折予防への取り組み～行政を巻き込んだ地域多職種連携を目指して～」	旭化成ファーマ株式会社	令和5年 9月8日	ホテルノルド小樽 2階 [VENTANA]
織田 崇	第72回東日本整形災害外科学会	一般演題28 肘	東日本整形災害外科学会	令和5年 9月22日～ 令和5年 9月23日	旭川市
西澤 一步	日本メディカルダイエティシャン研究会 JMDS 2023 in札幌	1.「回復期の脊髄損傷患者の必要エネルギー量の検討」千葉県千葉リハビリテーションセンター 飯塚 祥太 2.「終末期誤嚥性肺炎患者におけるエネルギー摂取量の充足は、自宅退院と嚥下機能回復に関連する」日本海酒田リハビリテーション病院 小林 大樹 3.「重度低栄養を呈した大腿骨骨折患者の回復期における栄養管理と退院支援：症例報告」一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院 岡崎亜美伽 4.「食事摂取不良と低栄養を呈する認知症患者に対する多職種えいようサポートと経口摂取へのアプローチ：症例報告」一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院 高木 愛斗	日本メディカルダイエティシャン研究会	令和5年 9月23日 ～ 令和5年 9月24日	札幌
一島妃東美	日本メディカルダイエティシャン研究会 JMDS 2023 in札幌		日本メディカルダイエティシャン研究会	令和5年 9月23日 ～令和5年 9月24日	札幌
林 貴士	共に診る・脳神経疾患	脳卒中後てんかんのコントロール～当科の取り組み		令和5年 11月7日	小樽市 ハイブリッド
林 貴士	小樽脳卒中カンファレンス	脳血管内治療の進歩		令和5年 11月17日	小樽市 ハイブリッド
笹山 貴司	第9回北海道・東北臨床工学技士会	・2回以上/分の不適切アラームを要因分析と対策により68%削減! 真のアラームに! ・当院ICUにおいて個人用透析装置NCV-11の新規導入を経験して ・スポットチェックモニタ導入の取り組み	北海道臨床工学技士会	令和5年 11月19日	函館 アリーナ
織田 崇	第7回小樽健康寿命延伸フォーラム	大腿骨近位部骨折後の二次骨折予防-骨折リエゾンサービスの実際-	小樽健康寿命延伸フォーラム 小樽市医師会	令和5年 11月20日	小樽市
和田 卓郎	第38回東日本手外科研究会	一般演題11 肘 7 演題	東日本手外科研究会	令和6年 2月3日	東京都
菊地未紗子	日本医師会生涯教育講座 私の街の緩和ケア	多様化する在宅医療の現状と今後	小樽市医師会	令和6年 2月29日	小樽市
織田 崇	第36回日本肘関節学会	その他	日本肘関節学会	令和6年 3月1日	札幌市
菊地未紗子	第19回小樽病診連携カンファレンス	在宅緩和ケアのキモ～チームとACPそして少しだけ鎮静の話	済生会小樽病院	令和6年 3月12日	小樽市

認定資格

	名前	認定学会名	認定資格
診療部	近藤 真章	日本整形外科学会	専門医・認定脊椎脊髄病医・認定スポーツ医・リウマチ医
		日本スポーツ協会	公認スポーツドクター
		日本医師会	認定産業医
	和田 卓郎	日本整形外科学会	専門医
		日本手外科学会	専門医
		日本体育協会	スポーツドクター
		日本医師会	認定健康スポーツ医
			日本臨床研修指導医
	水越 常德	日本内科学会	総合内科専門医・認定医・指導医
		日本内分泌学会	指導医・専門医
		日本甲状腺学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本環境感染学会	インфекションコントロールドクター
		日本人間ドック学会	認定医
		日本医師会	認定産業医
			日本臨床研修指導医
	明石 浩史	日本内科学会	総合内科専門医・認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
			日本臨床研修指導医
	舩谷 治郎	日本内科学会	認定内科医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
	高田美喜生	日本病院会	病院総合医
	松谷 学	日本神経学会	指導医・専門医
		日本内科学会	総合内科専門医・指導医
		日本認知症学会	専門医・指導医
		厚生労働省	厚生労働省指定オンライン診療研修終了
		図書館法第6条規定	司書講習修了
			臨床研修医制度プログラム責任者 養成講習会終了
	林 貴士		日本臨床研修指導医
		日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医・総合内科専門医・指導医
		日本神経学会	指導医
			認知症サポート医
	藤倉 舞		日本臨床研修指導医
		日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医
		日本内科学会	総合内科専門医
	平野理都子	日本認知症学会	指導医・専門医
		日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医

	名前	認定学会名	認定資格
診療部	木村 雅美	日本外科学会	指導医・専門医
		日本消化器外科学会	指導医・専門医・消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定取得者
		日本消化器病学会	専門医・指導医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本乳がん検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医
			難病指導医
			日本臨床研修指導医
	田山 誠	日本外科学会	専門医
	片山 知也	日本外科学会	専門医・指導医
		日本消化器外科学会	専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定取得者
		日本大腸肛門病学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本乳がん検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医
	織田 崇	日本整形外科学会	専門医・脊椎脊髄病医
		日本手外科学会	専門医・指導医
		日本骨粗鬆学会	認定医
			日本臨床研修指導医
	濱田 修人	日本整形外科学会	専門医
	堀田 浩貴	日本泌尿器科学会	専門医・指導医
		I C D制度協議会	インфекションコントロールドクター
		日本性機能学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本医師会	認定産業医
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医
			日本臨床研修指導医
			臨床研修医制度プログラム責任者 養成講習会修了
	安達 秀樹	日本泌尿器科学会	指導医・専門医
		日本性機能学会	専門医
	菊地未紗子	日本精神神経学会	指導医・専門医
		日本サイコオンコロジー学会	登録精神腫瘍医
			日本臨床研修指導医
			精神保健指定医
		日本総合病院精神医学会	一般病院連携精神医学特定指導医認定
看護部	大橋とも子	日本消化器内視鏡技師会	内視鏡技師
		北海道病院協会・全日本病院協会	医療安全管理者
	金澤ひかり	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	伊藤 瑞代	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	兒玉真夕美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師

	名前	認定学会名	認定資格
看護部	高井奈津子	日本看護協会	慢性疾患看護専門看護師
		日本NP教育大学院協議会	診療看護師(NP) (プライマリ・ケア)
			・13特定行為区分 21行為 ・呼吸器(気道確保に係るもの)関連 ・呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連 ・ろう孔管理関連 ・栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理) 関連 ・栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連 ・創傷管理関連 ・動脈血液ガス分析関連 ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・感染に係る薬剤投与関連 ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連 ・循環動態に係る薬剤投与関連 ・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 ・皮膚損傷に係る薬剤投与関連
	石渡 明子	日本緩和医療学会	ELNEC-J指導者
		日本看護協会	緩和ケア認定看護師
		北海道看護協会	災害支援ナース
			看護師特定行為(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・循環動態に係る薬剤投与関連 ・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連)
	仙保 知子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	中山 祐子	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
	藤田真由美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	菊地麻衣子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	根布 実穂	日本看護協会	皮膚・排泄ケア認定看護師
			看護師特定行為(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・創傷管理関連)
	早川恵美子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	藤原 大地	日本緩和医療学会	ELNEC-Jコアカリキュラム指導者
		北海道看護協会	災害支援ナース
	五嶋 佳奈	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
	澤 裕美		感染抑制実践看護師
薬剤室	上野 誠子	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチ・ドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		都道府県知事	介護支援専門員
	鈴木 景就	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本緩和医療薬学会	麻薬教育認定薬剤師
	小野 徹	日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	日病薬病院薬学認定薬剤師
	一野 勇太	日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師

	名前	認定学会名	認定資格
薬剤室	笠井 一憲	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		都道府県知事	介護支援専門員
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本食品安全協会	健康食品管理士
		日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師
		日本薬剤師会	JPALS 認定薬剤師
		主催：熱中症予防声かけプロジェクト ／後援：環境省	熱中症対策アドバイザー
		日本食品安全協会	食の安全管理士
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師
	青木有希子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法准認定薬剤師
	中村 圭介	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本老年薬学会	老年薬学認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師
		日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー
	芦名 正生	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師
	佐渡 望	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
検査室	岡本 晃光	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	嶋 優人	日本不整脈心電学会	心電図検定2級
放射線室	松尾 覚志	日本医療情報学会	医療情報技師
		科学技術庁	第一種放射線取扱主任者
		日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
	舟見 基	日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
		日本放射線技師会	放射線管理士・放射線機器管理士
	久保田裕美	日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影認定技師
	高橋 志織	日本X線専門技師認定機構	X線C T 認定技師
		日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影認定技師
リハビリテーション室	髭内 紀幸	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
		3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
		日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
		国際統合リハビリテーション協会	I L P T プラクティショナー
	米田健太郎	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
		日本理学療法士協会	認定理学療法士(呼吸)
	花田 健	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
	廣田 正和	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
	齋藤 駿太	日本作業療法士協会	認定作業療法士
		CENTER FOR INNOVATIVE OT SOLUTIONS	AMPS 認定評価者
	武田 康弘	日本作業療法士協会	認定作業療法士
	髭内 朝美	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士

	名前	認定学会名	認定資格
栄養管理室	多田 梨保	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
	権城 泉	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本病態栄養学会	病態栄養認定管理栄養士
		日本病態栄養学会	病態栄養専門(認定)管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士
	一島妃東美	日本栄養士会	静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
		日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム(NST)専門療法士
		日本病態栄養学会	病態栄養専門管理栄養士
		日本臨床栄養代謝学会	周術期・救急集中治療専門療法士
	西澤 一步	日本臨床栄養代謝学会	NST専門療法士
臨床工学会	笹山 貴司	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		北海道病院協会	医療安全管理者
		日本医療メディエーター協会	認定医療メディエーター
	横道 宏幸	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		日本胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	奥嶋 一允	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	吉田 昌也	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		日本胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	今野 義大	日本医療機器学会	第2種滅菌技士
		北海道労働基準協会連合会	特定化学物質・四アルキル鉛等作業責任者
		日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	中村 友洋	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		透析療法合同専門委員会	透析技術認定士
	服部 淳貴	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	山内 揚介	厚生労働省	北海道DMAT
	及川 尚也	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	中野裕城子	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定

V 職員福利厚生会

■ 総 括

【総 括】

当会は職員の福利厚生の増進と職員相互の親睦を図ることを目的に平成15年4月に設立されました。毎年恒例であります小樽潮まつりでの練りこみ参加や、クラブ活動の運営補助、職員の医療費の補助などを行っており、今年度は初の試みである日本ハムファイターズの本拠地「Fビレッジ」観戦企画も人気でたくさんの職員が利用しました。倶知安町で行われた東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会では、北海道から2チームが参加し、東北の済生会チームと熱戦を繰り広げました。クラブ活動としては野球部、釣り部、自転車・陸上競技部があり、大会に出場したり、大海原でダイナミックな釣りをしたり、北海道ならではの活動を行いました。

【令和5年度実施行事】

6月18日(日) おたる運河ロードレース

参加人数：3名

7月 2日(日) 済生会ソフトボール大会(北海道倶知安)

参加人数：119名 選手参加：36名

7月13日(木) 新人歓迎会 参加人数：220名

7月29日(土) おたる潮まつりねりこみ

参加人数：88名

9月 2日(土) Fビレッジに行こう! 参加人数：50名

9日(土) Fビレッジに行こう!

12月21日(木) 忘年会 参加人数：276名

【クラブ活動】

●野球部 夏季・秋季朝野球大会他

●釣り部 小樽周辺・積丹沖での釣り他

●自転車・陸上競技部

RedBull400

ニセコHANAZONOヒルクライム他

文責 職員福利厚生会総務理事 清水 雅成



部 活 動

野 球 部

【メンバー】

看護師1名
臨床工学技士1名
理学療法士12名
言語聴覚士1名

【活動内容・報告・成績等】

春季大会 ベスト4

5月19日公式戦（さとしーず）	3-0勝ち
5月31日公式戦（小樽マスターズ倶楽部）	0-2負け
6月11日公式戦（小樽朝野球協会）	7-0勝ち
6月22日公式戦（ボンバーズ）	7-4勝ち
7月 5日公式戦（クロム）	1-6負け

秋季大会 優勝！！

8月23日公式戦（ボンズ）	8-1勝ち
9月 5日公式戦（小樽マスターズ倶楽部）	4-3勝ち
9月20日公式戦（クロム）	4-0勝ち
9月28日公式戦（ユニティーズ）	4-1勝ち

その他 練習試合（計1回）

【野球部よりひとこと】

今年度は春季大会、秋季大会に参加しました。結果は9戦7勝と前年度全敗から好成績を収めることができました。昨年度より各々が楽しく野球をすることに努めた結果、成績がついてきました。少ない人数で試合することもありましたが大きなケガもなく活動を終えることができました。ソフトボール大会も優勝&全国大会出場を目指して頑張りますので、応援よろしくお願いします。

文責 リハビリテーション室 中田 和希



釣 り 部

【メンバー】

リハビリテーション室15名
地域連携室1名
看護助手1名（計17名）

【活動内容・報告・成績等】

R5年

・ 4.1～30	小樽港	ヤリイカ釣り	5名
・ 5.2	積丹	サクラマス釣り	2名
・ 5.14	積丹沖	サクラマス釣り	3名
・ 7.8	積丹沖	ブリ釣り	2名
・ 7.22	小樽沖	ソイ釣り	3名
・ 8.15	小樽港	ハゼ釣り	6名
・ 9.16～17	積丹半島	釣り大会	1名
・ 9.19	網走沖	サケ釣り	2名
・ 9～10	小樽周辺	サケ釣り	5名
・ 10～12	小樽港	マメイカ釣り	8名
・ 11.6	積丹沖	ブリ釣り	2名

R6年

・ 1.27.28	恵山沖	サクラマス釣り	2名
・ 2.15	石狩	ワカサギ釣り	4名
・ 3.1	古平港	ホッケ釣り	2名
・ 3.12	室蘭沖	宗八釣り	1名
・ 3.26	積丹沖	サクラマス釣り	3名

部員の小島さやかさんが2020年1月より、週間釣り新聞ほっかいどう「つりしん」にて“tsurikatsu”というページで、月1回の執筆を継続しています。

【釣り部よりひとこと】

毎年恒例、年度初めはサクラマス・ホッケ釣りから始まり、アブラコ、ソイ、ブリ、イカなど多魚種を釣ることができました。近年、日本海・積丹周囲のイワシの発生により、それを捕食する魚類が美味しくなり、春先のホッケは非常に脂が乗って最高の肴でした。ホッケ、サケ、イカなど、「食べたい!!!」というリクエストを多々頂き、その都度、寝る間も惜しみつつ、早朝からサケ釣り、夜はイカ釣り、釣った後の処理をしてから提供するなど、楽しくもハードスケジュールな“釣り部フードバンク”を活動していました。

令和5年度は天候に恵まれないことが多く、マグロ釣りは5回時化によりキャンセル。コロナが明けたので、次年度はマグロパーティーを開催できるように頑張ります。

文責 リハビリテーション室 小島 希望



自転車・陸上競技部

【メンバー】

理学療法士 5名

作業療法士 1名

【活動内容・報告・成績等】

5月14日 ノーザンホースパークマラソン
1名出場 完走

5月20日 Red Bull 400 一般男子部門
3名出場 完走

6月18日 ニセコクラシック 一般男子部門
1名出場 完走

8月 6日 ニセコHANAZONOヒルクライム
3名出場 完走

8月27日 北海道マラソン 3名出場 完走

【自転車・陸上競技部よりひとこと】

昨年度と同様に、感染状況に留意しながら上記の様々なレースやイベントに出場させていただきました。40代のスタッフも多いですがフルマラソン完走など健康管理に余念がありません。

来年度は他部署からの部員増加などの開拓を目指して勧誘を継続しております。少しでも大会での好成績や病院の宣伝ができるよう努めていきます。

文責 リハビリテーション室 神田 充博



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

所 長	和田 卓郎（病院長）
スタッフ	11名（保育士4名 看護師1名 保育補助6名）
保育所面積	222.64㎡
定 員	40名
保育対象年齢	0歳～小学校就学前
開所時間	8時～19時（月～金曜日、第2土曜日（祝日・病院休日を除く））

【年間行事実績】

8月 夏祭り
10月 ハロウィン
12月 クリスマス会
1月 お楽しみ発表会
2月 豆まき
3月 お別れ・進級おめでとう会
☆お誕生会、避難訓練、身体測定を毎月実施

【今後の目標】

保育目標「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちが怪我なく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。

子どもたちとともに

保育士 梶 ひろみ

なでしこキッズをご利用の保護者の皆様には、ご理解とご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。

子どもたちは毎朝、大好きなお父さんお母さんと離れると、自分で好きな遊びを見つけたり友達や先生と遊びながら、保育所で生活をしています。

保育所では季節の行事や遊びを取り入れながら、そ

の時々で過ごし方を工夫しています。友だちと一緒にご飯やおやつをともに食べ、お昼寝をし、遊ぶ。それぞれの年齢に応じた様々な遊びを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさ（人間関係）を味わい、やってみよう（意欲）・楽しかった（達成感）という気持ちを育み、生活や学びの基礎となるような保育を心がけています。乳幼児期の育ちを支え、促す場として、保育所では、子どもたちが日々安全に、また安心してのびのびと過ごすことができるよう、生活や遊びの環境づくりや援助を行っています。私たち保育士も子どもたちとともに育っていけたらと思います。

娘の成長

リハビリテーション室 伊藤 大登・景

私たちには2歳の娘がおり、1歳になる少し前から現在まで保育園を利用させて頂いています。

登園初日から泣くことなく保育園に行き、お迎えに行くと周囲の子どもたちに混ざり、先生に教えてもらわないと探すことが大変なほどに馴染んでいました。それでも最初の頃は保育園から帰ると甘えて離れないこともあり、私たちが仕事をしている間、娘なりに頑張ってくれているのだと感じる事もありました。それでも娘が保育園に行くのを嫌がることはこれまでほとんどなく、保育園の先生方がとても丁寧に接してくれているのだと先生方には大変感謝しています。

保育園に通って1年以上が経ちましたが、今ではすっかりお姉さんのような立ち振る舞いを見せる場面も増えました。家では見たことのないアニメのキャラクターや知らない歌を口ずさみ、話す言葉やおもちゃ遊びのバリエーションがとても豊富になったりと様々な年齢層のお友達と接する保育園

でたくさん刺激を受けているのだと成長を感じます。先生方から毎日の連絡ノートで娘の保育園での様子を教えていただき、家とは違う娘の姿を知ることが楽しみの1つです。一緒にノートを見ていると先生やお友達の名前を挙げ、今日したことなどを帰りの道中でずっとお話ししてくれます。楽しかった思い出などを私たちに一生懸命伝えようとしてくれる姿がまた愛おしく感じます。

今後も限られた時間の中でも娘の成長をしっかりと見届けていきたいと思っています。



お祭りわっしょい

彼女の自立

栄養管理室 栗田 靖子

我が家では休日明け前日、娘に『明日は保育園に行く日だよ』と伝えるようにしています。そう伝えると、ニコッと笑って『ほいくえん？うん、いく！』と返してくれ、保育所が彼女にとって楽しくて嬉しい場所となっていることがよく分かります。

娘は、私の育児休暇明けの1歳から保育所にお世話になっており、あっという間に1年3ヵ月、毎日ニコニコ通っています。もちろん、最初の1ヵ月は毎朝離れる時に毎日泣いていましたが、（それでもお弁当は完食していました笑）2ヵ月、3ヵ月と経ち先生に抱っこしてもらって安心している姿を見て、保育所を自分の居場所と認識しているんだなあ、と感じまし

た。1歳でまだまだ赤ちゃんと思っていましたが、気付けばすでに生活している大半の時間を母親の手元を離れ、保育所先生方のお世話の元で「自分の時間」を過ごしていることに気が付きました。これはある意味、『彼女の自立』なのでは…？と感慨深いものがありました。

最近は「なあべえなあべえ～」と歌って私の周りを回ったり、写真を見てお友達の名前を言ったり、完食した空のお弁当を見せてくれるなど、保育所での時間は彼女にとってとても大きな成長に繋がっていることを感じます。とはいえ、自立の時間と甘える時間、両方が必要な2歳。このエッセイを書きながら、甘えられる時間も大切にしよう、と思い直しています。彼女とはこれからも長いお付き合いになるでしょうし、そう願っています。こと、よろしくね。そして、保育所の先生方、いつもお世話になっております、これからも“劇団こと”をよろしくお願いいたします。



↑ 1歳の夏祭り 先生におんぶで参加



↑ 2歳の夏祭り
みんなと山車を引っ張りました

売店・食堂

ハマナスクラブ

病院棟 1階

営業時間

月～金：8：00～16：00

土日祝：8：00～13：30

食料品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広く品揃えております。ハマナスクラブはセイコーマートの系列ですので、店内にはセイコーマート商品も陳列されております。



職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11：00～14：00

全42席（コロナの為間引き）

管理棟2階にある職員食堂では、日替わりランチから麺類、カレーなどリーズナブルなメニューをとり揃えており、定期的に行なわれるイベント食は、いつも完売します。

文責 経理課用度購買グループ 木村 卓司



あ と が き

当院の年報をお読みいただき、ありがとうございます。

2023年度の大きなニュースは、2020年から世界を震撼させてきた新型コロナウイルス感染症が第8波の感染症の流行期を乗り越え、やっと5類に移行したということだと思います。年報のエッセイや各部署の報告でも、行事の再開やプライベートの旅行の話題などが多く見られます。

当院では2020年度から新型コロナウイルス感染症専用病棟を開設し、継続して入院患者対応を行い、外来ではプレハブ施設での発熱外来や集団ワクチン接種など、積極的に地域医療に貢献してまいりました。面会制限や感染症対応など様々な制限などがある中でも、職員一同、患者さまに寄り添った最善の医療の提供を目指して日々奮闘し、多職種が協働して医療を提供することの大切さを改めて実感することも多くありました。この経験を忘れることなく、理念の一つである「地域とともに歩む病院」として、今後も地域に貢献してまいりたいと思います。

末尾になりましたが、1年間の皆様からのご支援とご協力に感謝いたします。

文責 看護部次長 中川 尚美

済生会小樽病院年報 令和5年度(2023年度)

発行者 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部北海道済生会小樽病院
病院長 和田 卓郎
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134) 25-4321 FAX (0134) 25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

年報作成委員会

責任者 五十嵐浩司

委員長 蝦名 哲行

副委員長 松尾 覚志

委 員 平塚 渉、堀 博一、吉田真知子
佐野 舞、菅原 充晴、石橋 慶悟、
川畑 有香、山崎 淳、定 淳史

印刷所 株式会社 北診印刷
TEL (011) 818-7770

